

四 集配期間
五 接續期間

發送期間ハ左ノ各號ニ依ル
一 毎日發航スル場合ニ於テハ託送手荷物又ハ運送品ヲ運送ノ爲受取りタル日及其ノ翌日ヲ以テ之ニ充ツ
二 前號以外ノ場合ニ於テハ託送手荷物又ハ運送品ヲ運送ノ爲受取りタル日ヨリ起算シ次ノ發航日迄ノ日數ヲ以テ之ニ充ツ但シ次ノ發航日迄ノ日數ガ前號ノ期間ニ滿タザルトキハ第二次ノ發航日迄ノ日數ヲ以テ之ニ充ツ
輸送期間ハ五十海里迄毎ニ一日トス
陸揚期間ハ船舶ガ最後ノ運送機關タル場合ニ限り之ヲ設ケ一日トス
集配期間ハ船舶ノ發着所以外ノ場所ニ於テ託送手荷物又ハ運送品ノ受取又ハ引渡ヲ爲ス場合ニハ其ノ各ニ付一日トス
接續期間ハ船舶ガ鐵道又ハ他ノ船舶ヨリ引繼ヲ受クル場合ニハ第二項ノ規定ヲ準用シ、船舶ガ鐵道又ハ他ノ船舶ニ引繼ヲ爲ス場合ニハ之ヲ一日トス

第五條 鐵道營業法第十三條第一項但書ノ準用ニ關シテハ

前項ノ支拂ハ荷送人並總テノ鐵道及船舶ニ對シテ之ヲ爲シタルモノトス

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律

(明治四十五年四月法律第十三號)

第一條 鐵道又ハ船舶カ主務大臣ノ認可ヲ得タル契約ニ依リ露國ノ鐵道又ハ船舶ト物品ノ聯絡運送ヲ爲ス場合ニ於

別表(略)
本令ハ昭和四年法律第三十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

テハ本法ニ依ル

第二條 鐵道營業法第五條乃至第九條ノ規定ハ船舶ニ之ヲ準用ス但シ運送品ノ發送ハ運送申込ノ順序ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條 運送契約ハ鐵道又ハ船舶カ運送ヲ爲スコトヲ約シ荷送人ヨリ運送品及運送狀ヲ受取ルニ因リテ其ノ効力ヲ生ス
鐵道又ハ船舶カ運送契約ヲ爲シタルトキハ荷送人ニ運送狀ノ副狀ヲ交付スヘシ
運送狀及運送狀ノ副狀ニ記載スヘキ事項及其ノ記載ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 運送狀、貨物引換證及船荷證券ニ關スル商法ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五條 鐵道又ハ船舶ノ使用人ハ運送狀ノ作成ニ付テハ荷送人ノ代理人ト爲ルコトヲ得

第六條 特定ノ者ニ對シ運送貨ノ割引ヲ爲ス特約ハ之ヲ無効トス但シ總テノ鐵道及船舶ノ合意ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 運送品及運送狀ヲ受取リタルトキハ荷受人ハ運送狀ニ記載シタル金額ヲ鐵道又ハ船舶ニ支拂フ義務ヲ負フ

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律

前項ノ支拂ハ荷送人並總テノ鐵道及船舶ニ對シテ之ヲ爲シタルモノトス

第八條 鐵道又ハ船舶ハ運送品ヲ受取リタル旨ヲ記載シタル運送狀ノ副狀及運送狀ニ記載シタル金額ト引換ニ非サレハ運送品ヲ荷受人ニ引渡スコトヲ要セス但シ運送狀ノ副狀ヲ紛失シタル場合ニ於テ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依リ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 運送品引渡ニ關スル手續ニ付テハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依ル

第十條 運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損ニ關シテハ鐵道又ハ船舶ハ直ニ運送品ノ狀態並損害ノ原因額及發生時期ヲ證スル書面ヲ作成スヘシ運送契約ニ基キ運送品ニ付權利ヲ有スル者カ運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損アルコトヲ主張スルトキ亦同シ

前項ノ書面ニ記載シタル事項ハ請求ニ因リ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條 荷受人ハ損害ノ調査ノ完了スル迄運送品ノ受取ヲ拒ムコトヲ得

第十二條 運送狀ニ掲ケタル物品中不足アルトキハ荷受人

ハ運送品受取ノ際鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ證スル書面ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十三條

鐵道又ハ船舶ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リ且運送貨其ノ他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 荷受人カ鐵道又船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ損害ノ生シタルコトヲ證明シタルトキ

二 荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ第十

六條第二項ノ鐵道又ハ船舶ノ一ニ對シ延著ニ關スル損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

三 荷受人カ第十條第一項ノ規定ニ依リテ證明セラレタル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

四 鐵道又ハ船舶カ第十條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ調査ヲ其ノ過失ニ因リ爲ササリシ運送品ノ一部滅失又

ハ毀損ニ付荷受人カ損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

五 荷受人カ直ニ發見スルコト能ハサル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ但シ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ鐵道又ハ船舶ニ對シ一部滅失又ハ毀損ノ通知ヲ發シタルトキニ限ル

又ハ船舶ニ對シ之ヲ主張スルコトヲ得

第十七條

引渡期間滿了後三十日內ニ運送品ノ引渡ナキトキハ運送品ハ滅失シタルモノト推定ス

第十八條

鐵道又ハ船舶カ運送品ノ副狀ノ呈示ヲ荷受人ニ請求セスシテ其ノ指圖ニ從ヒタルトキハ鐵道又ハ船舶ハ運送品ノ副狀ヲ所持スル荷受人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第十九條

滅失シタル運送品ニ對スル賠償金ヲ受取リタル者其ノ受取證書中ニ運送品カ引渡期間滿了後四月內ニ發見セラレタル場合ニ於テ直ニ鐵道又ハ船舶ヨリ通知ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタルトキハ其ノ通知ヲ受クル權利ヲ有ス鐵道又ハ船舶ハ此ノ記載ヲ證スル書面ヲ交付スヘシ運送品カ發見セラレタルトキハ前項ノ權利者ハ賠償金ヲ返還シテ發送驛若ハ發送港又ハ到達驛若ハ到達港ニ於テ無償ニテ運送品ヲ引渡スヘキコトヲ請求スルコトヲ得但シ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條

鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタル運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ハ三年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十四條

運送品カ到着驛又ハ到着港ニ達シタル後稅關、保稅倉庫又ハ假置場ニ之ヲ引渡シタルトキハ其ノ後ニ生シタル運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責ニ任セス荷受人トノ間ニ於ケル契約ノ定ムル所ニ依リ私設倉庫ニ引渡シタルトキ亦同シ

第十五條

惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル運送品ノ滅失毀損又ハ延著ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ特約ハ荷受人ニ對シ及荷受人ノ爲ニ其ノ効力ヲ生ス

第十六條

運送契約ヲ爲シタル鐵道又ハ船舶並運送狀ト共ニ運送品ノ引繼ヲ受ケタル鐵道及船舶ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

前項ノ損害賠償ノ請求ノ訴ハ運送契約ヲ爲シタル鐵道若ハ船舶、最後ニ運送狀ト共ニ運送品ノ引繼ヲ受ケタル鐵道若ハ船舶又ハ損害ヲ生セシメタル鐵道若ハ船舶ノ一ニ對シテノミ之ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ損害賠償ノ請求ハ本訴カ同一ノ運送契約ニ基ク場合ニ於テハ反訴又ハ相殺ノ抗辯ニ依リ前項以外ノ鐵道

第二十一條

損害賠償ノ請求權ノ消滅時効ハ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡ノ日ヨリ運送品ノ全部滅失又ハ延著ノ場合ニ於テハ引渡期間滿了ノ日ヨリ進行ス

第二十二條

運送貨又ハ附帶料金ノ不足額追徵ノ請求權ハ運送貨又ハ附帶料金ノ支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

割増金徵收ノ請求權ハ運送貨支拂ノ日ヨリ、支拂フヘキ運送貨ナキトキハ運送契約ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

運送貨、附帶料金又ハ割増金ノ過徵額返還ノ請求權ハ過徵額支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二十三條

鐵道又ハ船舶ニ對スル運送貨又ハ附帶料金ノ過徵額返還ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ前項ノ書面ニ記載スヘキ事項及之ニ添附スヘキ書類ハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依ル

第二十四條

運送貨若ハ附帶料金ノ不足額ノ追徵又ハ其ノ過徵額ノ返還ノ請求權、割増金ノ徵收又ハ返還ノ請求權及運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求

權ニ付テハ書面ヲ以テ請求ヲ爲シタル時ヨリ時効ノ進行ヲ停止ス

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ書面ヲ以テ拒絕ノ旨ヲ通知シ且請求書ニ添附シタル書類ヲ返還シタルトキハ其ノ通知及返還ノ時ヨリ殘餘期間ニ付時効ハ進行ス再請求ヲ爲スモ時効ノ進行ヲ停止セス

第二十五條 鐵道又ハ船舶ニ對スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ民法第四百五條及第五百八條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 運送契約ニ基ク裁判上ノ請求ニシテ鐵道又ハ船舶ニ對スルモノハ荷送人又ハ荷受人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 聯絡運送ニ關スル訴訟ニ付テハ民事訴訟法第八十八條第一項ノ規定ヲ適用セス

第二十八條 鐵道又ハ船舶カ他ノ鐵道又ハ船舶ヲ共同被告トシ聯絡運送ニ基ク損害賠償ノ求償ノ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ同一ノ判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

第二十九條 聯絡運送ニ關シテ露國裁判所ノ爲シタル判決ノ執行判決ニ付テハ民事訴訟法第五百十五條第二項第五號ノ規定ヲ適用セス

第三十條 第八條但書、第九條及第二十三條第二項ノ規程

ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ告示スヘシ

第三十一條 本法ニ於テ裁判所ト稱スルハ裁判權ヲ行フ官廳ヲ謂フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道船舶郵便法

(明治三十三年三月
法律第五十六號)

改正 昭和六年三月
法律第五號

第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ地方鐵道法ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若ハ改築ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及ビ建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積以內ノ郵便車ヲ聯結スベシ

船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スベシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコトヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ズ

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應ジ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スベシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スベシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外他ノ郵便車ヲ連結シ

鐵道船舶郵便法

鐵道船舶郵便法

鐵道船舶郵便法

通常客車ヲ其ノ代用ニ供スベシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラザル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スベシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發着時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スベシ但シ天災其ノ他避クベカラザル事故ノ爲發着時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スベシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ其ノ供給スル容積ニ應ジ當該鐵道運送業者ノ定メタル最低等級旅客一キロメートル運賃ノ左ノ割合ニ依ル

- 八 立方メートル迄 一キロメートル毎ニ 十割以内
 - 十四立方メートル迄 一キロメートル毎ニ 二十割以内
 - 二十立方メートル迄 一キロメートル毎ニ 三十割以内
 - 二十八立方メートル迄 一キロメートル毎ニ 五十割以内
 - 二十八立方メートルヲ超過シタルトキハ全容積ニ對シ
 - 三立方メートル迄ニ付一キロメートル毎ニ六割以内
- 郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 郵便車ニ依ラズシテ郵便物ヲ運送セシムル場合ニ於ケル

運送料金ハ當該鐵道運送業者カ其ノ運送方法ニ付定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以內トス

郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スベキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚スベシ

天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同ジ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スベキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラザル場合ニ限り直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スベシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應ゼザル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ第七條ノ要求ニ應ゼザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應ゼザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應ゼザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應ゼザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十九條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者ガ第十四條乃至第十八條ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ各本條ノ刑ニ處ス

第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令ニ依ル

本法ハ明治三十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正五年法律第十八號)

室ニ搭乘スベキ郵便取扱員及監視員ハ制服ヲ著シ又ハ搭乗證ヲ携帯スル者ニ限ル

鐵道監査員、鐵道係員又ハ船員ハ其ノ職務執行上必要ナル場合ニ限り郵便車室又ハ郵便船室内ニ出入スルコトヲ得

第五條 鐵道船舶郵便法第六條ニ依リ郵便官署ノ要求ニ應ジ必要ナル設備及維持ヲ爲サントスルトキハ運送業者ハ豫メ工事仕様書並經費豫算書ヲ提出シテ其ノ承認ヲ受クベシ

第六條 郵便物ヲ運送スル船舶ニシテ發著日時ヲ定メタルモノ其ノ日時ヲ變更スルトキハ船舶運送業者ハ五日以前ニ之ヲ當該郵便官署ニ報告スベシ但シ天災其ノ他避ク可カラザル事故ノ爲メ發著日時ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スベシ

第七條 一列車若ハ一船舶ニ於ケル郵便車室又ハ郵便船室ハ郵便官署ノ許可ヲ得ルニ非レバ二箇所以上ニ分離スルコトヲ得ズ

第八條 郵便車室及郵便船室ノ位置ハ特ニ郵便官署ノ指定ナキモノト雖モ常ニ之ヲ一定スベシ但シ正當ノ事由アル場合ハ此限ニ在ラズ

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便規則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
輕便鐵道法第八條ハ之ヲ制ル

附 則 (昭和六年法律第五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治三十三年九月) 逓信省令第四十四號

改正 昭和六年七月 省令第二十七號

第一條 鐵道船舶郵便法ニ依リ運送スベキ郵便物ニハ現ニ郵便物運送ノ用ニ供スル必要物件ヲ包含ス

第二條 運送業者ノ郵便物運送及授受ニ關スル取扱方法並運送業者ニ交付スベキ金額ノ仕拂方法ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第三條 郵便物ヲ運送スベキ區域度數時刻列車並郵便車室又ハ郵便船室ノ容積及ビ郵便物ノ受渡局ハ郵便官署ノ指定スル所ニ依ル

第四條 鐵道船舶郵便法第五條ニ依リ郵便車室又ハ郵便船

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

鐵道船舶郵便法・鐵道船舶郵便規則

第九條 郵便車室及郵便船室ノ容積ハ各其ノ區畫障壁ノ内容積ヲ謂フ

郵便車室ノ容積ハ床板面ヨリ屋根板(天井アルモノハ天井板)ノ側ト相接スル線迄ノ高サニ依リ算定ス

第十條 郵便官署ヨリ郵便車室ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道船舶郵便法第十條ニ依リ鐵道運送業者ニ交付スベキ金額ハ同法第十條第一項ノ容積ニ應ズル最高料金ノ九割五分以内トス

第十一條 船舶運送業者ニ交付スベキ運送料金ハ其ノ供給スル容積ニ應ジ左ノ割合ニ依ル

- 三立方メートル迄 一海里毎ニ 金三錢五厘以内
- 六立方メートル迄 一海里毎ニ 金四錢九厘以内
- 九立方メートル迄 一海里毎ニ 金六錢三厘以内
- 十二立方メートル迄 一海里毎ニ 金七錢九厘以内
- 十五立方メートル迄 一海里毎ニ 金九錢八厘以内
- 十八立方メートル迄 一海里毎ニ 金十一錢八厘以内
- 二十一立方メートル迄 一海里毎ニ 金十三錢八厘以内
- 二十四立方メートル迄 一海里毎ニ 金十六錢 以内
- 二十七立方メートル迄 一海里毎ニ 金十八錢三厘以内
- 三十立方メートル迄 一海里毎ニ 金二十錢八厘以内

三十三立方メートルヲ超過シタル場合ニハ其ノ全容積ニ對シ三立方メートル迄ニ付一海里ニ付金二錢一厘以内

第十二條 郵便官署ニ於テ特別ノ條件ヲ附シタルトキハ前條ノ料金率ヲ増加スルコトアルベシ

第十三條 第十一條ノ運送料金ハ鐵道船舶郵便法第十三條ノ場合ノ外船舶運送業者ニ於テ郵便官署ト船舶間ニ郵便物ヲ運送スル場合ノ費用ヲモ包含ス若陸上ノ遞送距離四キロメートルヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ陸路遞送ノ實費ヲ支給ス

第十四條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便物ヲ搭載シタル鐵道列車又ハ船舶ニシテ天災事變ニ遭遇スルトキハ郵便官署又ハ郵便取扱員ノ要求ニ依リ列車又ハ船舶ニ郵便物ヲ搭載ノ儘保管シ又ハ他ノ貨物ニ先チ其ノ指定ノ地ニ送達スベシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十五條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者第二條又ハ第三條ニ依リ郵便官署ノ指定ニ違反シタルトキ又ハ第六條乃至第八條ニ違反シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ第十四條ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

船舶輸入許可規則

(昭和八年六月) 朝鮮總督府令第六十號

改正 昭和八年九月 府令 第百號

第一條 船舶ヲ輸入又ハ移入セントスル者ハ當分ノ内朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ當該船舶ニ付左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

- 一 種類及名稱
- 二 國籍及所有者ノ氏名又ハ名稱
- 三 總噸數
- 四 機關ノ種類
- 五 速力
- 六 製造年月
- 七 製造者ノ氏名又ハ名稱
- 八 使用ノ目的
- 九 購入見込價格

船舶輸入許可規則(朝鮮)

十 輸入又ハ移入ノ豫定期日

十一 船舶ノ所在地

第三條 朝鮮總督ハ第一條ノ許可ヲ爲スニ當リ條件ヲ附スルコトアルベシ

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者船舶ヲ輸入又ハ移入シタルトキハ遲滯ナク其ノ賣買契約書寫ヲ添附シ輸入又ハ移入ノ年月日ヲ朝鮮總督ニ届出ツベシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督府通信局長ヲ經由スベシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケズシテ船舶ヲ輸入又ハ移入シタル者
- 二 第二條ノ申請書ニ虛偽ノ事實ヲ記載シタル者
- 三 第三條ノ規定ニ依リ附シタル許可ノ條件ニ違反シタル者
- 四 第四條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

船舶ニ依ル阿片運送取締規則

(昭和五年十月) 朝鮮總督府令第八十七號

第一條 日本船舶ハ左ノ各號ノ一ニ掲グル場合ヲ除クノ外阿片ノ運送ヲ爲スコトヲ得ズ

一 朝鮮、内地、樺太、臺灣、關東州及南洋群島相互間ノ運送ニ付テハ當該官憲ガ輸移出入スルトキ又ハ輸移出入ヲ許可シタルトキ

二 國際運送ニ付テハ仕出國及仕向國當該官憲ガ輸出入スルトキ又ハ輸出入ヲ許可シタルトキ

三 國內運送(第一號ノ場合ヲ除ク)ニ付テハ其ノ國ガ所持、授受又ハ運送ヲ違法ト爲サザルトキ

第二條 前條ノ規定ニ依リ外國(一國又ハ數國間)ニ於テ阿片ノ運送ヲ爲シタルトキハ船長ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ陸揚港所轄帝國領事館ヲ經テ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ヅベシ

一 船舶ノ名稱、總噸數及船籍港

二 船舶所有者並ニ船長ノ住所及氏名若ハ名稱

三 阿片ノ種類及數量

四 船積港及陸揚港

五 船積及陸揚ノ年月日

六 荷送人並ニ荷受人ノ住所及氏名若ハ名稱

前項ノ規定ニ依ル届書ニハ當該阿片ノ運送ガ適法ナルコトヲ證明スル書類ヲ添付スベシ

第三條 船舶所有者又ハ船長第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 船長第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 本令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人ニ、船舶借入ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用シ船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ

其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶輸入許可ニ關スル件

(昭和八年七月) 臺灣總督府令第九十六號

船舶運輸許可ニ關シテハ昭和八年遞信省令第十八號船舶輸入許可規則ニ依ル但シ同省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶ニ依ル阿片運送取締規則

(昭和六年三月) 臺灣總督府令第十五號

第一條 臺灣ニ船籍ヲ有スル日本船舶ハ左ノ各號ノ一ニ掲グル場合ヲ除クノ外阿片ノ運送ヲ爲スコトヲ得ズ

一 臺灣、内地、樺太、朝鮮、關東州及南洋群島相互間ノ運送ニ付テハ當該官憲ガ輸移出入スルトキ又ハ輸移出入ヲ許可シタルトキ

二 國際運送ニ付テハ仕出國及仕向國當該官憲ガ輸出入スルトキ又ハ輸出入ヲ許可シタルトキ

三 國內運送(第一號ノ場合ヲ除ク)ニ付テハ其ノ國ガ所持、授受又ハ運送ヲ違法トセザルトキ

第二條 前條ノ規定ニ依リ外國(一國又ハ數國間)ニ於テ阿片ノ運送ヲ爲シタルトキハ船長ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ陸揚港所轄帝國領事館ヲ經テ遲滯ナク其ノ旨臺灣總督ニ届出ヅベシ

一 臺灣、内地、樺太、朝鮮、關東州及南洋群島相互間ノ運送ニ付テハ當該官憲ガ輸移出入スルトキ又ハ輸移出入ヲ許可シタルトキ

二 國際運送ニ付テハ仕出國及仕向國當該官憲ガ輸出入スルトキ又ハ輸出入ヲ許可シタルトキ

三 國內運送(第一號ノ場合ヲ除ク)ニ付テハ其ノ國ガ所持、授受又ハ運送ヲ違法トセザルトキ

第二條 前條ノ規定ニ依リ外國(一國又ハ數國間)ニ於テ阿片ノ運送ヲ爲シタルトキハ船長ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ陸揚港所轄帝國領事館ヲ經テ遲滯ナク其ノ旨臺灣總督ニ届出ヅベシ

一 船舶ノ名稱、總噸數及船籍港

二 船舶所有者及船長ノ住所及氏名又ハ名稱

三 阿片ノ種類及數量

四 船籍港及陸揚港

五 船積及陸揚ノ年月日

六 荷送人及荷受人ノ住所及氏名又ハ名稱

前項ノ届書ニハ當該阿片ノ運送ガ適法ナルコトヲ證明スル書類ヲ添付スベシ

第三條 船舶所有者又ハ船長第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以上ノ罰金ニ處ス

第四條 船長第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 船舶所有者が未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 本令ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人ニ船舶借入ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内地ノ船籍ニ屬スル西洋形船届出ノ件

(明治三十一年十月 臺灣總督府令第九十九號)

改正 明治三十二年 第四百十四號

第一條 内地ノ船籍ニ屬スル西洋形船ニテ内地臺灣間若ハ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシ外國ニ航行スルモノ左記ノ事項ニ該當スルトキハ其都度臺灣ニ於ケル本船到達港若ハ本船根據地ヲ管轄スル地方官廳ヲ經テ臺灣總督府ニ届出ツベシ但シ臺灣總督ノ命令ニ依リ航行スルモノハ此限ニアラズ

一 初テ航海ヲ開始スルトキハ航路及發著定日(發著定日ナキモノハ一箇月間ノ航海度數ヲ見積リ)ヲ記シ之ニ本船受有ノ登簿船免狀ノ寫ヲ添附スルコト

二 航路若ハ發著定日ヲ變更シタルトキハ其事由

三 航路ヲ廢止シタルトキハ其事由

第二條 第一條ノ規定ニ違背シタル者ハ其船長ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

關東州船舶輸入許可規則

(昭和八年十月 關東廳令第四十九號)

第一條 船舶ヲ輸入シ又ハ移入セントスル者ハ當分ノ内關東長官ノ許可ヲ受クベシ但シ解體ノ爲ニスルモノ又ハ總噸數二十噸未満ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ當該船舶ニ付左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ關東長官ニ提出スベシ

- 一 種類及名稱
- 二 國籍及所有者
- 三 總噸數
- 四 機關ノ種類
- 五 速力
- 六 製造年月
- 七 製造者ノ氏名又ハ名稱
- 八 使用ノ目的
- 九 購入見込價格
- 十 輸入又ハ移入ノ豫定期日

内地ノ船籍ニ屬スル西洋形船届出ノ件(臺灣)・關東州船舶輸入許可規則(關東州)

十一 船舶ノ所在地

第三條 關東長官ハ第一條ノ許可ヲ爲スニ當リ條件ヲ附スルコトアルベシ

第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者船舶ヲ輸入シ又ハ移入シタルトキハ遲滞ナク其ノ賣買契約書寫ヲ添へ輸入又ハ移入ノ年月日ヲ關東長官ニ届出ツベシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條ノ許可ヲ受ケズシテ船舶ヲ輸入シ又ハ移入シタル者

二 第二條ノ申請書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シタル者

三 第三條ノ許可ノ條件ニ違反シタル者

四 第四條ノ届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者

第六條 本令ニ依リ關東長官ニ提出スベキ書類ハ總テ關東廳海務局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶ニ依ル阿片運送取締規則

(昭和五年十月) (關東廳令第六十七號)

第一條 關東州船籍令ニ依ル日本船舶ハ左ノ各號ノ一ニ掲グル場合ヲ除クノ外阿片ノ運送ヲ爲スコトヲ得ズ

一 内地、樺太、朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島相互間ノ運送ニ付テハ當該官憲ガ輸移出入スルトキ又ハ輸移出入ヲ許可シタルトキ

二 國際運送ニ付テハ仕出國及仕向國當該官憲ガ輸出入スルトキ又ハ輸出入ヲ許可シタルトキ

三 國內運送(第一條ノ場合ヲ除ク)ニ付テハ其ノ國ガ所持、授受又ハ運送ヲ違法トセザルトキ

第二條 前條ノ規定ニ依リ外國(一國又ハ數國間)ニ於テ阿片ノ運送ヲ爲シタルトキハ船長ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ陸揚港所轄帝國領事館ヲ經テ運送ナク其ノ旨ヲ(關東長官)ニ届出ツベシ

一 船舶ノ名稱、總噸數及船籍港

二 船舶所有者及船長ノ住所及氏名又ハ名稱

三 阿片ノ種類及數量

四 船積港及陸揚港

五 船積及陸揚ノ年月日

六 荷受人及荷受人ノ住所氏名又ハ名稱

前項ノ届書ニハ當該阿片ノ運送ガ適法ナルコトヲ證明スル書類ヲ添附スベシ

第三條 船舶所有者又ハ船長第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 船長第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此限ニ在ラズ

第六條 本令ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶管理人ニ船舶借入ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四輯 造船

第一章 造船事業

造船事業法

(昭和十四年四月) (法律第七十號)

改正 (昭和十六年三月) (法律第三十五號)

第一條 本法ニ於テ造船事業トハ命令ノ定ムル設備ヲ備フル者ノ爲ス船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス船體、船舶用機關若ハ機裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ハ之ヲ其ノ事業ノ一部ト看做ス

第二條 造船事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社又ハ有限會社ニシテ其ノ株主又ハ社員ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル

船舶ニ依ル阿片運送取締規則(關東州)・造船事業法

ル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社(以下造船會社ト稱ス)ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

造船會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 造船會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

造船會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第六條 造船事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第七條 造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ毎決算期ノ利益ノ一部ヲ積立ツベシ

第八條 株式會社タル造船會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ舊社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月以内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但

第十三條 政府ハ造船會社ニ對シ其ノ製造セントスル船舶ニ付命令ノ定ムル推進性能試験ヲ受ケベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付製造若ハ販賣ノ價格又ハ修繕料ノ變更ヲ命ジ又ハ此等ノ物ノ供給ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ造船會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

- 一 設備ノ新設、増設又ハ改良
 - 二 政府ノ指定スル船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕
 - 三 船舶ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設
- 前項ノ命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス
- 前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 政府ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サント

造船事業法

シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 造船會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ船舶、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十條 政府ハ造船會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條 政府ハ造船事業ノ維持ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ船舶ノ製造ヲ爲ス造船會社又ハ船舶ノ製造ノ注文ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 政府ハ船舶、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得船舶及船舶用材料ニ付亦同ジ

造船會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ付テハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得ズ

スルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外海事審議會ノ議ヲ經ベシ

第十七條 造船會社ハ其ノ事業ノ改良發達ヲ圖ル爲造船組合ヲ設立スルコトヲ得

造船組合ハ法人トス

第十八條 造船組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ取得、保有及供給並ニ組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
- 二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
- 三 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

造船組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第十九條 造船組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十條 造船組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事

項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ
組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ
二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由
アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得
造船組合ハ第一項ノ認可アリタル時成立ス

第二十一條 造船組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 役員ニ關スル規定
- 八 事業ノ執行ニ關スル規定
- 九 會議ニ關スル規定
- 十 組合員ノ出資及責任ニ關スル規定
- 十一 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定
- 十二 會計及財産ニ關スル規定
- 十三 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第二十二條 造船組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス
理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ
理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得
第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十三條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 定款ノ變更
- 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
- 三 業務報告及收支決算ノ承認
- 四 第二十八條第一項ノ規程ノ制定及變更
- 五 造船組合聯合會ノ設立、加入及脱退
- 六 役員ノ選任及解任
- 七 合併及解散

前項第一號、第四號、第六號及第七號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條 組合員ノ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十五條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第二十三條第一項第一號、第二號、第四號、第五號、及第七號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半数以上ニシテ議決權總數ノ半数以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多数ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ
組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十七條 組合員ノ責任ハ第十九條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス
造船組合ハ定款ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔

スルモノト爲スコトヲ得

第二十八條 造船組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ
政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十九條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ造船組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十條 造船事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ造船組合ノ組合員ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジ又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第三十一條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ造船組合ニ對シ定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條 造船組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ノ取消
- 二 役員ノ解任
- 三 事業ノ停止
- 四 解散

第三十三條 造船組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 合併
- 四 破産
- 五 政府ノ解散命令

第三十四條 造船組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ他ノ造船組合聯合會又ハ造船組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ更ニ造船組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

造船組合聯合會ハ法人トス

第三十五條 造船組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認

務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶、船舶用機

關又ハ機裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ造船事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五條第一項ノ規定ニ違反シ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタルトキ
- 二 第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ本邦ニ於テ製造セラレタルニ非ザル物ヲ使用シタルトキ
- 三 第十二條第二項ノ規定ニ違反シ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ船舶ニ使用シタルトキ
- 四 第十四條又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキ
- 五 第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ統制ニ從ハザルトキ

第四十五條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

造船事業法

可ヲ受クベシ
第三十六條 第十八條、第十九條、第二十條第三項、第二十一條乃至第三十三條ノ規定ハ造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 造船組合及造船組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十八條 造船組合及造船組合聯合會ニハ所得稅法人稅及營業稅ヲ課セズ

第三十九條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號、第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第四十條 本法ニ規定スルモノノ外造船組合及造船組合聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ヲシテ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ造船會社、造船組合又ハ造船組合聯合會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第四十一條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

二 第四十一條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第四十六條 造船事業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第四十三條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十七條 第四十三條乃至第四十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ

全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第五十條 造船會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ同條ニ規定スル以外ノ目的ニ使用シタルトキ

二 第八條ノ規定ニ違反シ社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ本法ニ依ル政府ノ命令若ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第五十二條 第三十七條及第四十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ第五十條乃至前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第三條中有有限會社ニ關スル規定ハ有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限り第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

登録稅法第十九條第七號中「貿易組合中央會」ノ下ニ「造船組合、造船組合聯合會」ヲ「貿易組合法」ノ下ニ「造船事業法」ヲ加フ

造船事業法施行期日ノ件

(昭和十四年十一月)
(勅令第七百九十九號)

造船事業法ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法施行令

(昭和十四年十一月)
(勅令第八百號)

改正 昭和十六年四月
勅令第五百二十三號

第一條 造船事業法第一條第一項ノ設備ハ長サ五十米以上ノ船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架トス

第二條 造船事業法第二條ノ許可ハ船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ事業別ニ之ヲ爲ス

第三條 造船事業法第七條ノ規定ニ依リ造船會社ハ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テアル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ガ當該設備ノ取得價額ノ六割ニ達スル迄毎決算期ノ利益金額ノ百分ノ十二以上ヲ積立ツベシ

造船事業法施行期日ノ件・造船事業法施行令

當該決算期ニ於テ設備ノ償却ニ充ツル爲經費ニ計上シタル金額ハ前項ノ利益金額計算上支出ニハ之ヲ算入セズ且前項ノ規定ニ依リ當該決算期ニ於テ積立ツベキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第四條 造船會社特別ノ事情ニ基キ前條ノ規定ニ依リ難キ場合ハ遞信大臣ノ許可ヲ受ケ前條ノ積立ツベキ金額ヲ減額スルコトヲ得

第五條 造船事業法第十五條第二項ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

損失ノ補償ヲ請求セントスル會社ハ其ノ損失ガ造船事業法第十五條第一項第一號ノ命令ニ因リ生ジタモノナルトキハ當該設備ノ使用ヲ廢止シタル後又同條第一項第二號又ハ第三號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該設備ノ使用ヲ廢止シタル後又同條第一項第二號又ハ第三號ノ命令ニ因リ生ジタルモノナルトキハ當該命令事項ノ履行ヲ終リタル後之ヲ請求スベシ但シ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ每事業年度ノ終リタル後又ハ損失ノ生ジタル都度之ヲ請求スルコトヲ得

第六條 削除 (昭和一六、四、勅令 五二三)

第七條 造船組合ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人又ハ設立同意者タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スベシ

第八條 造船組合ノ理事及監事ハ組合員タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者タル會社ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第九條 造船組合ノ理事正當ノ理由ナクシテ造船事業法第三十九條ニ於テ準用スル民法第六十一條第二項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十條 造船組合ノ組合員ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行

フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ其ノ會社ノ業務ヲ執行スル役員若ハ支配人又ハ組合員タルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ提出スベシ

第十一條 造船組合ノ總會ノ招集ノ手續又ハ決議ノ方法ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルトキハ組合員ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

商法第六十三條第二項、第三項及第六十三條ノ四ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 造船組合ノ組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

第十三條 第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十條第二項(同法第四十二條、第五十八條第三項及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 造船組合ノ清算人ハ民法第七十九條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 造船組合聯合會ノ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第七條第二項乃至第四項ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第十六條 造船組合聯合會ノ理事及監事ハ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ其ノ聯合會ニ屬スベキ組合又ハ聯合會ノ役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ規定スル者以外ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 本令ニ依リ登記スベキ事項ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ之ヲ登記スルコトヲ要ス

本令ニ依リ登記スベキ事項ニシテ逓信大臣又ハ逓信大臣及商工大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十八條 造船組合ハ組合員ノ出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコト

造船事業法施行令

ヲ要ス

設立ノ登記ニハ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

一 造船事業法第二十一條第一號乃至第三號及第十三號

ニ掲グル事項

二 事務所

三 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

四 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

五 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ各組合員ノ名稱及本店並ニ各組合員ガ其ノ出資ノ外組合ノ債權者ニ對シ責任ヲ負擔スル金額(保證金額)

六 成立ノ年月日

七 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ前項第四號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後主タル事務所ノ所在地ニ於テハ四週間、從タル事務所ノ所在地ニ於テハ五週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十九條 造船組合ノ成立後從タル事務所ヲ設ケタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テハ從タル事務所ヲ設ケタ

ルコトヲ登記シ其ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ從タル事務所ノ所在地ニ於テハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

主タル事務所又ハ從タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄区域内ニ於テ新ニ從タル事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ從タル事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十條 造船組合ガ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間以内ニ第十八條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄区域内ニ於テ主タル事務所又ハ從タル事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十一條 造船組合及造船組合聯合會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

假理事アル場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 造船組合ガ造船事業法第三十三條第一號又ハ第二號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リ、同條第三號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及前項前段ノ場合ニ於テ理事ガ清算人タラザルトキハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス第二十二條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ニ付之ヲ準用ス

造船組合ガ造船事業法第三十三條第五號ノ事由ニ因リテ解散シタルトキハ解散ノ登記ハ遞信大臣ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十五條 造船組合ノ清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十六條 第九條乃至第十二條、第十四條、第十八條乃至第二十條及第二十二條乃至前條ノ規定ハ造船組合聯合

造船事業法施行令

各登記所ニ造船組合登記簿及造船組合聯合會登記簿ヲ備フ

第二十二條 造船組合ノ設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ定款、創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面及申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ニ因ル設立ノ登記ノ申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本令ニ依リ公告及催告ヲ爲シタルコト並ニ異議ヲ述べタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 造船組合ノ事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ登記ノ申請書ニハ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面及申請人中ニ理事ノ職務ヲ行フ監事又ハ

會ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第六十七條、第七十三條、第七十六條及第七十八條乃至第八十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條乃至第三十七條ノ二及第二百二十五條第一項(第四百十一條及第四百七十七條ヲ準用スル部分ヲ除ク)ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付適用アルモノトシ民法第七十條第一項、第七十二條、第七十四條及第七十五條、非訟事件手續法第五十條ノ二、第七十八條及第九十五條ノ二並ニ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十六條、第二十九條乃至第三十一條ノ二、第四十條乃至第四十二條、第四十四條第一項、第四十五條、第四十六條、第四十八條第五十一條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十三條第一項、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項及第四百四條ノ規定ハ造船組合及造船組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 造船事業法第九條乃至第四十一條、第四十四

條第二號乃至第五號、第四十五條乃至第四十九條及第五十一條乃至第五十三條並ニ本令第五條乃至第十六條、第十八條乃至第二十條、第二十一條第一項、第二十二條乃至前條、第三十二條及第三十三條ノ規定ハ長サ十五米以上ノ船舶ノ製造又ハ修繕ヲ爲シ得ル造船臺、船渠又ハ船架ヲ備フル者ノ營ム船舶ノ製造又ハ修繕ノ事業及其ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ從トシテ爲ス船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ノ事業ニシテ造船事業法第一條ノ造船事業ニ屬セザルモノニ付之ヲ準用ス

第二十九條 造船事業法第九條、第十條、第十四條乃至第四十條、第四十一條第一項、第四十四條第二號乃至第五號、第四十五條乃至第四十九條及第五十一條乃至第五十三條並ニ本令第五條乃至第十六條、第十八條乃至第二十二條、第二十一條第一項、第二十二條乃至第二十七條、第三十二條及第三十三條ノ規定ハ命令ヲ以テ定ムル船舶用機關又ハ艤裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ニシテ造船事業法第一條ノ造船事業及前條ノ事業ニ屬セザル營業ニ付之ヲ準用ス

第三十條 前二條ニ於テ準用スル造船事業法第十七條又ハ

- 三 主務官廳ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ
- 四 本令ニ違反シ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ
- 五 本令ニ違反シ組合又ハ聯合會ガ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
- 六 本令ニ違反シ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合若ハ聯合會ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ
- 七 本令ニ違反シ剩餘金ヲ處分シタルトキ

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 裁判所又ハ其ノ選任シタル者ノ爲ス検査ヲ拒ミタルトキ
- 三 本令ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 四 本令ニ違反シ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ
- 五 本令ニ定ムル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告

造船事業法施行令

第三十四條ノ規定ニ依リ造船事業法第一條ノ造船事業ニ屬セザル船舶、船舶用機關又ハ艤裝品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス事業ヲ營ム者ノ設立スル組合又ハ組合聯合會ノ登記ハ造船組合登記簿又ハ造船組合聯合會登記簿ニ之ヲ爲ス

第三十一條 造船事業法第九條、第十條、第十四條乃至第十六條、第二十條、第二十二條、第二十三條、第二十八條乃至第三十三條、第三十五條、第四十一條及第五十一條中政府トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ遞信大臣及商工大臣トシ同法第十二條及第十三條(第二十八條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)中政府トアルハ漁船、漁船用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付テハ遞信大臣及農林大臣トス

第五條、第九條及第二十四條中遞信大臣トアルハ第二十九條ノ事業ニ付テハ遞信大臣及商工大臣トス

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ造船組合又ハ造船組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本令ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本令ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ若ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

ヲ爲シタルトキ

六 前條第一號及第四號乃至第六號ノ一ニ該當スルトキ

附 則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和一六、四、勅令五二三)

本令ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

造船事業法施行規則

(昭和十四年十一月 遞信省令第六十二號)

- 第一條** 造船事業法第二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ
- 一 工場ノ名稱及位置
 - 二 造船事業法施行令第二條ノ規定ニ依ル事業ノ區別(造船事業法第一條第二項ノ事業ヲ營マントスルトキハ其ノ旨ヲ附記スベシ)
 - 三 設備ノ概要(圖面ヲ添附スベシ)
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 工事ノ著手及完成ノ豫定期間並ニ事業開始ノ豫定期間ヲ記載シタル書面

- 二 工事費豫算書
- 三 事業資金ノ總額及其ノ調達方法ヲ記載シタル書面
- 四 事業收支目論見書
- 五 技術者及職工ノ雇傭及養成ノ計畫ヲ記載シタル書面
- 六 會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、造船事業經營ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿
- 七 造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面
- 八 造船事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ概要ヲ記載シタル書面
- 第二條 造船事業法第二條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者其ノ設備ノ工事ニ著手シタルトキ及其ノ設備ヲ完成シタルトキハ遲滞ナク逡信大臣ニ届出ツベシ其ノ事業ヲ開始シタルトキ亦同ジ
- 第三條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業讓渡ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

- 一 讓渡スベキ事業ノ範圍
- 二 讓渡ノ價格及時期
- 三 讓渡ヲ必要トスル事由
- 四 讓受ケントスル者ガ造船會社ニ非ザル者ナルトキハ讓受後ニ於ケル第一條第一項各號ニ掲ゲル事項
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 讓渡契約書ノ謄本
- 二 讓渡價格算出ノ基礎ヲ明ニスル書面
- 三 讓渡ニ關スル株主總會若ハ社員總會ノ決議録ノ謄本又ハ之ニ代リ得ベキ書面
- 四 讓受ニ要スル資金ノ調達方法ヲ記載シタル書面及讓受後ニ於ケル事業收支目論見書
- 五 讓受ケントスル者會社發起人ナルトキハ定款、造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿並ニ造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面
- 第四條 造船事業ノ讓渡終了シタルトキハ當事者連署ノ上遲滞ナク其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ツベシ

- 第五條 造船事業法第五條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ廢止又ハ休止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由、廢止又ハ休止スベキ事業ノ範圍、廢止又ハ休止ノ時期及休止ノ場合ニ在リテハ其ノ期間ヲ記載シタル申請書ヲ逡信大臣ニ提出スベシ但シ一月未滿ノ事業ノ休止ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ヅルヲ以テ足ル造船會社休止シタル事業ヲ再ビ開始シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ツベシ
- 第六條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ逡信大臣ニ提出スベシ
- 一 合併ノ方法及條件
- 二 合併ノ時期
- 三 合併ヲ必要トスル事由
- 四 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ニ付第一條第一項各號ニ掲ゲル事項
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
- 一 合併契約書ノ謄本
- 二 合併條件決定ノ基礎ヲ明ニスル書面

造船事業法施行規則

- 三 合併ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本
- 四 合併後ニ存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款及合併後ニ於ケル事業收支目論見書
- 五 合併ノ當事者タル會社ノ商法第七十八條第一項又ハ有限會社法第六十三條ニ於テ準用スル昭和十三年法律第七十二號商法第九十九條ノ規定ニ依リ作成シタル財産目録及貸借對照表
- 六 合併ノ相手方ガ造船會社ニ非ザル會社ナルトキハ其ノ定款、登記簿ノ謄本、財産目録、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類及株主名簿又ハ社員名簿並ニ造船事業法第三條第一項及第二項ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル書面
- 第七條 造船會社ノ合併終了シタルトキハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ツベシ
- 前項ノ届書ニハ登記簿ノ謄本ヲ添附スベシ
- 第八條 造船事業法第五條第二項ノ規定ニ依リ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ解散ニ關スル株主總會又ハ社員總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

第九條

造船事業法施行令第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及減額セントスル額ヲ記載シタル申請書ニ次ノ決算期以後ニ於ケル償却目論見書ヲ添付シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十條

造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

- 一 社債ノ總額
- 二 社債募集ノ時期及條件
- 三 商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債募集ヲ必要トスル事由

前項ノ場合ニ於テ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行セントスルモノナルトキハ申請書ニ前項第一號及第三號ニ掲グル事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示
- 二 社債ノ利率ノ最高限度
- 三 前二項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ
 - 一 社債ヲ以テ支辨セントスル設備ノ費用及其ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書面(工事費計算書ヲ添附スベシ)

要ナル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十三條

前條ノ規定ニ依ル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

- 一 製造セントスル工場ノ名稱
- 二 製造セントスル物ノ名稱、種類、型式、性能及數量(設計圖又ハ仕様書ヲ添附スベシ)
- 三 設計者又ハ考案者及製造擔當者ノ氏名
- 四 製造ノ目的及研究ノ沿革
- 五 製造ノ開始及終了見込年月日
- 六 製造費豫算
- 七 製造ノ爲ニ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ概要及工事費豫算

前項ノ申請書(設計圖又ハ仕様書ヲ含ム)ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ遞信大臣ノ承認ヲ受ケベシ

第十四條

前條ノ獎勵金ハ當該製造ノ完了シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交

造船事業法施行規則

- 二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
- 三 會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本
- 四 最終ノ貸借對照表
- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本
- 六 信託證書案
- 七 工場抵當法ニ依リ抵當ト爲スベキ物件ノ目錄
- 八 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ表示シタル書面第一項ノ場合ニ於テ造船事業法第八條第四項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ社債ヲ募集セントスルモノナルトキハ申請書ニ第一項各號ノ事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記シ前項第一號乃至第五號ニ掲グル書類及社債募集ノ方法ニ關スル説明書ヲ添附スベシ

第十條ノ規定ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

第十一條

造船事業法第八條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル後信託契約又ハ擔保物件ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第十二條

遞信大臣ハ造船事業法第九條ノ規定ニ依リ獎勵金ヲ交付セントスルトキハ獎勵スベキ物ノ名稱、獎勵金ノ交付ヲ受ケタルコトヲ得ル者ノ資格、獎勵金額其ノ他必

第十四條

前條ノ獎勵金ハ當該製造ノ完了シタル後之ヲ交付ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條

獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交

付ヲ受ケタル者當該物品ノ製造ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
- 二 遞信大臣ノ承認ヲ受ケズシテ設計又ハ仕様ヲ變更シタルトキ
- 三 製造ヲ中止シタルトキ
- 四 製造費ノ支出額ヲ豫算額ニ比シ著シク寡少ナルトキ
- 五 不正ノ行爲アリタルトキ

第十六條

造船會社船體、船舶用機關若ハ機裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ此等ノ物ニハ本邦ニ於テ製造セラレタル物ヲ使用スベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 外國ニ於テ新規ニ發明若ハ考案セラレタル物又ハ本邦ニ於テ製造困難ナル特殊ノ物ヲ使用セントスル場合
- 二 其ノ他特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十七條 逓信大臣ハ造船事業法第十一條ノ規定ニ依リ助成金ヲ交付セントスルトキハ助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ル者ノ資格、助成金額其ノ他助成金交付ニ關スル事項ヲ定メ之ヲ告示ス告示シタル事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十八條 逓信大臣ハ造船事業法第十二條第一項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス告示シタル規格ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十九條 造船會社ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ前條ノ規格ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ製造シ又ハ船舶ニ使用スルコトヲ得

- 一 船舶用トシテ適否ヲ實地ニ試験スル目的ヲ以テ製造シ又ハ船舶ニ使用スル場合
- 二 規格ニ適合スル物ノ取得困難ニシテ船舶ノ製造又ハ修繕ニ支障ヲ生ズル虞アル場合
- 三 新規ニ發明若ハ考案セラレタルモノヲ製造シ又ハ之ヲ船舶ニ使用スル場合
- 四 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十條 造船會社長サ八十米以上ノ船舶ニシテ推進機關ヲ備フルモノヲ製造セントスルトキハ製造著手前其ノ船型推進器ノ選定ニ付昭和二年逓信省令第五十六號船型試驗規則ニ依リ水槽試驗ヲ受クベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 逓信省管船局船舶試驗所以外ノ試験水槽ニ依リ水槽試驗ヲ受ケントスル場合
- 二 既ニ水槽試驗ヲ受ケタル船舶ト同形ノ船舶ヲ製造セントスル場合
- 三 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十一條 漁船、漁船用機關若ハ鑿裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ規格及漁船ノ推進性能試験ニ關シテハ前三條ノ規定ニ拘ラズ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十二條 造船會社ハ毎年二月末日迄ニ前年ノ營業ノ概況及年末ニ於ケル設備ノ概要ヲ記載シタル報告書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第二十三條 造船會社ハ營業年度毎ニ株主總會又ハ社員總

會終結後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書、利益金ノ處分ニ關スル書類、株主名簿又ハ社員名簿及左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 當該營業年度ニ於テ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テタル金額又ハ經費ニ計上シタル金額
- 二 其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ニ充ツル爲積立テタル金額及既ニ經費ニ計上シタル金額ノ總額ト前號ノ金額トノ合計額並ニ其ノ合計額ト當該設備ノ取得價額トノ比率

第二十四條 造船會社ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツベシ

- 一 定款ヲ變更シタルトキ
- 二 取締役又ハ監査役ニ變更アリタルトキ
- 三 株金又ハ出資金ノ拂込アリタルトキ
- 四 社債ヲ發行シ又ハ長期借入金ヲ爲シタルトキ
- 五 社債又ハ長期借入金ヲ爲シタルトキ
- 六 會社ノ資本系統ニ著シキ變更アリタルトキ
- 七 兼營事業ヲ開始シ、擴張シ、縮少シ又ハ廢止シタルトキ

造船事業法施行規則

第二十五條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

- 一 工場ノ名稱及位置
- 二 船舶製造事業又ハ船舶修繕事業ノ區別
- 三 設備ノ概要(圖面ヲ添附スベシ)
- 四 事業開始ノ豫定期期
- 五 事業資金ノ總額及其ノ調達方法
- 六 事業收支目論見
- 七 常時使用スベキ職工數

前項ノ届書ニハ會社發起人ニ在リテハ定款、會社ニ在リテハ定款、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、損益計算書及利益金ノ處分ニ關スル書類ヲ添附スベシ

第二十六條 前項ノ届書ヲ提出シタル者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツベシ

第二十七條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者第二十五條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツベシ

第二十八條 造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ

逓信大臣ニ届出ツベシ該事業ヲ營ム會社解散シタルトキ亦同ジ

第二十九條 第四條、第七條第一項、第十二條乃至第十九條、第二十一條、第二十二條、第二十四條及第三十條乃至第五十四條ノ規定ハ造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ニ付之ヲ準用ス

第三十條 造船組合(以下組合ト稱ス)ヲ設立セントスルトキハ組合員タルベキ會社發起人ト爲リ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ組合員タル資格ヲ有スル會社ニ對シ設立ノ同意ヲ求ムベシ

一 目的
二 地區

三 組合員タル資格

四 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五 造船事業法第二十七條第二項ノ組合ニ在リテハ保證金額ヲ定ムル方法

六 經費ヲ組合員ニ分賦セントスル組合ニ在リテハ其ノ分賦收入方法

七 事業計畫概要

設立ノ同意ハ前項ノ書面ニ記名捺印スルコトニ依リテ之

ヲ爲スベシ

發起人第一項ノ書面ヲ作成シタルトキハ遲滞ナク之ヲ逓信大臣ニ届出ツベシ

第三十一條 造船事業法第二十條第二項ノ規定ニ依ル創立總會開催ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ組合員タル資格ヲ有スル會社及設立同意者タル會社ノ數ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第三十二條 造船事業法第二十條第一項ノ規定ニ依ル三分ノ二以上ノ同意者アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

第三十三條 組合ノ發起人創立總會ヲ召集スルニハ設立同意者タル會社ニ對シ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ通知スベシ

第三十四條 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ベシ

第三十五條 創立總會終結シタルトキハ發起人ハ遲滞ナク組合ノ設立認可申請書ヲ逓信大臣ニ提出スベシ
前項ノ申請書ニハ法定ノ設立同意者アリタルコトヲ證ス

ル書面、定款、創立總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書並ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

一 事業計畫

二 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三 引受アリタル出資ノ總口數

四 造船事業法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル組合ニ在リテハ引受アリタル保證金額ノ總額

五 理事及監事ノ氏名及住所

六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ分賦收入方法

第三十六條 組合ノ役員選任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ申請書(造船事業法施行令第八條第二項ノ規定ニ依ル理事又ハ監事選任ノ場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ記載スベシ)ニ役員ノ履歷書及總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第三十七條 組合ノ役員解任ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第三十八條 組合ノ定款變更ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

造船事業法施行規則

本ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

定款ノ變更ガ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少又ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ニ關スルモノナルトキハ其ノ認可申請書ニハ前項ニ掲グル書面ノ外財産目録及貸借對照表ヲ添附スベシ

第三十九條 經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ於テ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ定メタルトキハ組合ハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ逓信大臣ニ届出ツベシ

第四十條 組合ハ造船事業法施行令第二十七條ニ於テ準用スル産業組合法第四十六條ノ規定ニ依ル準備金ノ積立ヲ爲シ尙剩餘金アルトキハ之ヲ資産又ハ翌事業年度收入ニ繰入ルベシ

第四十一條 組合ハ業務報告(財産目録及貸借對照表ヲ含

ム) 及收支決算ニ付總會ノ承認アリタルトキハ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第四十二條 新ニ組合ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルベシ脱退シタル組合員ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スベキコトヲ定メタル場合ニ於テ其ノ殘額ニ付亦同ジ

第四十三條 組合員組合ニ對シ脱退ノ承諾ヲ求メントスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ書面ヲ以テ脱退ノ豫告ヲ爲スベシ

前項ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條 組合ノ解散ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、殘餘財産アル場合ニ於ケル處分方法ヲ記載シタル書面並ニ財産目録及貸借對照表ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十五條 組合ノ合併ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本、財産目録、貸借對照表、合併契約書ノ謄本及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ

之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十六條 造船事業法第二十八條第一項ノ規程ノ制定又ハ變更(廢止ヲ含ム)ノ決議ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ニ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第四十七條 造船事業法第三十條ノ規定ニ依ル處分ハ遞信大臣造船會社ヲシテ組合ノ組合員タラシムル旨ヲ當該造船會社ニ告知シ又ハ組合、組合員タルベキ會社ノ資格及組合ノ組合員タラシムル旨ヲ告示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第四十八條 組合造船事業法第十八條第一項第四號ニ掲グル事業ヲ行ハントスルトキハ豫メ之ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ遲滞ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

- 一 遞信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除ク外定款ノ施行ニ關スル規程ヲ定メ又ハ改廢シタルトキ
- 二 造船事業法第二十八條第一項ノ規程ニ基キ製造又ハ販賣ノ數量又ハ價格其ノ他ノ事項ニ付決定ヲ爲シタルトキ

三 事務所、理事、監事、清算人又ハ定款ニ定メタル事由ノ發生ニ因ル解散ノ登記ヲ爲シタルトキ

四 加入金又ハ増口金ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキ

第五十條 造船組合聯合會(以下聯合會ト稱ス)ヲ設立セントスルトキハ會員タルベキ各組合及聯合會ハ其ノ理事及監事中心ヨリ創立委員二名ヲ選任スベシ

第五十一條 聯合會ノ會員タルベキ各組合及聯合會ニ於テ前條ノ創立委員ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第五十二條 創立委員會終結シタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク聯合會ノ設立認可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ定款、創立委員會ノ決議録ノ謄本、聯合會設立ニ關スル會員タルベキ各組合及聯合會ノ總會ノ決議録ノ謄本、理事及監事ノ履歷書並ニ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

- 一 事業計畫
- 二 聯合會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法
- 三 引受アリタル出資ノ總口數
- 四 造船事業法第三十六條ニ於テ準用スル同法第二十七條第二項ノ規定ニ依ル聯合會ニ在リテハ引受アリタル

造船事業法施行規則

保證金額ノ總額

五 理事及監事ノ氏名及住所

六 初年度ニ於ケル收支豫算及經費ヲ所屬ノ組合及聯合會ニ分賦スル聯合會ニ在リテハ分賦收入方法

第五十三條 聯合會ニ加入シ又ハ脱退シタルモノアリタルトキハ聯合會ハ遲滞ナク其ノ名稱及主たる事務所ノ所在地ヲ遞信大臣ニ届出ツベシ

第五十四條 第三十四條及第三十六條乃至第四十九條ノ規定ハ聯合會ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 本令ノ規定ニ依リ遞信大臣ニ提出スベキ書類ハ特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外所轄遞信局長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中有有限會社ニ關スル規定有限會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ造船事業ヲ營ム者ハ第一條第一項ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル屆書ヲ、造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者ハ第二十五條第一號乃至第三號ニ掲グル事項及其ノ事業ヲ開始シタル時期ヲ記載シタル屆書ヲ本令施行ノ日ヨリ二月以内

ニ遞信大臣ニ提出スベシ但シ第一條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

漁船ニ關シ造船事業法

第十二條及第十三條施行ノ件

(昭和十四年十一月)
遞信、農林省令第一號

第一條 遞信大臣及農林大臣ハ造船事業法第十二條第一項ノ規定ニ依リ漁船、漁船用機關若ハ機裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ニ付規格ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス告示シタル規格ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第二條 造船會社又ハ造船事業法施行令第二十八條ニ規定スル事業ヲ營ム者ハ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ遞信大臣及農林大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ前條ノ規格ニ適合セザルモノト雖モ之ヲ製造シ又ハ漁船ニ使用スルコトヲ得

- 一 漁船用トシテ適否ヲ實地ニ試験スル目的ヲ以テ製造シ又ハ漁船ニ使用スル場合
- 二 規格ニ適合スル物ノ取得困難ニシテ漁船ノ製造又ハ修繕ニ支障ヲ生ズル虞アル場合
- 三 新規ニ發明若ハ考案セラレタルモノヲ製造シ又ハ之ヲ漁船ニ使用スル場合
- 四 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合
前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣及農林大臣ニ提出スベシ
- 第三條** 造船會社長サ八十米以上ノ漁船ニシテ推進機關ヲ備フルモノヲ製造セントスルトキハ製造著手前其ノ船型及推進器ノ選定ニ付昭和二年遞信省令第五十六號船型試驗規則ニ依リ水槽試驗ヲ受クベシ但シ左ノ各號ニ掲グル場合ニ於テ遞信大臣及農林大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 遞信省管船局船舶試驗所以外ノ試驗水槽ニ依リ水槽試驗ヲ受ケントスル場合
- 二 既ニ水槽試驗ヲ受ケタル漁船ト同型ノ漁船ヲ製造セントスル場合
- 三 前各號ニ掲グル場合ノ外特別ノ事由アル場合

前項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣及農林大臣ニ提出スベシ

第四條 本令ノ規定ニ依リ遞信大臣及農林大臣ニ提出スベキ書類ハ二通ヲ作成シ遞信省及農林省ニ各一通ヲ提出スベシ

附 則

本令ハ造船事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

漁船ニ關シ造船事業法第十二條及第十三條施行ノ件

海運組合及造船組合登記 取扱手續

(昭和十四年十二月
司法省令第七十號)

(第三輯第三章ニ收ム)

第二章 船舶建造及修繕用物品

船舶建造及修繕用物品承

認規則

(大正十五年
遞信省令第十五號)

改正 昭和十二年第八四號

第一條 船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者大正十年勅令第二百三十九號及製鐵事業法施行令ニ依リ定ムル管海官廳ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ承認申請書ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スヘシ前項ノ承認申請ニ基キ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ承認更正申請書ヲ、承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル船舶ノ建造又ハ修繕ヲ竣リタルトキハ遲滯ナク竣工承認申請書ヲ當該管海官廳ニ提出スヘシ
一定期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ物品ニ關スル承認申請書又ハ承認更正申請書ハ工場毎ニ、其ノ他ノ承認申

船舶建造及修繕用物品承認規則

請書若ハ承認更正申請書又ハ竣工承認申請書ハ船舶毎ニ之ヲ提出スヘシ

第二條 船舶建造用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地
 - 二 工場ノ名稱及位置
 - 三 船舶ノ製造番號、種類、資格、總噸數及速力並機關ノ種類、箇數及實馬力
 - 四 船舶ノ建造ノ爲使用スヘキ物品ニシテ輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノ及獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ種類並數量
 - 五 起工期日及竣工期日
- 前項第四號ノ物品中ニ鐵鋼材アル場合ニ於テ之ヲ船體ニ使用セムトスルトキハ船體用鐵鋼材全部ノ各種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類及船體部仕様書、汽機又ハ汽鐘ニ使用セムトスルトキハ汽機用又ハ汽鐘用鐵鋼材全部ノ

三六九

各種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類及機關部仕様書、
 艤裝品ニ使用セムトスルトキハ當該艤裝品用鐵鋼材ノ各
 種類別ノ合計重量ヲ記載シタル書類各二通ヲ申請書ニ添
 附スヘシ但シ形狀及寸法ヲ同クスル船舶ニ付同一管海官
 廳ニ承認申請ヲ爲シタルモノアルトキハ之ヲ添附セサル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨申請書ニ附記スヘシ
 前項ノ各種類別ノ合計重量ハ第六條第一項ノ種類別ニ依
 リ之ヲ記載スヘシ

第三條 船舶修繕用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載ス
 ルコトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在
 地
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 一年ヲ超エサル一定期間又ハ船舶ノ位置、名稱、種
 類、所有者及總噸數並修繕ノ箇所、著手期日及竣工期
 日
- 四 前項ノ期間内ニ船舶ノ修繕ノ爲使用スヘキ物品又ハ
 前號ノ船舶ノ修繕ノ爲使用スヘキ物品ニシテ輸入税ノ
 免除ヲ受ケムトスルモノ及獎勵金ノ交付ヲ受ケムトス
 ルモノノ種類並數量

ニ於テハ其ノ旨申請書ニ附記スヘシ

第五條 船舶修繕竣工承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スル
 コトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在
 地
 - 二 工場ノ名稱及位置
 - 三 船舶ノ位置、名稱、種類、所有者及總噸數並修繕ノ
 箇所
 - 四 船舶ノ修繕ノ爲使用シタル物品ニシテ輸入税ノ免除
 ヲ受ケタルモノ及獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ
 種類並數量
 - 五 竣工ノ年月日
- 船舶ノ修繕ニ該船舶ノ修繕用物品ト一定期間内ニ使用ス
 ヘキ船舶修繕用物品トヲ併セ使用シタルトキハ之ニ關ス
 ル各竣工承認申請書ハ同時ニ之ヲ提出スヘシ
- 第六條** 承認申請書及承認更正申請書ニ物品ノ種類及數量
 ヲ記載スルニ當リテハ(一) 船體用鐵鋼材(二) 機關用
 鐵鋼材(三) 艤裝品用鐵鋼材(四) 機關、機關部分品、
 艤裝品及艤裝品部分品ニ四類別シ各鐵鋼材ニ付テハ更ニ
 (イ) 地(ロ)片(ハ)條及竿(ニ)板(ホ)筒及管ノ五

船舶建造及修繕用物品承認規則

第四條 船舶建造竣工承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スル
 コトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在
 地
 - 二 工場ノ名稱及位置
 - 三 船舶ノ製造番號及種類
 - 四 船舶ノ建造ノ爲使用シタル物品ニシテ輸入税ノ免除
 ヲ受ケタルモノ及獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ
 種類並數量
 - 五 竣工ノ年月日
- 前項第四號ノ物品中ニ鐵鋼材アル場合ニ於テ之ヲ船體ニ
 使用シタルトキハ船體橫截面圖、船體中心線縱截面ノ鐵
 鋼材配置圖、各甲板鐵鋼材配置圖、外板展開圖及支水隔
 壁構造圖、汽機ニ使用シタルトキハ汽機圖、汽機ニ使用
 シタルトキハ汽機圖、艤裝品ニ使用シタルトキハ當該艤
 裝品圖及第二條第二項ニ依リ添附シタル鐵鋼材全部ノ合
 計重量ニ關スル書類ノ記載ニ變更アリタルトキハ之ヲ訂
 正シタル書類各二通ヲ申請書ニ添附スヘシ但シ形狀及寸
 法ヲ同クスル船舶ニ付同一管海官廳ニ竣工承認申請ヲ爲
 シタルモノアルトキハ之ヲ添附セサルコトヲ得此ノ場合

種類ニ分チ各合計重量ヲ明ニスヘシ但シ獎勵金ノ交付ヲ
 受ケムトスル塊又ハ片ニ在リテハ其ノ製造者ヨリ引取ラ
 ムトスルモノカ素材ナルトキハ其ノ素材ノ合計重量ヲ、
 鍛造品若ハ成品ナルトキハ其ノ鍛造品又ハ成品ノ合計重
 量ノ各別ニ明ニスヘシ

竣工承認申請書ニ鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リ
 テハ前項ノ類別及種類ニ依ルノ外塊、片ニ付テハ各品名
 筒數、使用重量(獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニ在
 リテハ其ノ製造者ヨリ引取リタルモノカ素材ナルトキハ
 其ノ素材ノ引取重量及使用重量並其ノ鍛造後ノ鍛造品ノ
 重量、鍛造品若ハ成品ナルトキハ之ヲ明ニシタル上其ノ
 鍛造品又ハ完成品ノ重量) 及用途ヲ、條及竿、板、筒及
 管ニ付テハ各品名、形狀、寸法、筒數使用重量及用途ヲ
 明ニスヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材
 ニ付テハ其ノ鋼質及製造者ヲモ明ニスヘシ

第七條 管海官廳ハ何時ニテモ承認申請書、承認更正申請
 書竣工承認申請書、又ハ屆書ニ記載シタル事項若ハ添附
 シタル書類及圖面ノ補正ヲ命シ又ハ其ノ副本若ハ其ノ他
 ノ書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

管海官廳ハ調査上差支ナキトキハ申請書ニ添附スヘキ書類及圖面ノ添附ヲ省略セシメ又ハ其ノ記載ヲ簡約セシムルコトヲ得

第八條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ニ付其ノ調査及工事施行ノ監督ヲ他ノ管海官廳ニ囑託スルコトヲ得
前項ノ囑託ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル後申請者カ囑託事項ニ關シ提出スル承認更正申請書又ハ第十條ノ屆書ハ受託管海官廳ヲ經由スヘシ

第九條 管海官廳ハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ヲ正當ト認ムルトキハ申請者ニ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ヲ交付スヘシ
管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ必要アリト認ムルトキハ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ノ數通又ハ副本ノ交付ヲ爲スコトヲ得
承認書、承認更正書及竣工承認書ハ輸入税ノ免除ヲ受ケムトシ又ハ受ケタル物品ニ關スルモノ及獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ關スルモノニ分チ第一號乃至第三號

令ニ依リタルモノト看做ス

附 則 (昭和十二年逡信省令第八十四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造又ハ修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(第一號書式)

- 年 甲 (又ハ乙若ハ乙特) 第 號
- 船舶建造 (又ハ修繕) 用物品承認書
- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 船舶ノ製造番號及種類 (又ハ一年ヲ超エサル一定期間若ハ船舶ノ位置、名稱及種類)
- 四 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ノ種類及數量
- 五 起工期日 (又ハ著手期日) 及竣工期日
- 右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及期日 (又ハ期間) ニ於テ建造 (又ハ修繕) スル船舶ニ使用スルニ必要ナルコトヲ承認ス

管海官廳名印

船舶建造及修繕用物品承認規則

ノ書式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第十條 船舶建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキ又ハ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ都度第六條第二項及第三項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル屆書ヲ遲滞ナク當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十一條 一定期間内ニ使用スヘキ船舶修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ其ノ物品ヲ船舶ノ修繕ノ爲使用セムトスルトキハ工場ノ名稱及位置、船舶ノ位置、名稱、種類、所有者及總噸數並修繕ノ箇所、著手期日及竣工期日ヲ記載シタル屆書ヲ當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ届出テタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十二條 承認書、承認更正書又ハ竣工承認書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ譽換又ハ再交付ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ニ爲サレタル船舶修繕用物品承認申請ハ之ヲ本

備考

- 一 番號中ノ甲ハ船舶建造用物品承認書、乙ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノ、乙特ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ特定船舶ノ修繕用物品ニ關スルモノニ附スヘキモノトス
 - 二 第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第一項ニ依リ記載シ尙獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スベキモノトス
 - 三 第五號ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノニハ記載セサルモノトス
- (第二號書式)
- 年 甲 (又ハ乙若ハ乙特) 第 號
 - 船舶建造 (又ハ修繕) 用物品承認更正書
 - 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地
 - 右申請者ニ 年 月 日 交付シタル
 - 年 甲 (又ハ乙若ハ乙特) 第 號 船舶建造 (又ハ修繕) 用物品承認書中左ノ如ク更正ス

年 月 日

管海官廳名印

備考

番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス
(第三號書式)

- 一 申請者ノ姓名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 船舶ノ製造番號及種類(又ハ位置、名稱及種類)
- 四 船舶ノ建造(又ハ修繕)ノ爲使用シタル物品ニシテ輸入税ノ免除ヲ受ケタルモノ又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量
- 五 竣工ノ年月日

右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及年月日ニ於テ竣工シタル船舶ノ建造(又ハ修繕)ニ使用セラレタルコトヲ承認ス

備考

一 番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス

年 月 日

管海官廳名印

二 第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第二項ニ依リ記載シ尙獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スヘキモノトス

船舶建造及修繕用物品承認規則取扱手續

(大正十三年)
(公達第四百二十七號)

改正 大正十五年
公達第三百五十號

第一章 總 則

第一條 大正十年勅令第二百三十九號及製鐵業獎勵法施行令ニ掲ケル鐵鋼船ハ機械力又ハ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有セサル船舶及艦船ヲ包含スルモノトス

第二條 管海官廳ハ船舶建造用物品承認申請書ヲ受理シタルトキハ「大正何年甲第何號」、船舶修繕用物品承認申請書ヲ受理シタルトキハ「大正何年乙第何號」ニ於テ一定期間ニ關スルモノニ在リテハ「大正何年乙第何號」特定船舶ニ關スルモノニ在リテハ「大正何年乙第何號」ナル受付番號ヲ之ニ附シ爾後

當該申請ニ關聯セル承認更正申請書、竣工承認申請書又ハ屆書等ヲ受理シタルトキハ同一受付番號ヲ之ニ附スヘシ

受託管海官廳ハ囑託ニ關スル書類竝自願ヲ經由スル承認、更正申請書又ハ屆書等ヲ受理シタルトキハ「大正何年丙第何號」ナル受付番號ヲ之ニ附スヘシ

第二章 申請書及屆書作成方

第三條 申請書及屆書ニ記載セシムヘキ工場ノ名稱及位置ハ修繕ノ工事ヲ普通ノ工場ニ於テ爲ササルトキハ當該物品ヲ使用スル船舶又ハ申請者ノ住所若ハ事務所ヲ、建造又ハ修繕ノ工事ヲ爲ス工場二箇以上アルトキハ主ナル工場ヲ記載セシムヘシ

第四條 申請書ニ記載セシムヘキ物品ノ種類及數量ハ竣工承認申請書中ノ鐵鋼材ニ關スルモノヲ除クノ外第一號書式ニ依リ之ヲ記載セシムヘシ

第五條 承認規則第六條ニ掲ケル鍛造品ハ旋削工事直前ノモノヲ謂ヒ成品ハ半成品及完成品ヲ包含スルモノトス

第六條 承認規則第六條ニ掲ケル鋼質ハ塊及片ニ在リテハ普通鋼、ニツケル鋼、ニツケルクローム鋼又ハ其ノ他ノ鋼、條及竿ニ在リテハ普通鋼(高張力鋼ヲ含ム)、ター

船舶建造及修繕用物品承認規則取扱手續

ピンブレードイソング用ニツケル鋼、ターピンブレードイソング用ステンレス鋼又ハ其ノ他ノ鋼、板ニ在リテハ普通鋼、(高張力鋼ヲ含ム)又ハ其ノ他ノ鋼、筒及管ニ在リテハ冷間引拔鐵目無鋼、熱間仕上鐵目無鋼、又ハ其ノ他ノ鋼ニ區別シ之ヲ記載セシムヘシ

第七條 申請書及屆書ニ記載セシムヘキ船舶ノ位置ハ修繕ヲ爲ス船舶ノ所在スル港灣船、船渠等ノ名稱ヲ記載セシムヘシ

第八條 申請書及屆書ニ記載セシムヘキ起工期日及修繕ノ着手期日ハ承認ヲ受クヘキ物品ノ使用開始ノ日ヲ、竣工期日及竣工ノ年月日ハ承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル工事を終了ノ日ヲ記載セシムヘシ

第九條 申請書及屆書ニ記載セシムヘキ修繕ノ箇所ハ修繕ノ範圍ヲ推知シ得ル程度ニ之ヲ記載セシムヘシ

第三章 申請書及屆書提出方

第十條 數人カ各別ニ船舶ノ一部ノ建造又ハ修繕ヲ爲ストキハ各別ニ承認申請ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 承認規則第十二條ノ届出ハ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品トシテ承認ヲ受ケタルモノヲ特定船舶ニ對スル修繕用物品承認申請ヲ爲シタル船舶ノ修繕ニ使用

セムトスルトキト雖之ヲ爲サシムヘシ

第十二條 竣工承認申請ハ已ムヲ得サル事由ナキ限り船舶ノ發航前之ヲ爲サシムヘシ

第四章 申請書及届書ニ關スル調査監督ノ囑託

第十三條 管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ調査監督ノ囑託ヲ爲サムトスルトキハ其ノ囑託事項ニ關スル必要書類ヲ當該管海官廳ニ送付スヘシ

第十四條 管海官廳囑託ヲ爲シタルトキハ事由ヲ具シ遲滞ナク管船局ニ之ヲ報告スヘシ

囑託事項ノ處理要項ハ第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ管船局ニ提出スル報告書ニ之ヲ明ニスヘシ

第十五條 受託管海官廳ハ受託事項ニ付調査ヲ了リタルトキハ遲滞ナク囑託管海官廳ニ必要ナル書類及圖面ヲ添へ調査報告ヲ爲スヘシ

第五章 申請書及届書ノ調査及報告

第十六條 管海官廳ハ申請又ハ届出ヲ適當ト認メタルトキハ左ノ各號ニ依リ當該鐵鋼材類別表ヲ作成シ一件書類中ニ綴込ミ置クヘシ

一 承認更正申請書ノ調査ヲ了リタルトキ 承認更正鐵鋼材類別表

二 承認規則第十條ノ規定ニ依ル届書ノ調査ヲ了リタルトキ 輸入引取鐵鋼材類別表

三 竣工承認申請書ノ調査ヲ了リタルトキ 使用鐵鋼材類別表及一定期間内ニ於ケル船舶修繕用鐵鋼材ニ關スル第二回以後ノ竣工承認ニ在リテハ使用鐵鋼材累計類別表

前項ノ鐵鋼材類別表ハ第二號書式ニ依ルヘシ

第十七條 鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載シタル書類ニハ前條ノ鐵鋼材類別表ト對照ノ爲「何類別表第何表對照」ト朱記スヘシ

第十八條 管海官廳ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ豫メ調査報告書ヲ管船局ニ提出シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

一 船舶建造用物品承認書又ハ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品承認書ヲ交付セムトスルトキ

二 前號ノ承認書ニ關聯セル承認更正書ヲ交付セムトスルトキ但シ更正事項ノ輕微ナル場合ヲ除ク

三 船舶建造竣工承認書ヲ交付セムトスルトキ
前項ノ調査報告書ニハ申請書(添附書類及圖面ヲ含ム)及鐵鋼材類別表ノ寫各一通ヲ添付スヘシ

第十九條 管海官廳ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ遲滞ナク調

查報告書ヲ管船局ニ提出スヘシ

一 特定船舶ニ對スル船舶修繕用物品承認書ヲ交付シタルトキ

二 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫メ管船局ノ指揮ヲ受クルヲ要セサル場合ニ於テ承認更正書ヲ交付シタルトキ

三 承認規則第十條ノ規定ニ依ル届書提出アリタルトキ

四 船舶修繕竣工承認書ヲ交付シタルトキ
前項ノ調査報告書ニハ申請書(添附書類及圖面ヲ含ム)又ハ届書及鐵鋼材類別表ノ寫各一通ヲ添付スヘシ

第六章 承認書、承認更正書及竣工承認書作成方

第二十條 承認書、承認更正書及竣工承認書ニハ申請書ノ受附番號ト同一番號ヲ附シ且其ノ番號ノ下ニ輸入税ノ免除ヲ受ケムトシ又受ケタル物品ニ關スルモノニ在リテハ「輸」ノ字ヲ、獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ關スルモノニ在リテハ「獎」ノ字ヲ添記シ尙各葉ニハ契印ヲ捺スヘシ

第二十一條 承認書、承認更正書及竣工承認書ニハ物品ノ種類及數量ノ記載ヲ省略シ申請者ヨリ提出セシメタル書類ヲ之ニ代用スルコトヲ得

船舶建造及修繕用物品承認規則取扱手續

第七章 書類ヲ保存

第二十二條 承認ニ關スル一件書類ハ當該手續終了シタル年ノ翌年ヨリ五年間管海官廳ニ之ヲ保存スヘシ

附 則

本公達ハ大正十三年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本公達ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本公達ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十五年八月七日公布)

備考

- 一 獎勵金交付鋼材ノ數量欄中ノ塊及片ニ限リ其ノ製造者ヨリ引取ルヘキ狀態ニ應シ素材、鍛造品及成品ニ區別シテ「素」「鍛」又ハ「成」ノ字ヲ冠附シ各別ニ記入セシムヘシ
- 二 更正承認申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニハ更正セラルヘキ事項ニ「舊」ノ字ヲ、更正承認ヲ受ケムトスル事項ニ「新」ノ字ヲ冠附シ同一欄内ニ上下ニ對照列記セシムヘシ但シ新ニ物品ノ種類ヲ追加スル場合ニ於テハ「新」ノ字ヲ冠附シ更正承認ヲ受ケムトスル事項ノミヲ記載セシムヘシ
- 三 申請書ニ記載セル工場以外ノ工場ニ於テ船舶ノ建造又ハ修繕ノ工事ノ一部ヲ爲サムトスルトキハ其ノ工場ノ名稱及位置ヲ明ニシ其ノ工場ニ使用セムトスル物品ノ種類及數量ヲ本書式ニ準シ別途ニ記載シタル書類ヲ作成シ添附書類トシテ之ヲ提出セシムヘシ

第二號書式

昭和

年

月

日作成

逓信局海軍部

出張所

類別表

承認番號		船舶ノ製造番號又 名稱及一定期間		工場ノ名稱	
昭和 年 第 號		自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日			
種類	數量	免稅鐵鋼材 ノ重量	獎勵金交付 鐵鋼材ノ重量	全所要鐵鋼材 ノ重量	摘要
船體用鐵鋼材					
内 譯	塊		蒸鍛成	}	
	片		蒸鍛成		
	條及竿				
	板				
筒及管					
機關用鐵鋼材					
内 譯	塊		蒸鍛成	}	
	片		蒸鍛成		
	條及竿				
	板				
筒及管					
載裝品用鐵鋼材					
内 譯	塊		蒸鍛成	}	
	片		蒸鍛成		
	條及竿				
	板				
筒及管					

船舶建造及修繕用物品承認規則取扱手續

備考

- 一 「類別表」ノ前ニハ「承認更正鐵鋼材」、「輸入引取鐵鋼材」、「使用鐵鋼材」又ハ「使用鐵鋼材累計」ト記入スヘシ
- 二 「船舶ノ製造番號又ハ名稱及一定期間」欄中ノ一定期間ハ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用鐵鋼材ニ關スル各類別表ニ限リ記入スヘシ
- 三 「全所要鐵鋼材ノ重量」欄ニハ船舶建造用鐵鋼材ニ關スル各鐵鋼材類別表(輸入引取鐵鋼材類別表ヲ除ク)ニ限リ記入スヘシ
- 四 「獎勵金交付鋼材ノ重量」欄中ノ塊及片ニ限リ其ノ製造者ヨリ引取ルヘキ又ハ引取リタル状態ニ應シ素材、鍛造品及成品ニ區別シテ「素」、「鍛」又ハ「成」ノ字ヲ冠附シ各別ニ記入スヘシ
- 承認更正鐵鋼材類別表ノ各重量欄ニハ更正後ノ承認高ヲ、輸入引取鐵鋼材類別表ノ各重量欄ニハ最初ノ輸入又ハ引取後ノ全輸入高又ハ全引取高ヲ、使用鐵鋼材累計類別表ノ各重量欄ニハ當該承認期間開始後ノ全使用高ヲ累計記入スヘシ
- 五 「摘要」欄ニハ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ
- 六 「第 表」ハ同一承認番號ノモノ毎ニ各類別表ヲ通シ作成ノ順序ヲ示スヘキ數字ヲ記入スヘシ

關稅定率法 (拔萃)

(明治四十三年法律第五十四號)

改正 大正十四年法律第五十六號

第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス

第十條 船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル鐵鋼材、鐵裝品、鐵裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得

關稅定率法・關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件

關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件

(大正十一年勅令第二百三十九號)

第一條 關稅定率法第十條ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル物品ハ左ノ各號ニ掲クルモノニシテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用スルモノニ限ル

一 鐵鋼材(船體用、機關用又ハ鐵裝品用ノモノ)

鋼塊及鋼片(鍛造用ノモノ)

條及竿(テーパー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレードイングリヤ合ム)

板

筒及管(鑄タルモノヲ除ク)

二 鐵裝品

操舵用テレモーター及テレモーター付操舵裝置水壓式支水隔壁戸及其ノ裝置

ウエリス式ボートダビット及其ノ裝置

クレート式消火消毒裝置

クロノメーター

厨房装置

洗濯装置

三 機關部分品

タービン用ノフオージドインゴット、フオージドディスク、フオージドリリング、ホローブルーム、ロートルドラム及エキスパンションリング、コンゲートッドボイラーフアーネステューブ
ハウデン式フアーネステューブ
マツクネール式ノマンホールドア及マンホールドアサツドルプレート
四 新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品ニシテ逓信大臣ノ認許ヲ得タル機裝品、機裝品部分品機關又ハ機關部分品

第二條 前條ニ掲クル物品ヲ使用シテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ハ大藏大臣ノ定ムル事項ニ付豫メ管海官廳ノ承認ヲ受ケ其ノ承認書ヲ輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入手數ヲ爲ス税關ニ提出スヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
第三條 前條ニ規定スル者其ノ工場又ハ藏置場ニ税關官吏

ノ提出ヲ命スルコトヲ得
當該官吏ハ隨時工場若ハ藏置場ニ就キ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ検査シ又ハ之ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第八條 海軍工作廳ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ第一條ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セス
海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ本令中管海官廳ノ職務ハ海軍官憲之ヲ行フ但シ其ノ建造又ハ修繕ニ使用スル官給品ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第九條 本令中大藏大臣及逓信大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ
附 則
本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百三十九號施行ニ關スル件

ノ常時派出ヲ受クル場合ニ於テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ

第四條 第二條ニ規定スル者ハ船舶ノ建造又ハ修繕ノ工事施行ニ付テハ管海官廳、輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ノ取扱ニ付テハ税關長ノ監督ヲ受クヘシ

第五條 船舶ノ建造又ハ修繕竣リタルトキハ第二條ニ規定スル者ハ其ノ旨管海官廳ニ申告シテ承認ヲ受ケ承認書ヲ税關ニ提出スヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ物品ノ輸入免許ヲ取消シ又ハ輸入申告者ヨリ輸入税ヲ追徴ス但シ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ税關長ノ認許ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 承認ヲ受ケタル物品ヲ當該船舶ノ建造ニ使用セサルトキ
二 承認ヲ受ケタル竣工期限迄ニ船舶ノ建造竣ラサルトキ
三 承認ヲ受ケタル期間内ニ修繕ニ使用スヘキ物品ヲ使用セサルトキ

第七條 管海官廳又ハ税關長ハ第二條ニ規定スル者ニ對シ船舶ノ建造又ハ修繕ニ關シ調査又ハ監督ニ必要ナル書類

大正十年勅令第二百二十九號施行ニ關スル件

(大正十年) 大藏省令第十九號

昭和十四年 大藏省令第三十七號

第一條 大正十年勅令第二百二十九號第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

- 甲 船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合
 - 一 船舶ノ製造番號及種類
 - 二 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量
 - 三 工場ノ名稱及位置
 - 四 起工期日及竣工期日
- 乙 船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合
 - 一 各工場ニ於テ一定期間内ニ特定セサル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量又ハ特定セル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入税ノ免除ヲ受ケムト

スルモノノ種類、數量、船舶ノ名稱、種類、修繕ノ著手期日及竣工期日

二 工場ノ名稱、位置及修繕ヲ爲スヘキ場所

第二條 大正十年勅令第二百三十九號ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ同勅令第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ハ税關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシメサルコトヲ要ス前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ税關官吏ノ承認ヲ受ケヘシ

第四條 大正十年勅令第二百三十九號第六條但書ノ規定ニ依リ輸入免許ノ取消又ハ輸入税ノ追徴ヲ爲ササル場合左ノ如シ

- 一 承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使用スル爲メ税關長ノ認許ヲ受ケタルトキ
- 二 承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付税關長ノ認許ヲ受ケタルトキ
- 三 一定期間内ニ特定セサル船舶修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲メ税關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件

(大正十年) 遞信省令第三十六號

改正 大正十三年 遞信省令第二十四號

第一條 大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ定ムル遞信大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ本令ニ依リ認許申請ヲ爲スヘシ

第二條 認許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

- 甲 船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合
- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件

キ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ豫メ當該物品ノ名稱、數量及同勅令第二條ニ依ル承認書ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ税關ニ申告スヘシ

第五條 大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者ハ工場毎ニ帳簿ヲ備ヘ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、數量、輸入手數ヲ爲シタル税關、輸入免狀番號、搬出入ノ年月日及搬出先
- 二 使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名並右ニ關スル承認書ノ種類及番號
- 三 建造又ハ修繕シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名、其ノ起工又ハ著手及竣工ノ年月日、國籍、所有者、種類資格、總噸數並機關ノ種類及箇數但シ海軍艦船ニ付テハ總噸數並機關ノ種類及箇數ヲ除ク

附 則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (大正十五年大藏省令第十九號)

- 二 認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數
- 三 右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由
- 四 右物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號
- 五 工場ノ名稱及位置

乙 船舶ノ修繕ニ使用セムトスル場合

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
- 二 認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數
- 三 右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由
- 四 工場ノ名稱及位置

第三條 遞信大臣ハ認許申請ノ當否ニ基キ之ヲ認許シ又ハ認許セザリシトキハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ

第四條 認許ハ其ノ通知後三月内ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則又ハ海軍艦船建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ナル理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第五條 申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ申請書ニ記載シ

タル用途、船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨遞信大臣ニ届出ツヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(本令ハ大正十年七月二十日公布)

大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手数料

(昭和九年五月) (大藏省令第十八號)

大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手数料ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ納付スベシ但シ赴任旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

派出スル税關官吏一人ニ付

- 一 事務官補、監視 一月迄毎ニ 八十圓
- 又ハ鑑査官補
- 二 監 吏 一月迄毎ニ 六十五圓

前項各號ノ税關官吏大正十年大藏省令第八號交通至難ノ場

所在勤者月手當給與細則別表ノ地域ニ派出スルトキノ手数料ハ前項各號ノ手数料ニ同細則ニ依リ支給スル月手當額ヲ加ヘタルモノトス

附 則

本令ハ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年大藏省令第二十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

海軍艦船建造及修繕用物品承認規則

(大正十五年六月) (海軍省令第九號)

改正 昭和十四年 海軍省令第二十二號

第一條 海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス者大正十年勅令第二百三十九號ニ依リ海軍

官憲ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

前項ノ承認申請ニ基キ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ承認更正申請書ヲ、承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル艦船ノ建造又ハ修繕ヲ竣リタルトキハ遲滞ナク竣工承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

第二條 前條ノ申請書ハ艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス工場所在地ニ在ル造船監督官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三條 海軍艦船建造用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
- 二 工場ノ名稱及位置
- 三 艦船ノ製造番號、名稱又ハ假稱呼、種類(軍艦又ハ雜役船ニ區分)
- 四 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量
- 五 起工期日及竣工期日

第四條 海軍艦船修繕用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地
- 二 工場ノ名稱、位置及修繕ヲナスヘキ場所

大正十年勅令第二百三十九號第三號ニ依ル手数料、海軍艦船建造及修繕用物品承認規則 三八九

三 艦船ノ名稱及種類(軍艦又ハ雜役船ニ區分)

四 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

五 修繕ノ著手期日及竣工期日

第五條 海軍艦船ノ建造竣工承認申請書及修繕竣工承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 艦船ノ製造番號及名稱

四 艦船ノ建造又ハ修繕ノタメニ使用シタル物品ニシテ輸入税ノ免除ヲ受ケタルモノノ種類及數量

五 竣工ノ年月日

第六條 承認申請書及承認更正申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ(一)船體用鐵鋼材(二)機關用鐵鋼材(三)艦裝品用鐵鋼材(四)機關、機關部分品、艦裝品及艦裝品部分品ニ四類別シ(一)(二)(三)ニ付テハ更ニ(イ)塊(ロ)片(ハ)條及竿(ニ)板、(ホ)筒及管ノ五種類ニ分テ各合計重量ヲ明ニスヘシ

竣工承認申請書ニ鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ前項ノ類別及種類ニ依ルノ外塊、片ニ付テハ各品名筒數、使用重量及用途ヲ、條及竿、板、筒及管ニ付テハ

各品名、形状、寸法、箇數、使用重量及用途ヲ明ニスヘシ

第七條 承認申請書ハ二通トシ署名捺印スルコトヲ要ス

第八條 海軍艦政本部長又ハ造船監督官ハ何時ニテモ申請書又ハ届書ニ記載シタル事項若ハ添附シタル書類及圖面ノ補正ヲ命シ又ハ關係書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 海軍艦船ノ建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキハ其ノ都度第六條第二項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル届書ヲ遲滞ナク所在造船監督官ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十條 海軍艦政本部長ハ申請書ヲ調査シ承認ヲナスヘキモノト認ムルトキハ申請書一通ノ末尾ニ承認ノ旨番號及年月日ヲ記入シ官印ヲ捺捺シテ申請者ニ之ヲ交付スヘシ

附 則 本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

製鐵事業法施行令(拔萃)

(昭和十二年九月 勅令第五百七號)

改正 昭和十五年 勅令第六十四號

第十五條 製鐵事業法第十四條ノ獎勵金ハ左ニ掲グル鋼材

ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其ノ製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ譲受ケタル者ガ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 鋼塊及鋼片(鍛造用ノモノ)

二 條及竿(丁形、山形等ノ形状ヲ有スルモノ及タービシンプレーディングヲ含ム)

三 板

四 筒及管(鑄タルモノヲ除ク)

前項第一號ニ掲クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付獎勵金ヲ交付ス

第十六條 前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ者ガ鋼材ヲ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用セントスル場合ニ

製鐵事業法(拔萃)・製鐵事業法施行令(拔萃)

製鐵事業法(拔萃)

(昭和十二年八月 法律第六十八號)

改正 昭和十五年 法律第五十八號

第十四條 帝國內ニ於テ製造シタル鋼材ガ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル届書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ届書ニハ其ノ鋼材ガ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者ガ商工大臣ノ定ムル事項ニ付管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添付スベシ

第一項ノ届書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滞ナク商工大臣ニ届出ヅベシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者ガ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添付シ遲滞ナク商工大臣ニ届出ヅベシ

第十七條 第十五條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル鋼材ガ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用證明書ヲ添附シ、其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ鋼材使用説明書及造船者又ハ船舶修繕者ガ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書ヲ添附シ獎勵金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

ケタル管海官廳ノ竣工承認書ヲ添附シ獎勵金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十八條 第十五條ノ獎勵金ノ金額ハ左ノ區別ニ依ル

- 一 鋼塊及鋼片 其ノ價額ノ一割五分以内
- 二 條及竿 一連ニ付二十四圓六十六錢以内
- 三板

甲 厚サ三耗ヲ超エザルモノ 一連ニ付三十一圓五十錢以内

乙 其ノ他 一連ニ付二十四圓六十六錢以内

四 筒及管

甲 内徑百五拾耗ヲ超エザルモノ 其ノ價額ノ一割八分以内

乙 其ノ他 其ノ價額ノ一割五分以内

五 關稅定率別表輸入稅表第四六二號ノ二特殊鋼ニ該當スルモノ 其ノ價額ノ一割八分以内

前項第一號、第四號及第五號ノ價額ハ第十六條第一項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材ト同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ヲ標準トシテ商工大臣之ヲ定ム

第二十三條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ニ對シ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ノ提出ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備

帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得輸入稅ノ免除ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ニ對シ亦同ジ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ニ對シ前項ノ書類又ハ試料ノ提出ヲ命ジ、當該官吏ヲシテ前號ノ檢査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

製鐵事業法施行規則(拔萃)

(昭和十二年九月)

改正 昭和十五年六月

商工省令第四十四號

第八條 製鐵事業法施行令第十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ遲滞ナク引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期製造工場及引渡時期ヲ商工大臣ニ届出ツベシ

第九條 製鐵事業法施行令第十六條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クベキ事項ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 船舶建造ノ場合
- 二 造船者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務

所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 船舶ノ製造番號

四 船舶ノ建造ニ使用スベキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

五 起工及竣工ノ年月日

乙 船舶修繕ノ場合

一 船舶修繕者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エザル一定ノ期間

四 前號ノ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材又ハ前號ノ期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

第十條 製鐵事業法施行令第十七條ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 鋼材ノ使用者及使用工場名
- 二 船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號、製鐵事業法施行規則(拔萃)・製鐵事業法ノ一部ヲ朝鮮船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スベキ物品ノ承認ニ關スル件(朝鮮)

船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱

三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場名

四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第十一條 製鐵事業法第十一條ノ規定ニ依ル所得稅若クハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除又ハ同法第十四條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他作業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

製鐵事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

(昭和十二年九月)

勅令第五百八號

製鐵事業法ハ第六條乃至第十三條、第十六條、第二十五條第四十二條及第四十三條ノ規定ヲ除キ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附 則

本令ハ製鐵事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三九三

船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲 使用スヘキ物品ノ承認ニ 關スル件

(大正十五年六月)
朝鮮總督府令第五十七號

船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ承認ニ關シテハ
大正十五年逡信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規
則ニ依ル

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
船舶建造及修繕用物品承認規則ハ之ヲ廢止ス
本令施行前爲シタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從
前ノ例ニ依ル
本令施行前爲シタル船舶修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ
之ヲ爲シタルモノト看做ス

關稅定率法第十條施行ニ 關スル件

(大正十五年四月)
朝鮮總督府令第三十七號
改正 昭和十四年
朝鮮總督府令第五十號

第一條 大正十年勅令第二百三十九號第二條ノ規定ニ依リ

管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲 船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合

一 建造セムトスル船舶ニ使用スヘキ物品ノ種類及數
量

二 前號ノ物品中輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ
種類及數量

三 工場ノ名稱及位置

四 起工日及竣工期限

乙 船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合

一 各工場ニ於テ一定期間内ニ修繕ノ爲使用スヘキ物
品ノ種類及數量

二 前號ノ物品中輸入税ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ

種類及數量

三 工場ノ名稱及位置

第二條 輸入税ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ前
條ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ其ノ申告書ニハ承認
書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條 前條ノ規定ニ依リ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ハ
税關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシ
メサルコトヲ要ス

前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ税關官吏ノ承認ヲ受
ケタルトキ

第四條 大正十年勅令第二百三十九號第六條但書ノ規定ニ
依リ輸入税ノ免除又ハ輸入税ノ追徴ヲ爲ササル場合左
ノ如シ

一 承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使
用スル爲税關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

二 承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付税關長ノ認許ヲ
受ケタルトキ

三 修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲税關
長ノ認許ヲ受ケタルトキ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ當該物品ノ名稱、數

關稅定率法第十條施行ニ關スル件

量及前ニ承認ヲ受ケタル事項ノ變更ニ關スル承認更正書
ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ税關ニ申請スヘシ

第五條 大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者

ハ工場毎ニ帳簿ヲ備ヘ輸入税ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付
左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、
數量、輸入手數ヲ爲シタル税關搬出入ノ年月日及搬出
先

二 使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタ
ル船舶名

三 建造又ハ修繕シタル船舶名、其ノ竣工年月日、國籍
所有者及總噸數

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル 物品認許ニ關スル件

(大正十年九月) 朝鮮總督府令第三百三十五號

- 第一條 大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ認許ヲ得ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シテ提出スヘシ
- 一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地
 - 二 認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數
 - 三 前號ノ物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品タルノ理由
 - 四 第二號ノ物品ノ用途
 - 五 工場ノ名稱及位置
- 尙船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合ハ前各號ノ外前項第二號ノ物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號ヲ記載スヘシ

- 第二條 認許ヲ得タル後三月内ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキハ認許ハ其ノ効力ヲ失フ但シ正當ノ理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ
- 第三條 申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ第一條ノ申請書ニ記載シタル用途船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨朝鮮總督ニ届出ツヘシ
- 附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

製鐵事業法施行規則(拔萃)

(昭和十二年九月) 朝鮮總督府令第四百十五號

改正 昭和十三年 朝鮮總督府令第九號

- 第五條 製鐵事業法施行令第十六條一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ鋼材ヲ引渡シタルトキハ運滞ナク鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ記載シタル

届書ニ引取人ト連署ノ上之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第六條 製鐵事業法施行令第十六條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クベキ事項左ノ如シ

- 甲 船舶建造ノ場合
- 一 造船者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地
 - 二 工場ノ名稱及位置
 - 三 船舶ノ製造番號
 - 四 船舶ノ建造ニ使用スベキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量
 - 五 起工及竣工ノ年月日
- 乙 船舶修繕ノ場合
- 一 船舶修繕者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地
 - 二 工場ノ名稱及位置
 - 三 特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エザル一定ノ期間
 - 四 前號ノ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材又ハ前號ノ期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材ニシテ獎勵金ノ

交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

第七條 製鐵事業法施行令第十七條ノ鋼材使用説明書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スベシ

- 一 鋼材ノ使用者及使用工場名
 - 二 船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱
 - 三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場名
 - 四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期
- 第八條 製鐵事業法第十四條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ製造及販賣又ハ引渡シ其ノ他作業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ニ關スル件(朝鮮)・製鐵事業法施行規則(拔萃)(朝鮮)・大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關スル件(臺灣)

大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關スル件

(昭和二年二月 臺灣總督府令第八號)

大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關シテハ大正十年遞信省令第三十六號及大正十五年遞信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十年府令第二百一十一號ハ之ヲ廢止ス

第五輯 航海

第一章 海上衝突豫防其ノ他航行取締

海上衝突豫防法

(明治二十五年六月 法律第五號)

改正 大正十四年三月 法律第三十八號

總 則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハズ凡ソ航洋船ノ運航シ得ベキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス
本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キザルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用キザルトノ別ナク汽船ト看做スベシ
本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非

海上衝突豫防法

ザル場合ヲ謂フ

船 燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セズ日没ヨリ日出マテ必ズ遵守スベシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲グベカラズ

第二條 汽船ハ航行中必ズ左ノ燈ヲ掲グベシ

一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘザルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラザル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラザル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲グベシ然レドモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲グルヲ要セズ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ヅツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點

マデ及ブベキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

二、右舷ニ緑燈ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マデ及ブベキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

三、左舷ニ紅燈ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マデ及ブベキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

四、本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得ザル様ニ爲スベシ

五、汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ゲ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲グル

ノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲グルヲ要ス然レドモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スベシ本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲グルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得ザル船舶ハ夜間ニアリテハ

第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ

海底電信船ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スベシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ

成ルベク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色ノ紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クベシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓權ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必ズシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲グルヲ要セズ然レドモ若之ヲ掲ゲザルトキハ必ズ左ノ規定ニ依ルベシ

一 四十噸未滿ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラズ且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲グベシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲グルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造シタル兩色燈一箇ヲ掲グベシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲グルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ

紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色菱形ヲ用ウベシ

本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ掲グベカラズ然レドモ運行スルトキハ必ズ之ヲ掲グベシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得ズシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハザルノ信號ト認ムベシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スベカラズ難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲グベシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グベカラズ

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ベキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示スベシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ズ且

掲グルヲ得然レドモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓權ヲ用ウルトニ拘ハラズ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スベシ但ノ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

四 櫓權ヲ以テ運轉スル船ハ櫓權ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラズ白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スベシ
本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲グルニ及バズ

第八條 水先船水先業務ノ爲メ其營業所ニ在ル時ハ他船ニ要スル燈ヲ表示セズ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ櫓權ニ掲ゲ且十五分時ヲ超エザル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スベシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スベシ

但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスベキ水先船ハ白燈ヲ櫓權ニ掲グル代リニ臨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得
免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セザルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ櫓燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ紅燈一箇ヲ増掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲ゲベシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ増掲スベシ但シ舷燈ヲ掲ゲベカラズ

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セザルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同様ノ燈ヲ掲ゲベシ
第九條 漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲グルカ又ハ之ヲ表示スベシ

一 無甲板即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防ガザル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離ガ百五十尺以内ナルトキハ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲ゲベシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離ガ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲ゲ且我船ノ他船ニ近寄り行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スベシ

二 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用キテ漁業ニ従業スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ掲ゲベシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラズ十五尺ヨリ多カラズ且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラズ十尺ヨリ多カラザル様其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ掲ゲベシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス
總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國

ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲グルヲ要セズ然レドモ之ヲ掲ゲザルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スベシ

三 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セズ又ハ第八ニ依リ停留セザルモノハ流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ゲベシ其ノ延繩ヲ延ベ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應ジ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲ゲベシ

總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲グルヲ要セズ然レドモ之ヲ掲ゲザルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(釣繩ノ方向ニ於テ)ニ表示スベシ
四 打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルベシ

甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三

色ノ燈籠一箇ヲ掲ゲ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラズ十二尺ヨリ多カラザル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ増掲スベシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マデハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周圍ヲ照スベク製造シタルモノヲ要ス

乙 帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周圍ヲ照ス

ベク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ゲ且他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スベシ

甲及ビ乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

五 桁網ヲ用キテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ

用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ゲ及之ヲ表示スベシ

六 漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ゲ及之ヲ表示スル外

何時ニテモ閃火ヲ用キ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

十 網延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶航

行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ藍其ノ他ノ信號ヲ掲ゲ近寄り來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スベシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄り來リタルトキ同様に信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スベシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ゲ及之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲グルニ及バズ

第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨ

リ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スベシ
本條ニ從テ表示スベキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レドモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鉞盤ノ十二點間ヲ照スベク製造シ船ノ正後ヨリ左右へ六點間宛射光ノ及ブベキ様隔板ヲ裝置シ成ルベク舷燈ト同一ノ高さニ掲グベシ

七 長サ百五十尺未満ノ漁船碇泊中ハ周圍少クモ一海里

ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲グベシ
長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲ゲ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ増掲スベシ

長サ百五十尺未満ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハズ碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ増表スベシ

八 漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二條規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スベシ(第十五條第四項及末項參照)

九 霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キ

第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見

得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ越エザル所ニ白燈一箇ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周圍少ク

モ一海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス
長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲グ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ小クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲グベシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルベシ
航路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ゲタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲グベシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セザル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨グズ又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨グズ

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ

引下ゲザルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色形象一箇ヲ掲ゲベシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウベシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スベキモノニ因リ發聲スル適

當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘

及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フベシ

又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角

ヲ備フベシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シ

タル信號ヲ爲スベシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲

ヲ一發スベシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タザルトキハ二分

時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スベシ但シ其

ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ右舷

開ナレバ一聲ヲ發シ左舷開ナレバ二聲ヲ連發シ船ノ正

横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スベシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ大約

五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスベシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ

引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得ズシテ近寄

リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハザルカ又ハ本法ニ遵テ運

轉シ能ハザル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル

信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ三聲ヲ

連發シ即チ長聲ヲ發シタル後直ニ短聲ヲ二發スベシ又

他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナ

シト雖他ノ信號ヲ爲スベカラズ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必ズシモ前數項ニ規定シタ

ル信號ヲ爲スヲ要セズ然レドモ其ノ信號ヲ爲サザルト

キハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信

號ヲ爲スベシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意

シ適度ノ速力ヲ以テ進行スベシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其

ノ所在ヲ定メ得ザルトキハ成ルベク機關ノ運轉ヲ止メ全

ク衝突ノ虞ナキニ至ルマデ其ノ運航ニ注意スベシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方

位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位儘ニ變更スル

ヲ認メザルトキハ危險アルモノト知ルベシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其

ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クベシ

一 一杯ニ開カザル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ク

ベシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船

ノ航路ヲ避クベシ

三 一杯ニ開カザル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同ジカラザ

ルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ク

ベシ

四 一杯ニ開カザル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同ジキトキ

ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クベシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クベシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フ

海上衝突豫防法

テ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ號鐘ヲ右舷ニ轉ジ互ニ他

船ノ左舷ノ方ニ行過スベシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ

虞アルトキニ限り適用スベシ兩船各々其ノ號鐘ヲ保チテ

互ニ替リ行クトキニハ適用スベカラズ

本條ヲ應用スベキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント

眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ橋ト他船

ノ橋ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ晝間ニアリ

テハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルベシ

本條ハ晝間他船ノ我號鐘ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル

トキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠

燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見ズ

シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見ズシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠

紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用ス

ベカラズ

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切テ衝突ノ虞アルトキ

ハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クベシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄り衝突ノ虞アルトキハ汽

船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クベシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路

ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ航路及速力ヲ保ツベシ但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハザル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スベシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ船ハ成ルベク他船ノ前面ヲ横切ルベカラズ

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スベシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クベシ總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サズ故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマデ他船ノ航路ヲ避クベキモノトス
晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クベシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スベシ
第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クベシ但シ漁船ト雖猥ニ他船ノ通航スベキ線路ヲ妨グベカラズ

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハザル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スベシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ航行中ノ汽船他船ニ近寄り航路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ノ航路ヲ通知スベシ

短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル
短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生ジタ

ル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメザルモノトス

特 例

第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別要則ノ施行ヲ妨グズ

難船信號

第三十一條 危難ニ羅リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スベシ

晝間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲グル

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二 船上ノ發煙(タール桶、油樽等ヲ燃燒スルノ類)

三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一時一發ヅツ度度打揚

海上衝突豫防法・海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附 則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ

施行スルノ件

(大正三年四月勅令第四十九號)

海上衝突豫防法ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス(公布ノ日ヨリ施行)

附 則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

(明治三十三年二月 勅令第二十一號)

海上衝突豫防法ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行スルノ件

(明治四十年七月 勅令第二百五十七號)

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

- 一 陸軍刑法
- 二 海軍刑法
- 三 陸軍治罪法

四 海軍治罪法

- 五 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法
- 六 陸軍軍人軍屬違警罪處分例
- 七 海軍軍人軍屬違警罪處分例
- 八 戒嚴令
- 九 軍機保護法
- 十 軍用電信法
- 十一 海上衝突豫防法
- 十二 徵發令
- 十三 陸地測量標條例

第二條 徵發令及陸地測量標條例中府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官、郡長ノ職務ハ樺太廳支廳長、町村長ノ職務ハ樺太廳長官ノ指定シタル者之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内海水道航行規則

(昭和四年三月 遞信省令第三號)

改正 昭和十五年六月 省令第三十二號

第一條 本令ハ備讃瀬戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ニ於テ備讃瀬戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽トハ左ノ水域ヲ謂フ

備讃瀬戸 男木島燈臺ヨリカナワ岩燈標、高島ノ北端、大串埼、地藏埼、黒埼、豊島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島シヨケンホ鼻及黒鼻、佐柳島ノ南西端、二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲挂燈浮標、牛島九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀬居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

來島海峽 若社川口ノ東岸ヨリ大島タケノ鼻ニ引キタル線並大下島アゴノ鼻ヨリ梶取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク

海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件、陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行スルノ件、内海水道航行規則

釣島水道 釣島ノ北端ヨリ琴引鼻、頭埼、野忽那島燈臺甫埼及小市島ノ頂ヲ經テ釣島ノ北端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

下關海峽 部埼燈臺ヨリ四十五度(眞方位)二海里ノ點ヨリ部埼燈臺及滿珠島ノ頂ニ引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串埼ニ引キタル線並和合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ關門ノ港域中門司區下關區、田野浦區及小倉區並若松ノ港域ヲ除ク

第二條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

- 一 衝突其ノ他急迫ノ危険ヲ避ケムトスルトキ
 - 二 運轉自由ヲ得ザルトキ
 - 三 人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ
 - 四 海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ
 - 五 水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ
 - 六 所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ
- 前項第二號乃至第五號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セル場合ヲ除クノ外最モ見易キ場所ニ黒又ハ黒球色ノ形象一箇ヲ掲グベシ

第一項第六號ノ船舶畫間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗ヲ掲グベシ

前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニ之ヲ適用セズ但シ備讃瀬戸中小與島ノ南端ヨリ小瀬居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峽及下關海峽ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨリ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條 船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非ザレバ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ得ズ

汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二短聲ヲ發スベシ

第四條 海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同第九條第一項及同第十條第一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限リ常ニ之ヲ掲ゲ置クベシ

第四條ノ二 海上衝突豫防法第二條第五號ノ規定ニ依リ増掲スルコトヲ得ル白燈ハ第一條ノ水域航行中ノ長サ四五・七メートル以上ノ汽船ニ限リ常ニ之ヲ掲ゲ置クベシ但シ船舶ノ構造上之ヲ掲グルコト能ハザルモノニ在リ

治港防波堤燈臺、大濱燈臺、來島白石燈標ニ近寄りテ航行スルコト

四 中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ又ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ中水道若ハ西水道ヲ通航シテ東行若ハ西行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀬鼻又ハ龍神島ニ並航シタルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回左ノ信號ヲ爲スベシ

中水道通航汽船 一長聲
西水道通航汽船 二長聲

小島、波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ並航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スベシ

中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ航行スル汽船ハ中渡島ニ並航シタルトキヨリ今治港防波堤燈臺ノ沖合迄又今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ今治港防波堤燈臺ノ沖合ヨリ中渡島ニ並航スル迄畫間ニ在リテハ最見易キ場所ニ國際信號旗第一代表旗ノ下ニCヲ

内海水道航行規則

テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 汽船ハ備讃瀬戸及釣島水道ニ於テハ左ノ航法ニ従ルベシ

- 一 島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其ノ島嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄り左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト
- 二 海上衝突豫防法第二十五條ノ適用ヲ受ケザル場所ニ於テモ尙同條ニ規定スル航法ニ依ルコト
- 三 波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條 汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

- 一 中水道ハ順潮ノ場合ニ限リ又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限リ通航スルコト但シ小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ゲズ
- 二 前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及アゴノ鼻ニ近寄り又西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト即チ行進汽船ニ在リテハ南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航行スルモノトス
- 三 第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側(今

掲ゲ夜間ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回四長聲ヲ發スベシ

第七條 前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行潮汐表ニ依ルモノトス

第八條 汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

- 一 早鞆瀬戸(柁ヶ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ヶ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マル水域)ヲ西行セントスル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ鷗ヶ鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又早鞆瀬戸ヲ東行セントスル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司燈標ヨリ巖流島南端ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト
- 二 總噸數百噸未満ノ汽船ハ前號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得此ノ場合ニ於テ出來得ル限リ門司燈ニ近寄りテ航行シ行進ヒタルトキハ東流ノ場合ニ在リテハ互ニ右舷ヲ相對シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト(若シ門司燈ニ近寄りテ航行シ能ハザルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト)

- 三 第一號ノ汽船行途ヒタルトキハ五ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト
- 四 第一號ノ規定ニ依リ早朝瀬戸ヲ東行中ノ汽船ハ第二號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見西行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト又第二號ノ規定ニ依リ早朝瀬戸ヲ西行中ノ汽船ハ第一號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見、東行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト
- 五 潮流ニ適リ早朝瀬戸ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度(水路部刊行潮汐表及下關海峡潮流圖ニ依ル)ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速力ヲ保ツコト
- 六 下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速力ニテ航行スルコト
- 帆船ハ早朝瀬戸ニ於テハ纜航スベカラズ
- 第九條 船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峡ニ於テ投錨スルトキハ晝間ニ在リテハ黒球又ハ黒色ノ形象一箇ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一箇ヲ最見易キ場所ニ掲グベシ
- 第十條 關門港若ハ若松港ヲ出入シ又ハ下關海峡ヲ通過スル船舶ハ部崎附近及六連島附近ノ間ヲ航行中前橋又ハ最

- 見易キ場所ニ左ノ信號旗ヲ掲揚スベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 下關海峡東口ニ向ケ出港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニE
- 二 下關海峡西口ニ向ケ出港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニW
- 三 門司區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニM
- 四 下關區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニS
- 五 田野浦區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニT
- 六 小倉區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニK
- 七 若松港ニ入港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニY
- 八 下關海峡ヲ通過スルモノハ國旗、信號符字及國際信號KPK

附 則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續

(明治三十五年七月 海軍省令第七號)

- 海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續左ノ通定ム
- 第一 危險物沈置區域ハ常ニ白色ノ浮標ヲ以テ之ヲ表示シ且附近適當ノ位置ニハ常ニ番船ヲ碇置シ所要ニ際シテハ通航ノ船舶及漁船等ニ對シ相當ノ指導並注意ヲ爲サシム但シ時宜ニ依リ水路嚮導船ヲ置キ番船ノ職務ヲ兼ネシムルコトアルベシ
- 第二 前項ノ番船ニハ晝間ハ赤旗及萬國船舶信號旗ノV旗ヲ掲揚シ夜間ハ上下ニ約三尺ヲ隔テテ紅燈三箇ヲ連掲ス
- 第三 天候其ノ他ノ爲番船ヲ碇置スルコト能ハザルトキハ最近陸上ニ見張所ヲ設ケ相當ノ注意ヲ爲サシムルコトアリ

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續・帝國領海内及其附近ニ於ケル潜水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ノ注意方 四一五

附 則

本令ノ手續ヲ施行スル場合ニ限リ危險物沈置區域並其ノ期間等ニ關シテハ從來ノ如ク官報ヲ以テ告示セズ

帝國領海内及其ノ附近ニ於ケル潜水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ノ注意方

(大正十三年四月 海軍省令第四號)

- 改正 昭和十一年 海軍省令第十一號
- 大正七年海軍省令第九號ヲ左ノ通り改正ス
- 帝國領海内及其ノ附近ニ於テ潜水艦作業中認識困難ヨリ生ズル衝突等ノ危害ヲ豫防スル爲潜水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ハ左ノ諸號ニ注意スベシ
- 一 潜水艦潛航中ハ一般水上船舶ニ對シ自艦ノ所在ヲ表示スル爲潛望鏡頂又ハ假製橋頂ニ適宜帆布製又ハ金屬製ノ赤色方形標識ヲ掲ゲ

潜水艦作業中之ヲ随伴スル艦船アルトキハ該艦船ニ於テB旗(赤旗)ニ箇ヲ連続橋頭又ハ桁端ニ掲揚シ以テ附近五哩以内ニ潜水艦作業中ナルヲ示シ又必要アルトキハ國際通信書(信號篇)ニ依リ自船ヲ基點トシテ潜水艦ノ所在方位ヲ示ス

二 一般船舶前號ノ標識又ハ前號ノ信號ヲ掲揚スル艦船ヲ認メタルトキハ該標識又ハ該艦船ノ動靜及信號ニ注意シ且水面ノ見張ヲ最嚴ニシテ行動スベシ

三 潜水艦ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外一般船舶ノ常用航路ヲ避ケ行動スベキニ依リ一般船舶ハ可成常用航路以外ニ逸セザル様勉ムベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國海軍艦船、航空機作業等ニ從事中信號掲揚方

(大正十五年十二月
海軍省令第二十號)

帝國海軍艦船、航空機作業、掃海作業、曳船作業及測量作

業ニ從事中ハ衝突等ノ危險ヲ豫防スル爲左記ノ信號ヲ爲シ該艦船ノ運動自由ナラザルカ針路ノ變換困難ナルカヲ表示スルヲ以テ其ノ附近海面ヲ通航シ又ハ同海面ニ於テ作業スル船舶ハ之ニ注意スベシ

一 航空機發著作業ニ從事中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ左圖ノ如キ吹流一箇掲揚ス



前項ノ信號ヲ爲セル艦船航進中ナルトキハ航空機發著作業中ナルヲ以テ其ノ前路ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船停止セルトキハ航空機發者又ハ出入作業中ナルヲ以テ其ノ千米以内ニ接近スルハ危險ナリ

二 掃海作業中ノ艦船ハ最見エ易キ所ニ晝間ニ在リテハ直徑二尺ノ黒球一箇ヲ掲揚シ夜間ニ雙以上ノ場合ニ在リテハ周圍少クトモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ(白)

艦船速力試験施行中船舶航行注意ニ關スル件

(昭和十年十月
海軍省令第十二號)

回答旗ノ下ニA旗ヲ連続橋頭又ハ桁端ニ掲揚シ航走スル艦船ハ現ニ速力試験施行中ナルヲ以テ船舶ハ總テ之ニ近寄ラザル様注意スベシ

附 則

大正七年海軍省令第七號ハ之ヲ廢止ス

船舶ノ運航ニ關スル取締規則制定改廢報告方

(明治四十四年三月
遞信省訓令第一號)

船舶(解船及通船ヲ包含ス)ノ運航ニ關シ取締規則ヲ制定シ又ハ之ヲ改廢シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク其ノ寫ヲ添

帝國海軍艦船、航空作業等ニ從事中信號掲揚方・艦船速力試験施行中船舶航行注意ニ關スル件・船舶ノ運航ニ關スル取締規則制定改廢報告方

(白)(紅)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クトモ四尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ信號ヲ爲セル艦船單艦(艇)ノ場合ニハ掃海索ヲ其ノ左右斜後ニ曳航スルヲ以テ其ノ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船對艦(艇)又ハ群艦(艇)ノ場合ニハ翼端及後尾ノモノヨリ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ

對艦(艇)ノ間ヲ航過セザル様特ニ注意スルヲ要ス

三 艦船他ノ艦艇又ハ艦砲射撃用標的等ヲ曳航中又ハ其ノ曳索ヲ揚收中ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黒球

三箇ヲ上下ニ少クトモ六尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ場合ニ於テ曳索上ヲ航過スルハ最危險ナリ

四 測量ノ爲停止中又ハ一定針路ヲ航行中ノ艦船ハ晝間見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黒球ノ下ニ少クトモ六尺ヲ隔テ



ヘテ遞信省ニ之ヲ報告スベシ但シ既ニ公布ニ係ル現行規則
ハ來四月三十日迄ニ其ノ寫ヲ送付スベシ

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關スル件

(明治四十三年六月)
關東都督府令第十八號

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關シテハ海上衝突豫
防法ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 船舶信號及通報

船舶信號ニ關スル件

(明治三十四年十月)
勅令第百八十八號

日本船舶ハ遞信省ニ於テ發行スル船舶信號書ニ據リ普通信
號ヲ爲スベシ

附 則

明治八年第百四十四號布告ハ之ヲ廢止ス

日本船舶國際通信書使用ノ件

(昭和八年八月)
遞信省令第三十四號

日本船舶ハ左ノ國際通信書(國際通信書若ハ英和國際通信
書)ヲ使用スベシ

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關スル件(關東州)・船舶信號ニ
關スル件・日本船舶國際通信書使用ノ件・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

國際通信書	信號篇
國際通信書	電信篇
英和國際通信書	信號篇
對譯國際通信書	電信篇

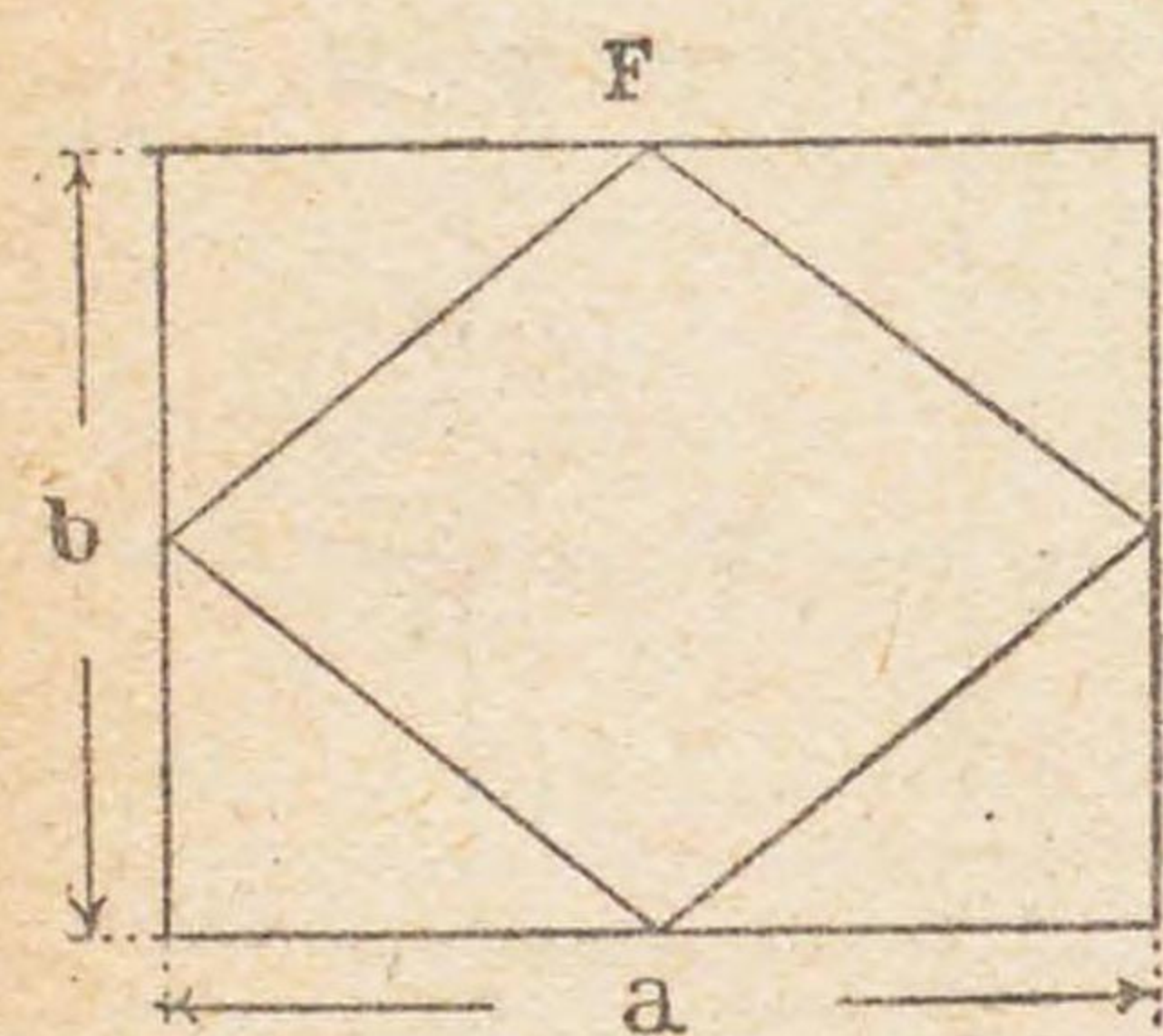
附 則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年十月遞信省令第四十四號ハ之ヲ廢止ス

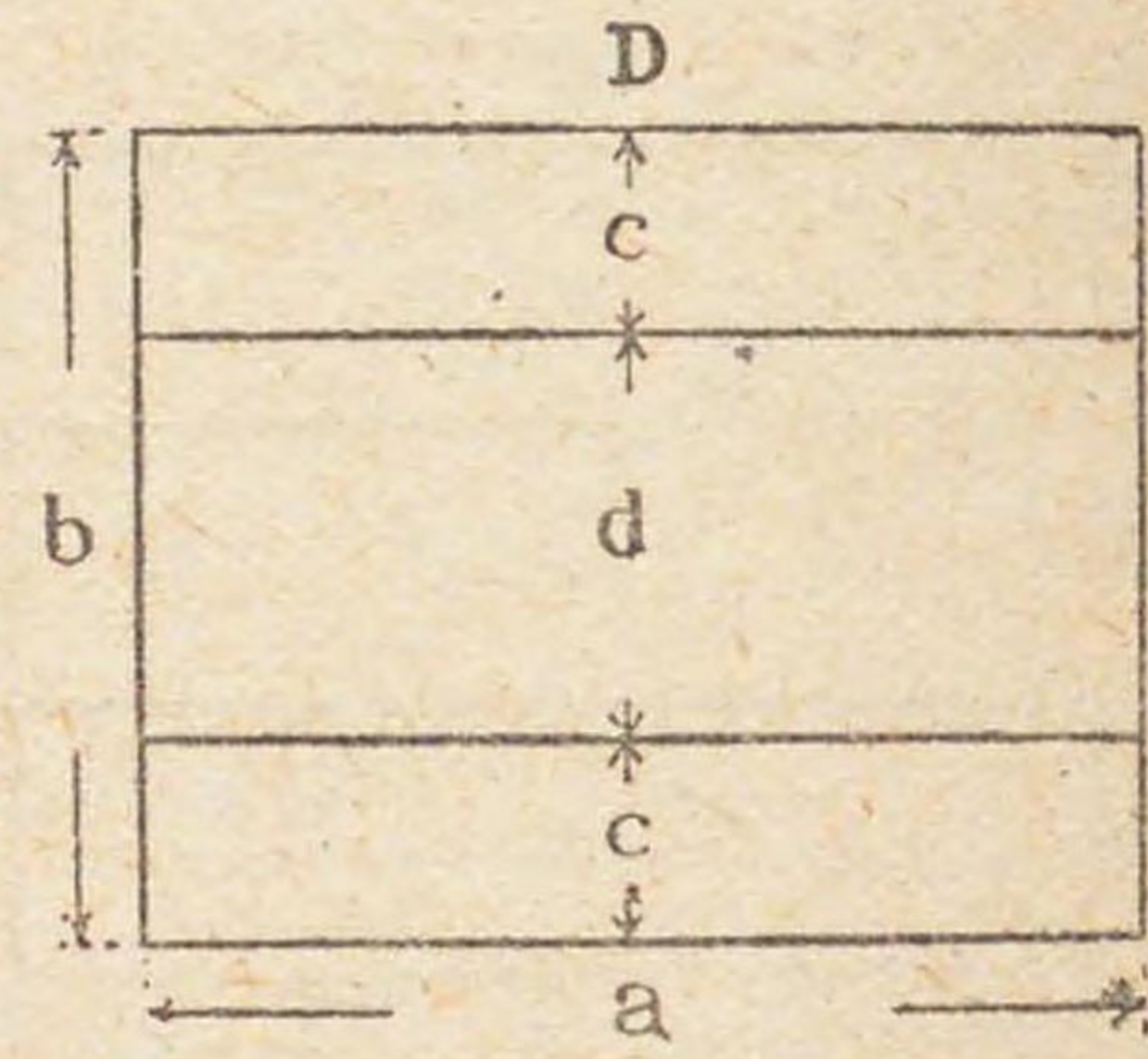
國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

(昭和八年十二月)
遞信省令第五十一號

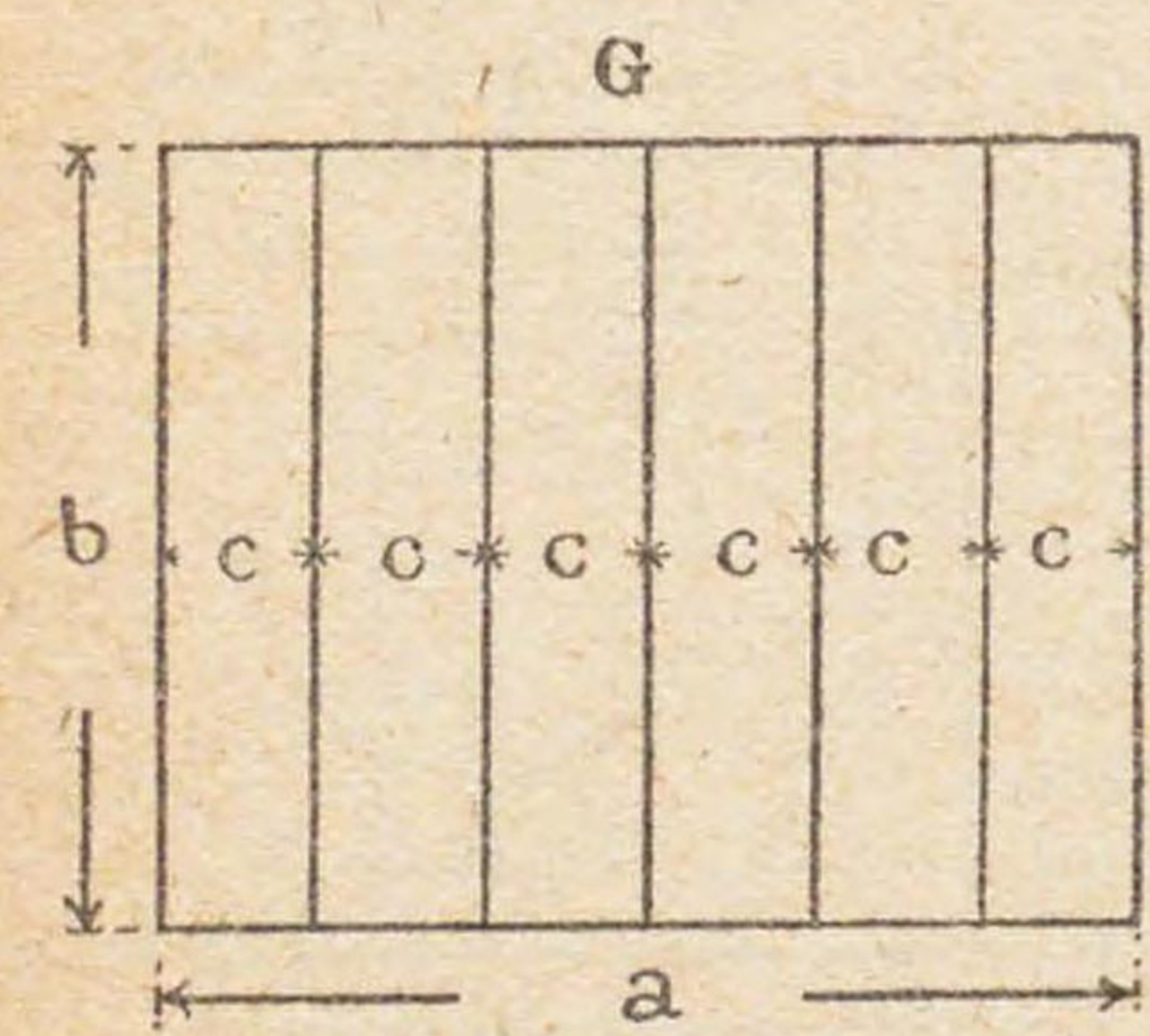
國際通信書掲載ノ國際信號旗ハ左ノ寸法ノモノヲ中何レカ
ヲ使用スベシ



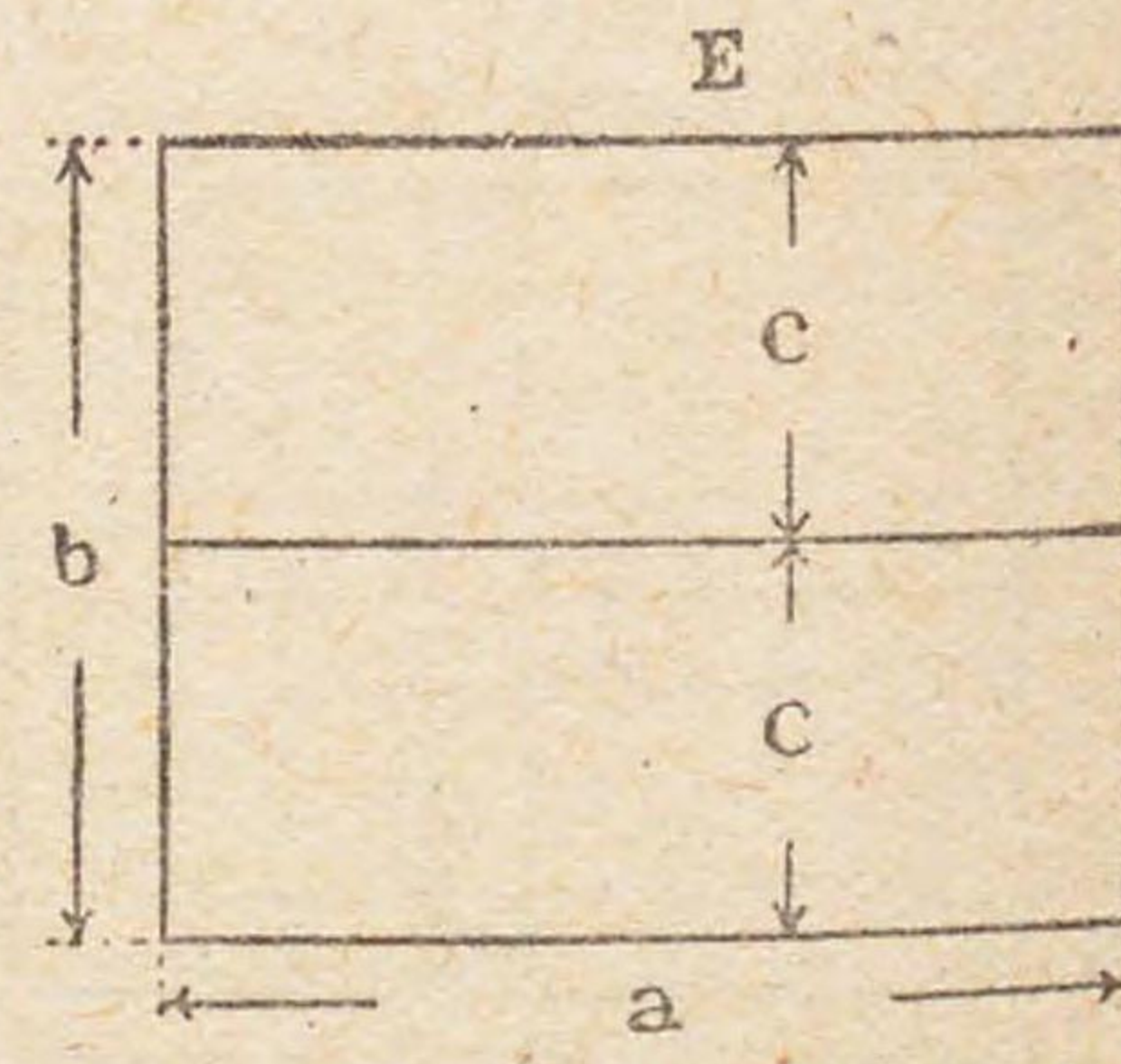
大サ	a 寸	b 寸
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	60



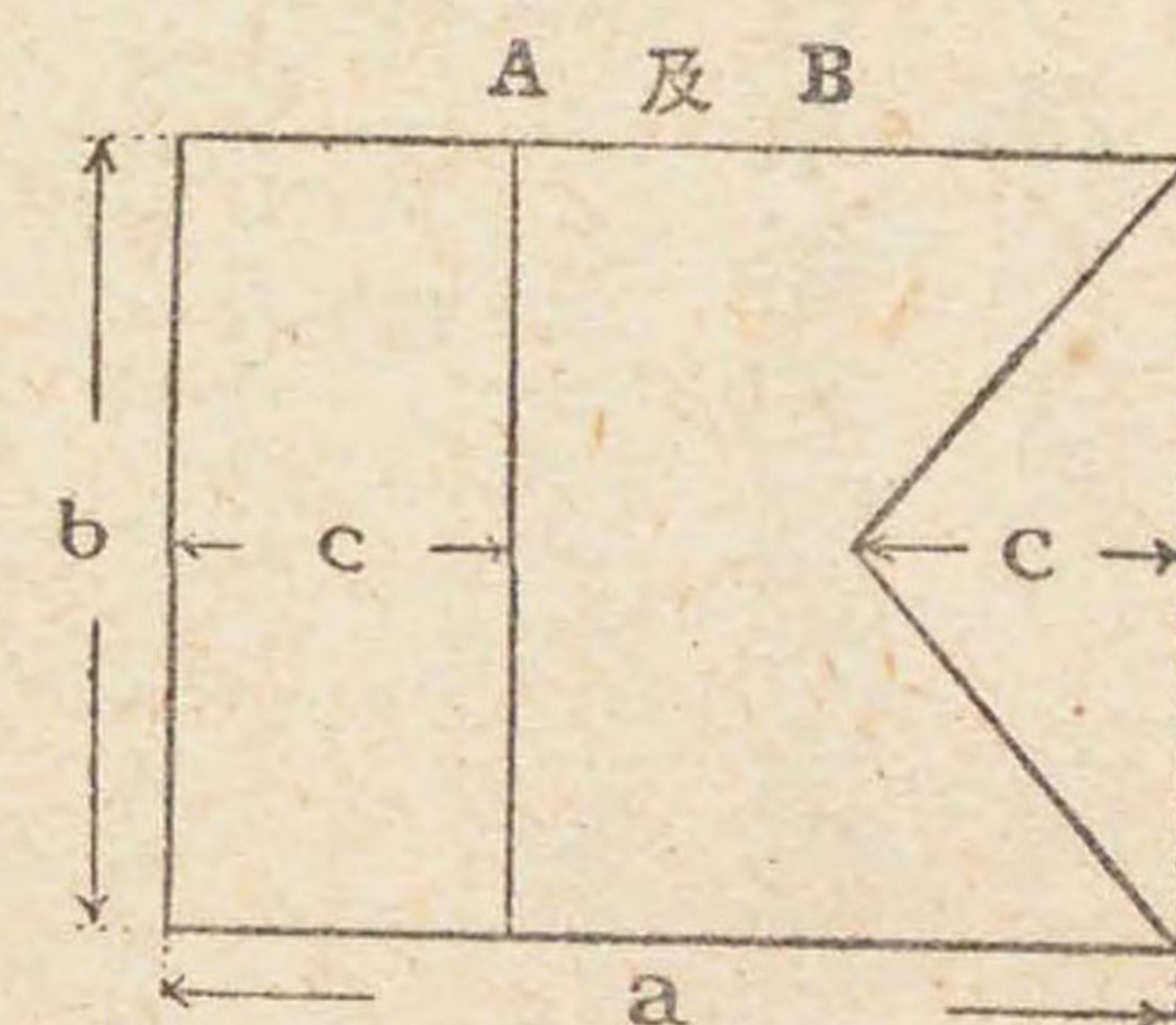
大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	244.0	198.0	49.5	99.0
中	168.0	137.0	34.2	68.6
小	91.0	76.0	19.0	38.0



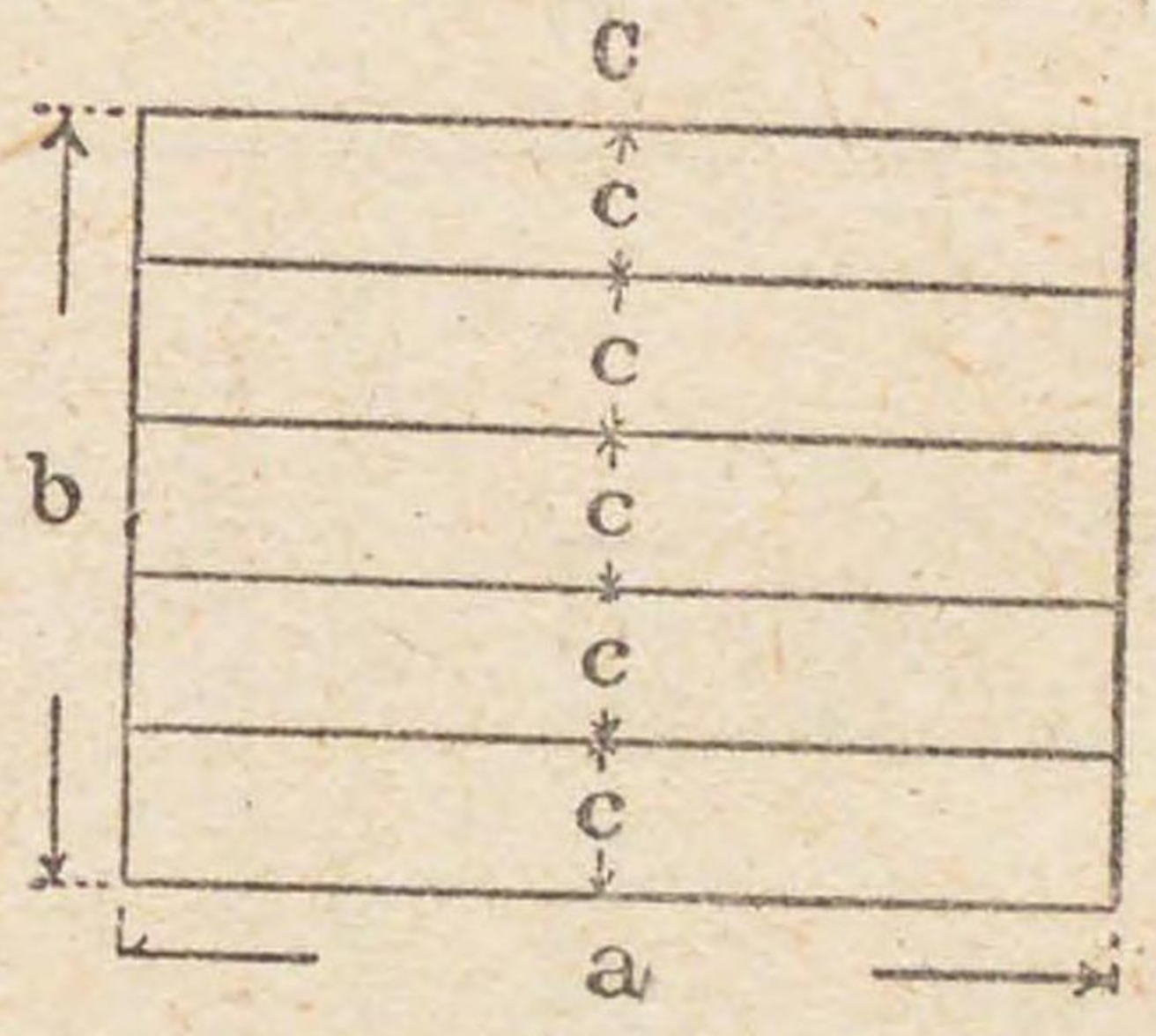
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	40.7
中	168.0	137.0	28.0
小	91.0	76.0	15.2



大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	99.0
中	168.0	137.0	68.5
小	91.0	76.0	38.0

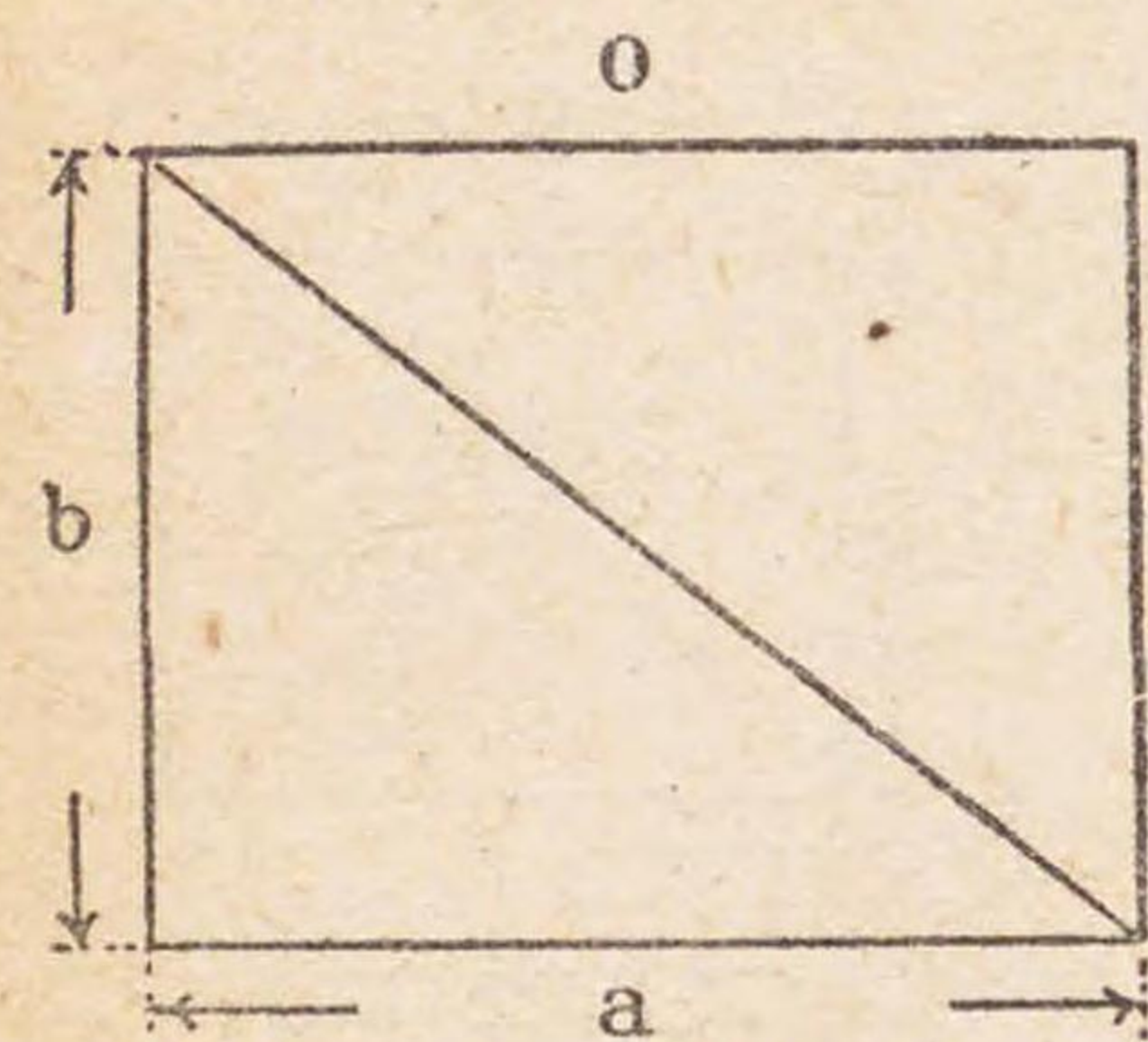


大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

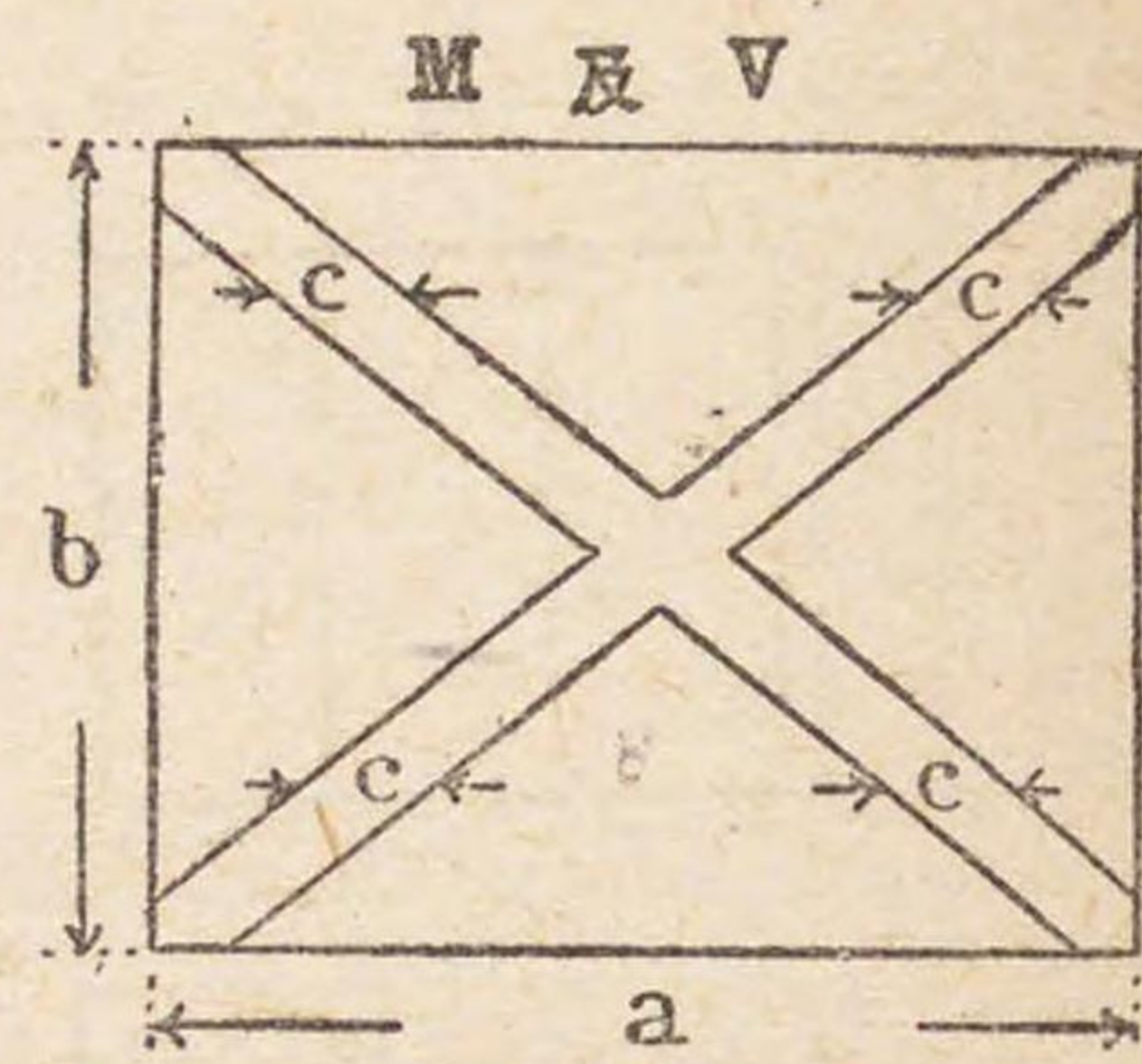


大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	39.6
中	168.0	137.0	27.4
小	91.0	76.0	15.2

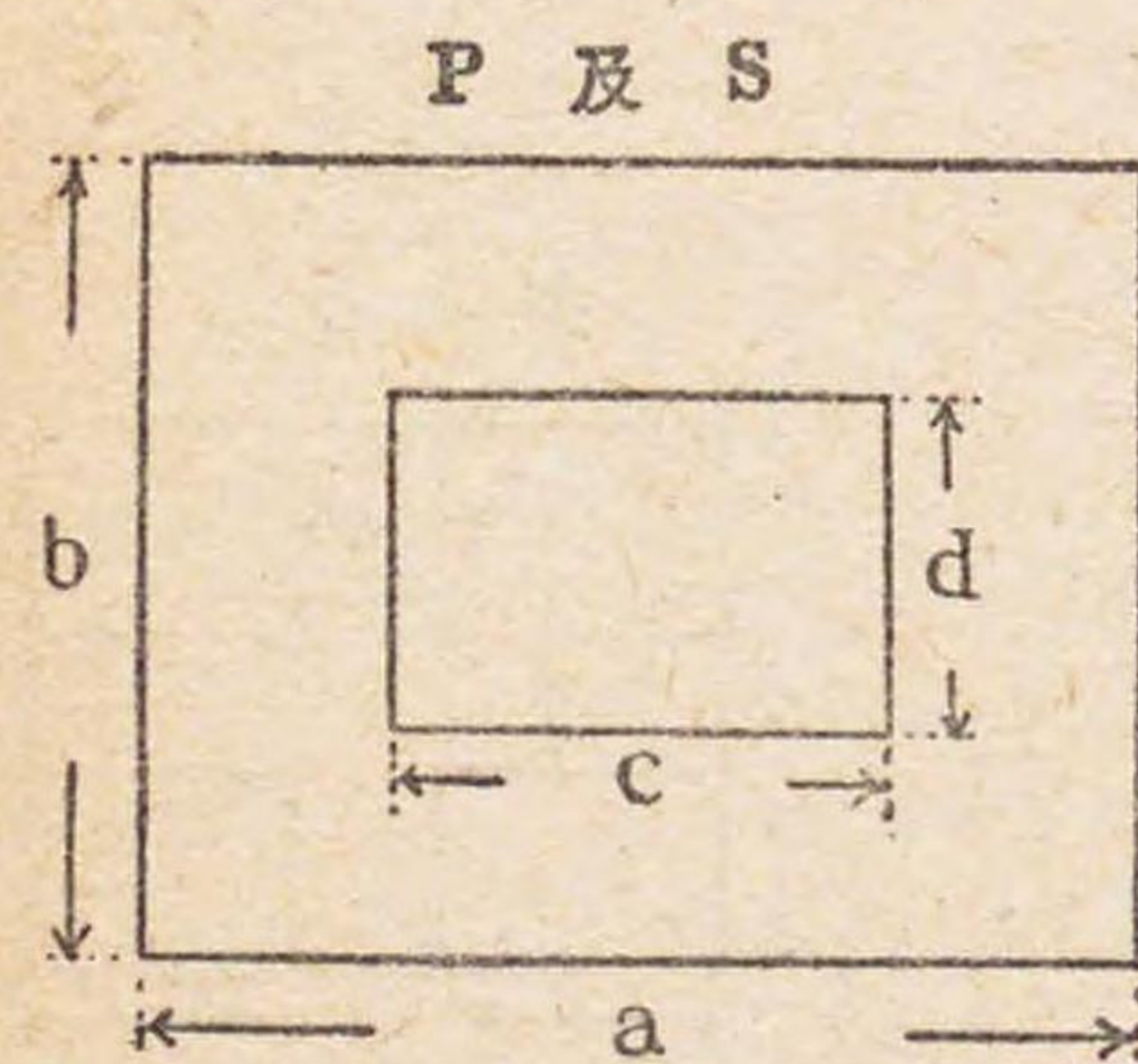
文字旗



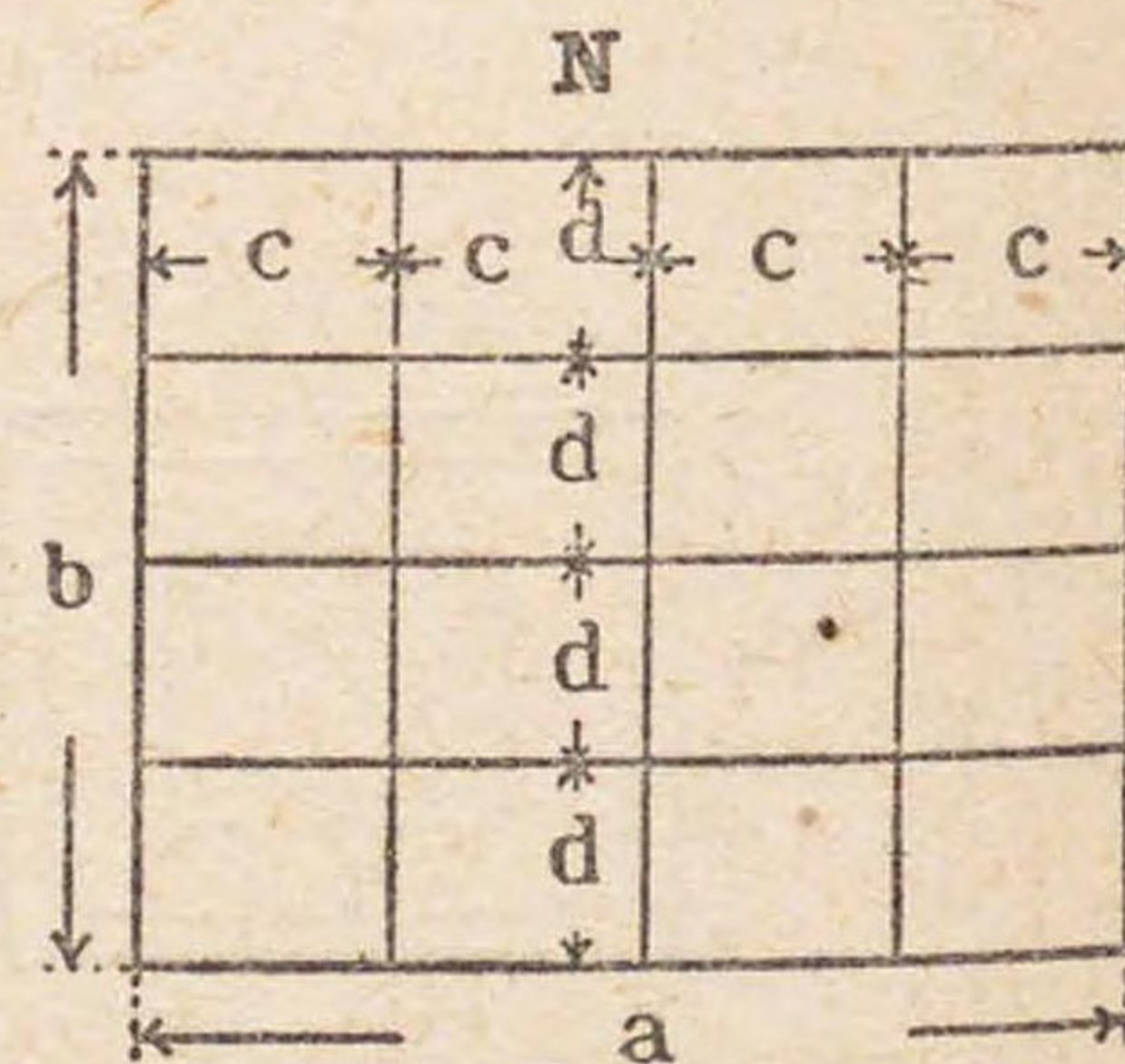
大サ	a 寸	b 寸
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0



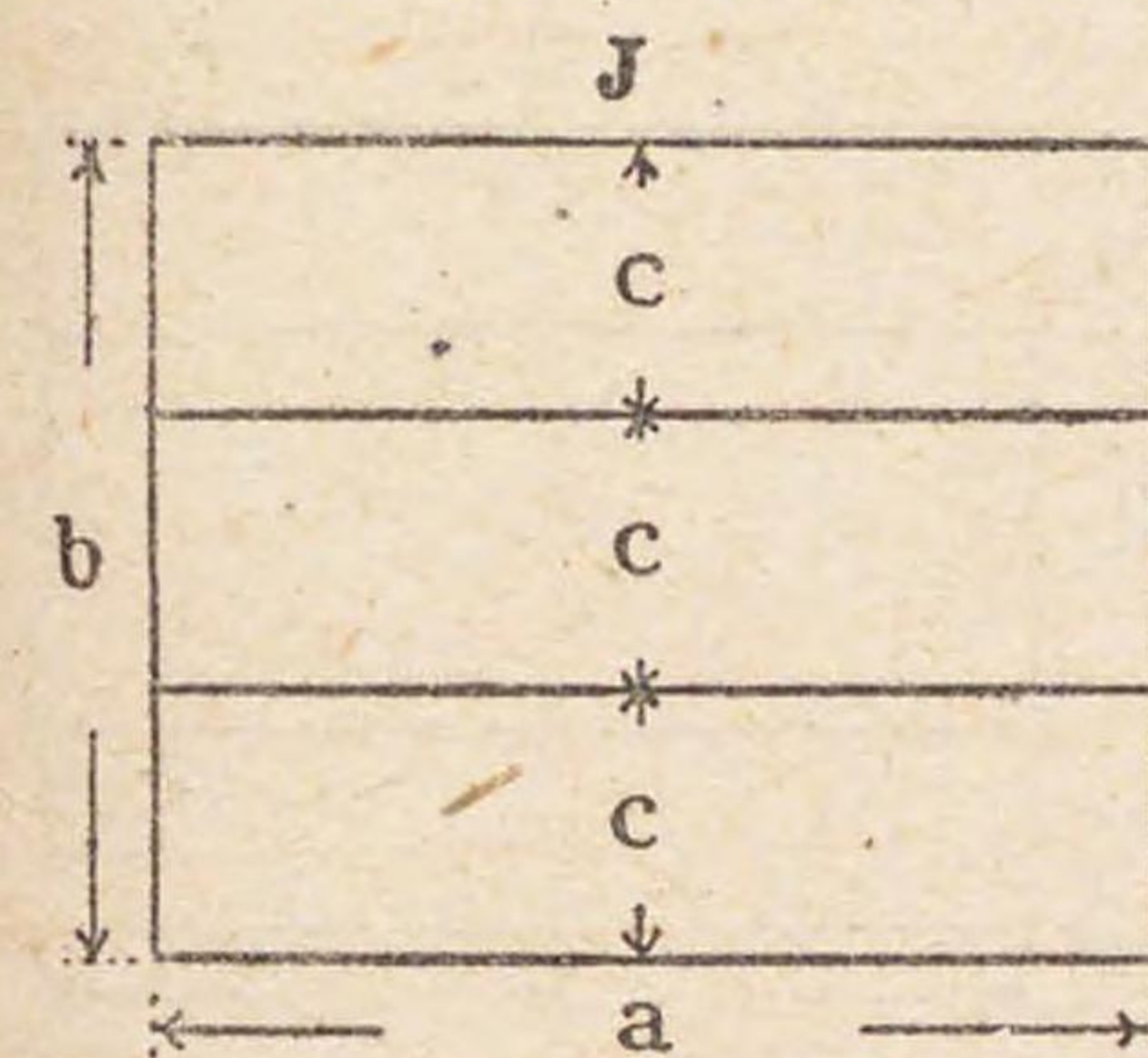
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7



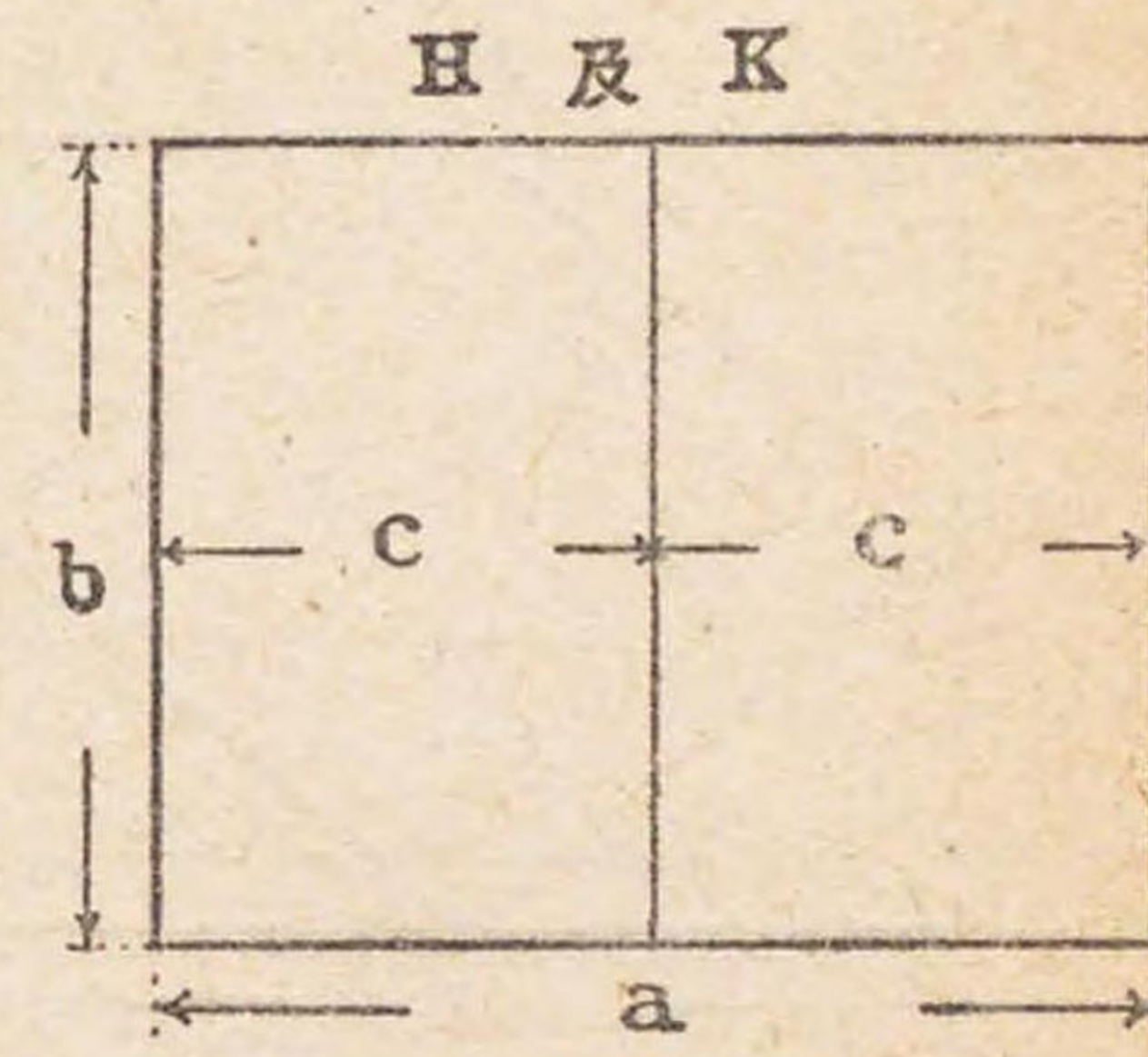
大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	244.0	198.0	122.0	82.6
中	168.0	137.0	84.0	57.2
小	91.0	76.0	45.5	31.8



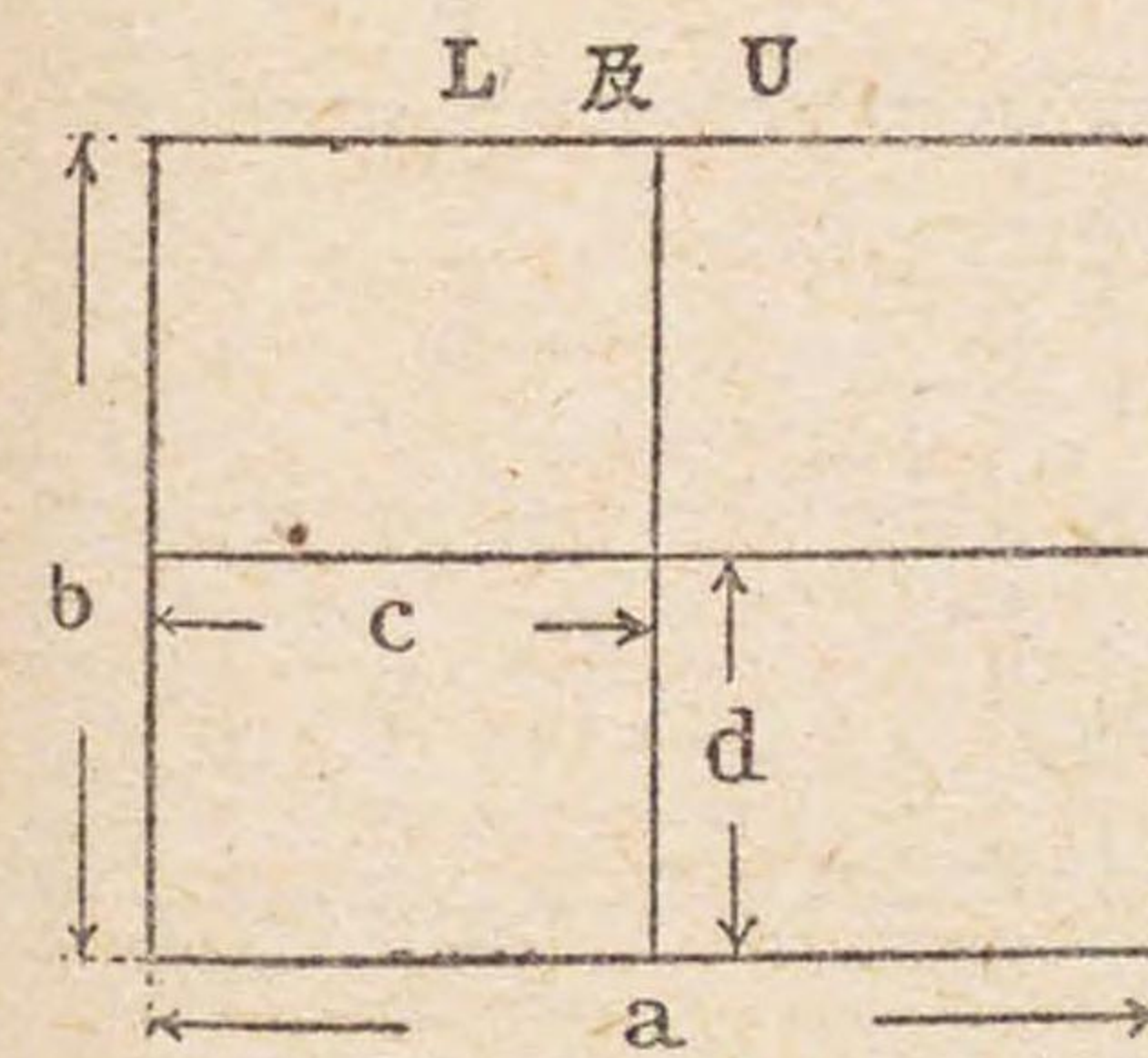
大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	244.0	198.0	61.0	49.5
中	168.0	137.0	42.0	34.3
小	91.0	76.0	22.8	19.0



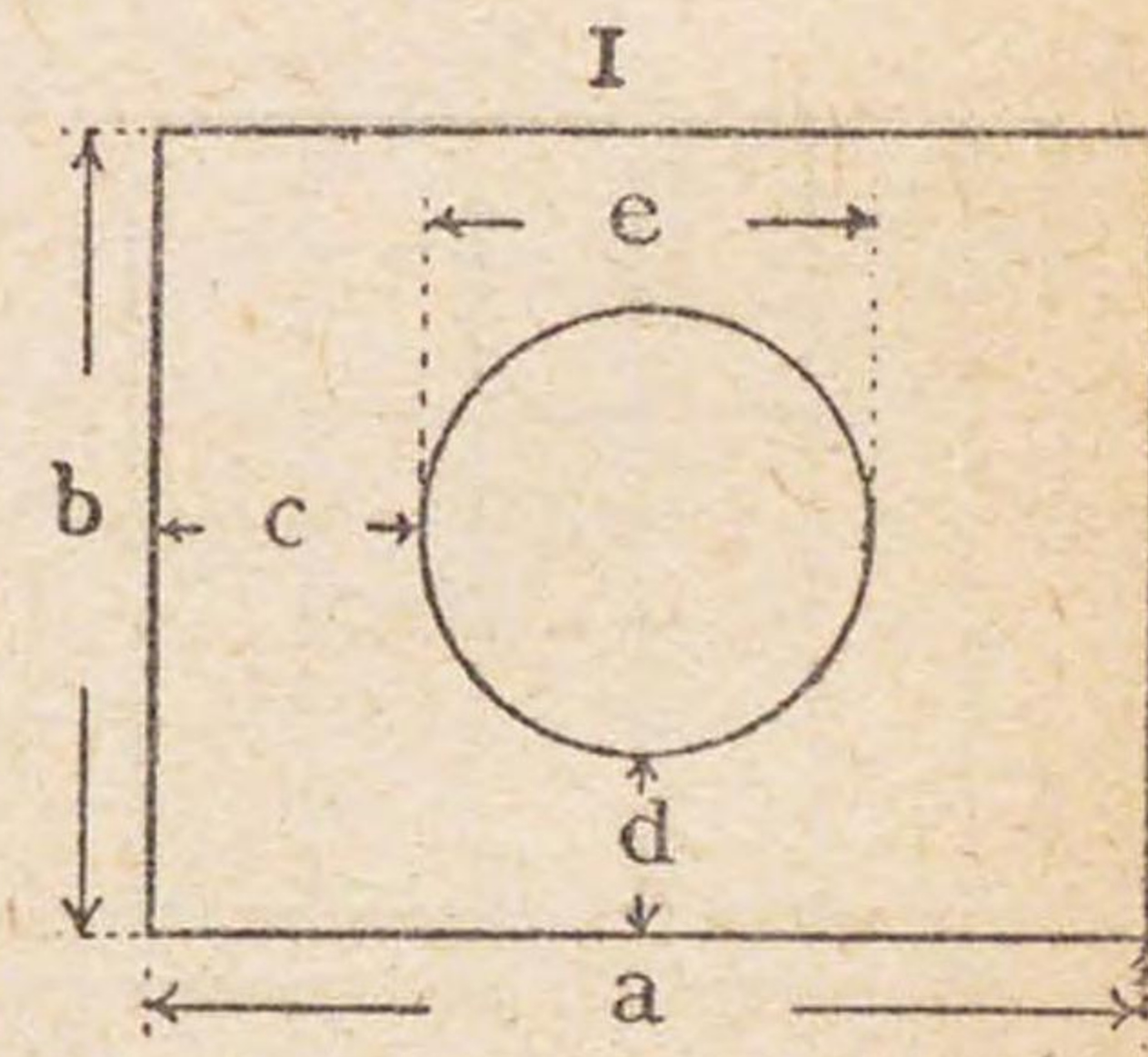
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	66.0
中	168.0	137.0	45.7
小	91.0	76.0	25.3



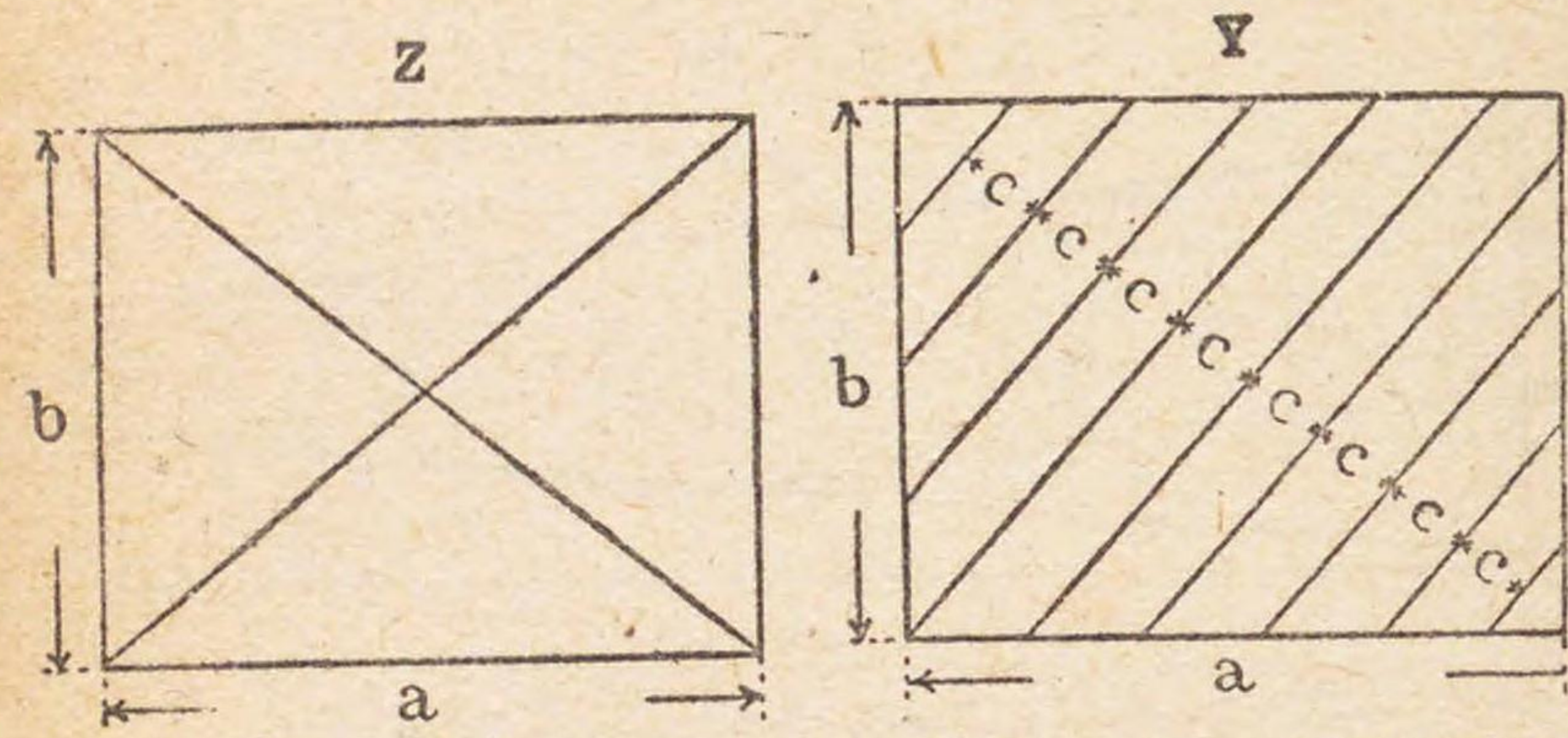
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	244.0	198.0	123.0
中	168.0	137.0	84.0
小	91.0	76.0	45.5



大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	244.0	198.0	122.0	99.0
中	168.0	137.0	84.0	68.5
小	91.0	76.0	45.5	38.0



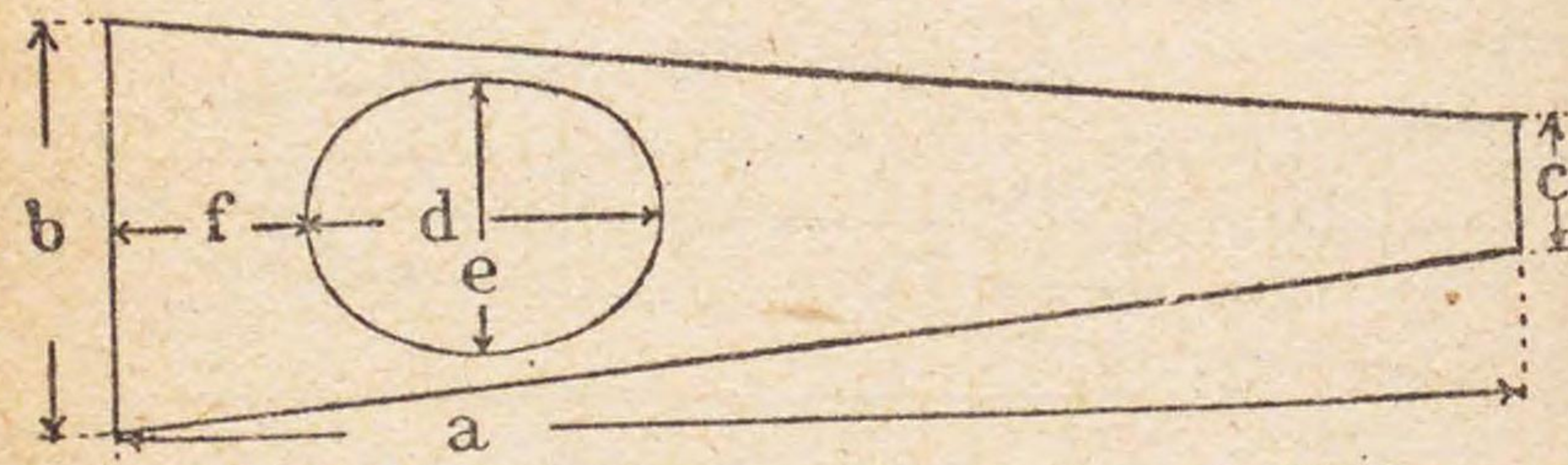
大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸
大	244.0	198.0	66.1	43.1	111.8
中	168.0	137.0	45.9	30.4	76.2
小	91.0	76.0	25.2	17.7	40.6



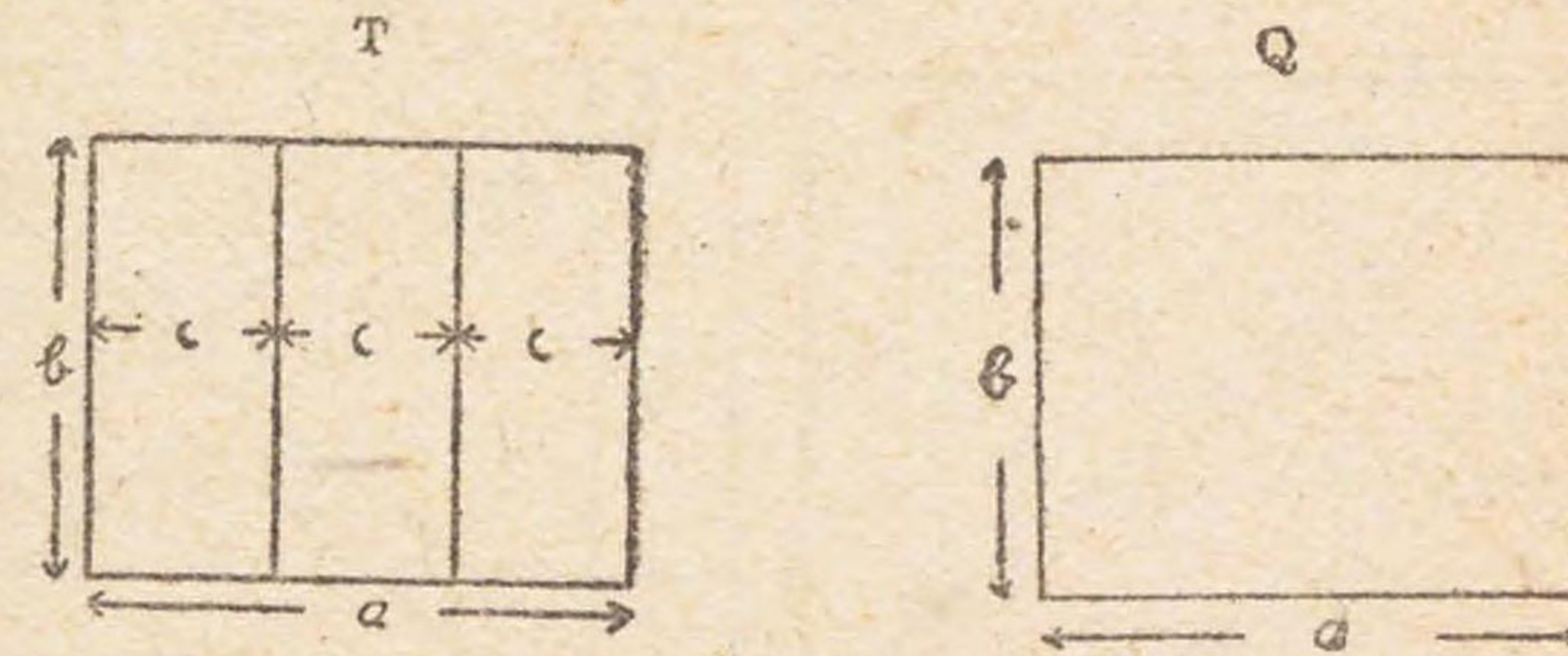
大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7

1 及 2 數字旗

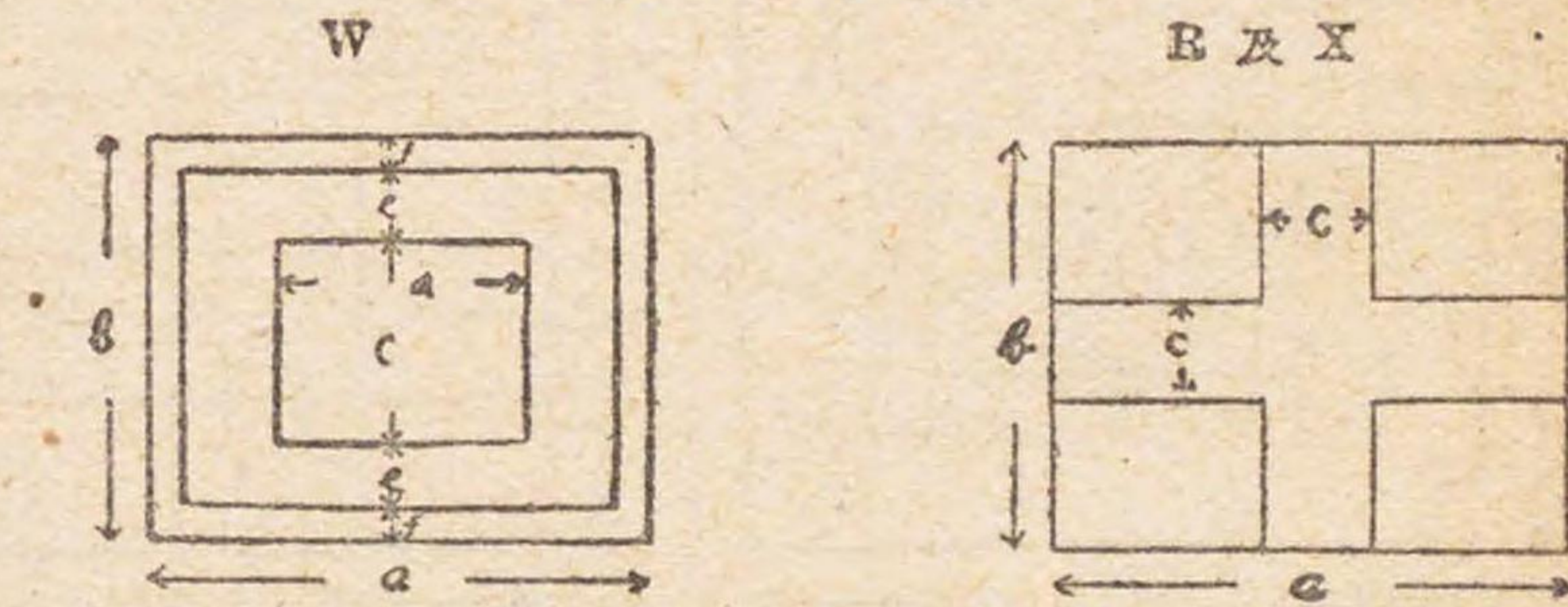


大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種	f 種
大	511.0	152.0	46.0	127.0	101.6	71.1
中	389.0	114.0	31.0	96.5	76.2	55.9
小	259.0	76.0	20.0	64.8	50.8	36.8



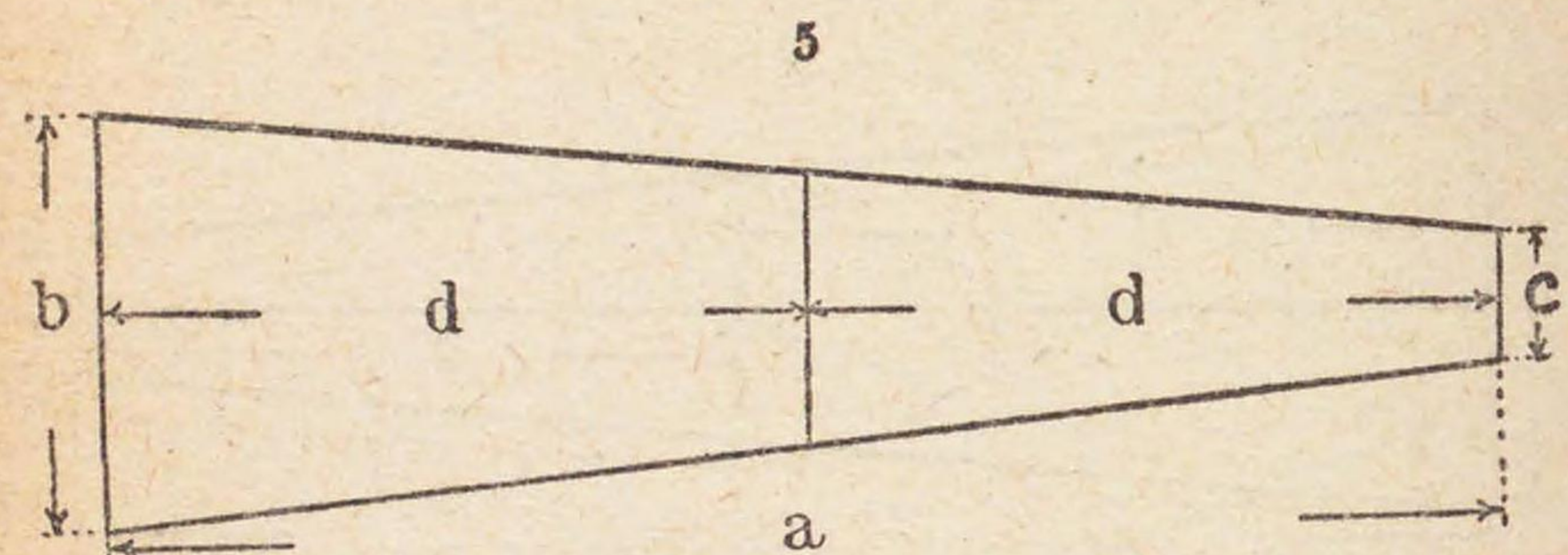
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	169.0	137.0
小	91.0	76.0



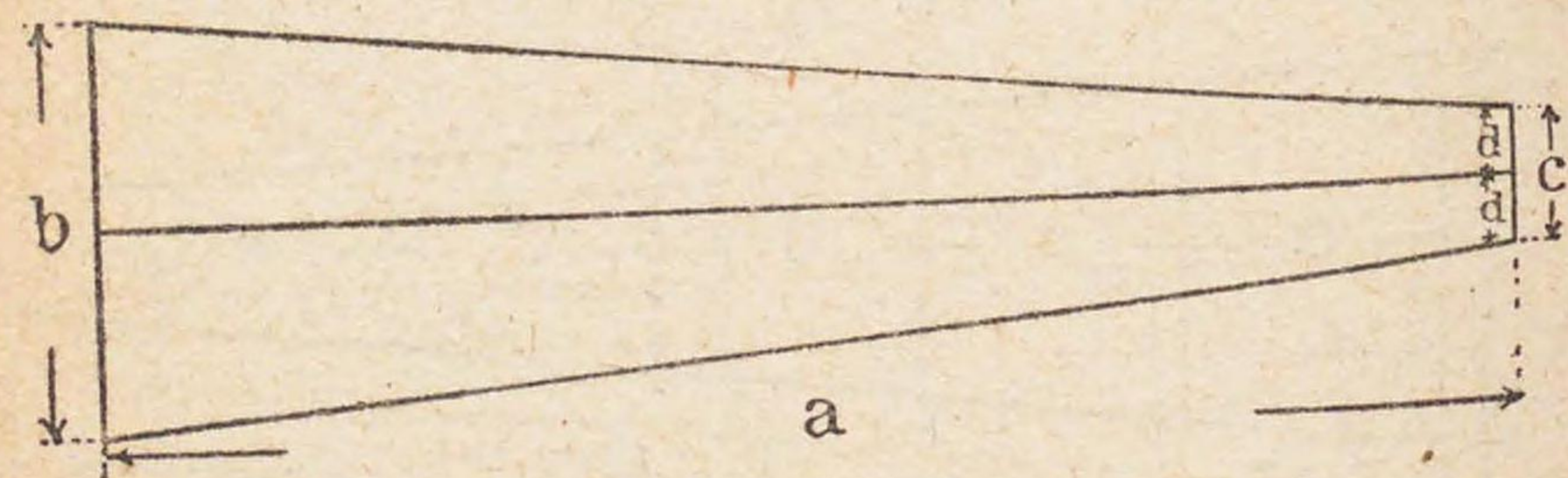
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種	f 種
大	244.0	198.0	99.0	121.9	33.0	16.5
中	168.0	137.0	68.4	83.8	22.9	11.4
小	91.0	76.0	37.8	45.7	12.7	6.4

大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	49.5
中	168.0	137.0	34.3
小	91.0	76.0	19.1

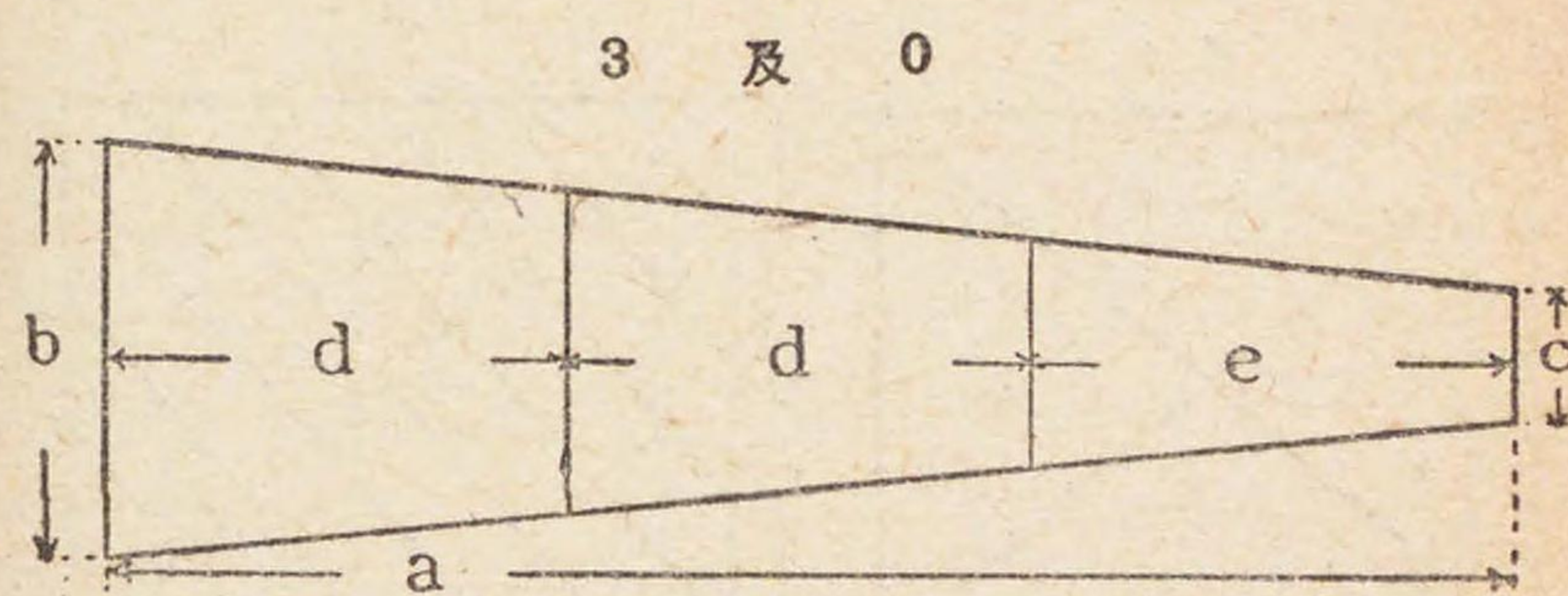


大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	511.0	152.0	46.0	255.5
中	389.0	114.0	31.0	194.5
小	259.0	76.0	20.0	129.5

6 及 7

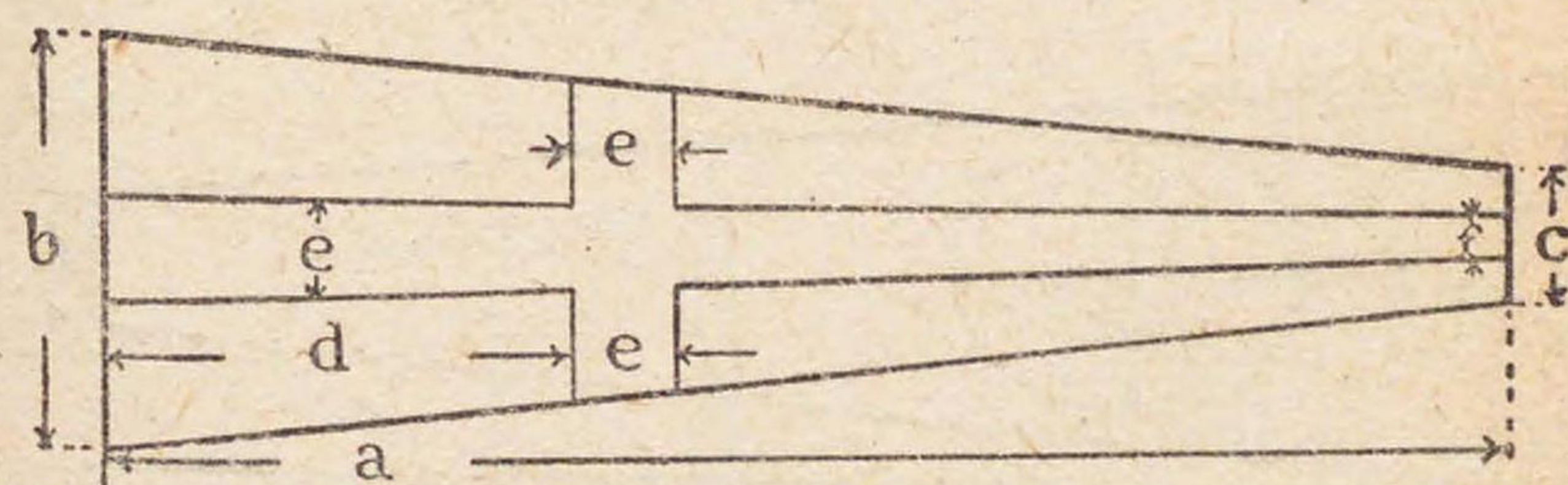


大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸
大	511.0	152.0	46.0	23.0
中	389.0	114.0	31.0	15.5
小	259.0	76.0	20.0	10.0



大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸
大	511.0	152.0	46.0	167.5	175.8
中	389.0	114.0	31.0	128.3	132.4
小	259.0	76.0	20.0	85.1	88.8

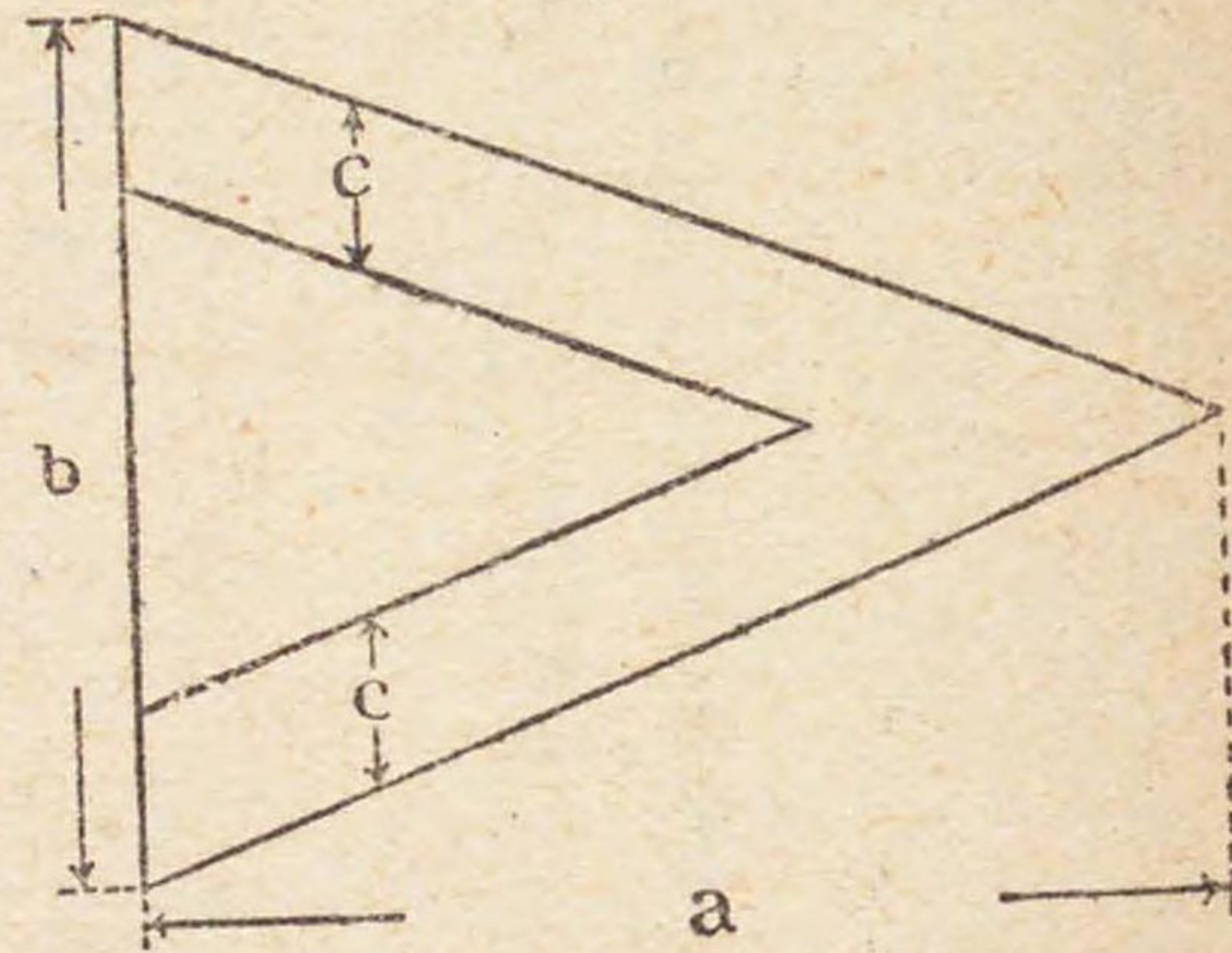
4 及 8



大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸	f 寸
大	511.0	152.0	46.0	170.2	36.8	15.3
中	389.0	114.0	31.0	129.5	27.9	10.3
小	259.0	76.0	20.0	86.4	19.1	6.7

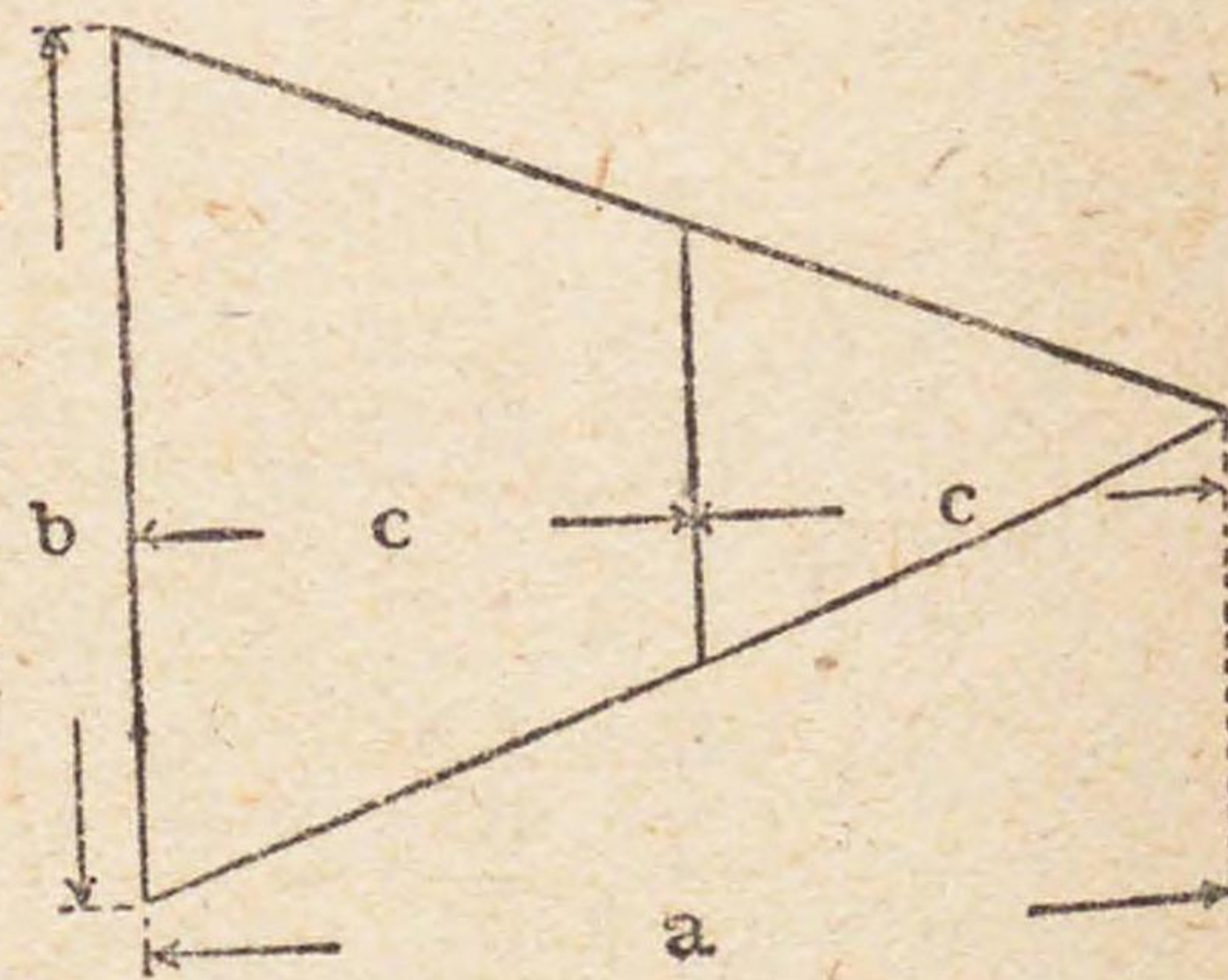
代表旗 第一代表旗

大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	305.0	244.0	48.5
中	229.0	183.0	37.0
小	152.0	122.0	24.0

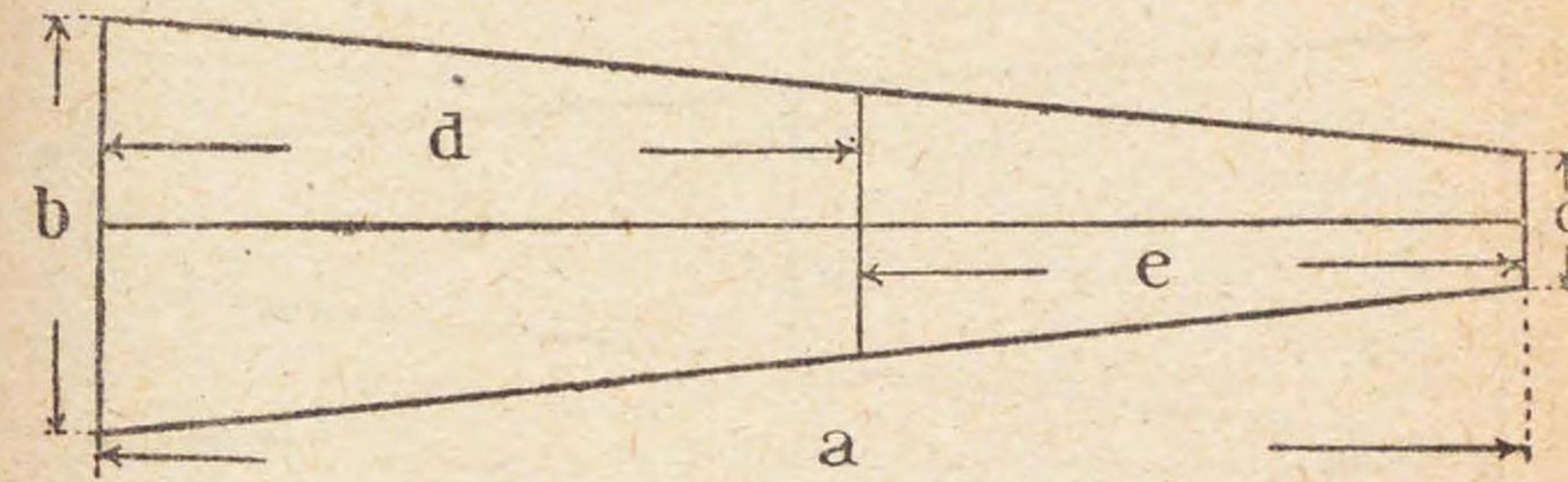


第二代表旗

大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	305.0	244.0	152.5
中	229.0	183.0	114.5
小	152.0	122.0	76.0

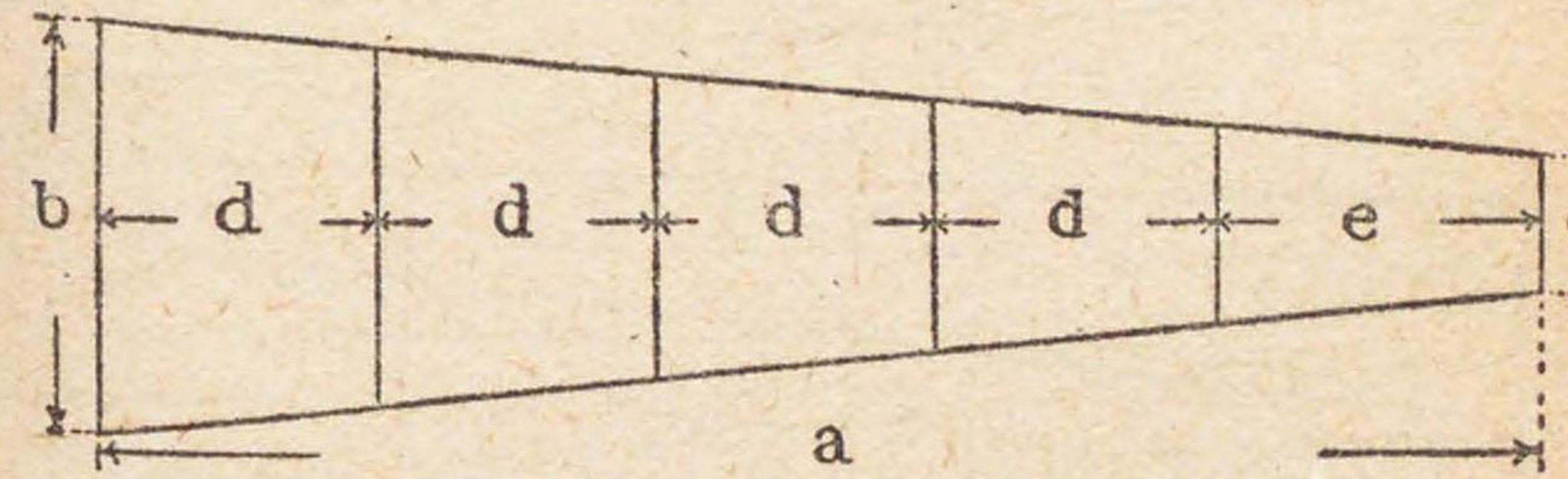


9

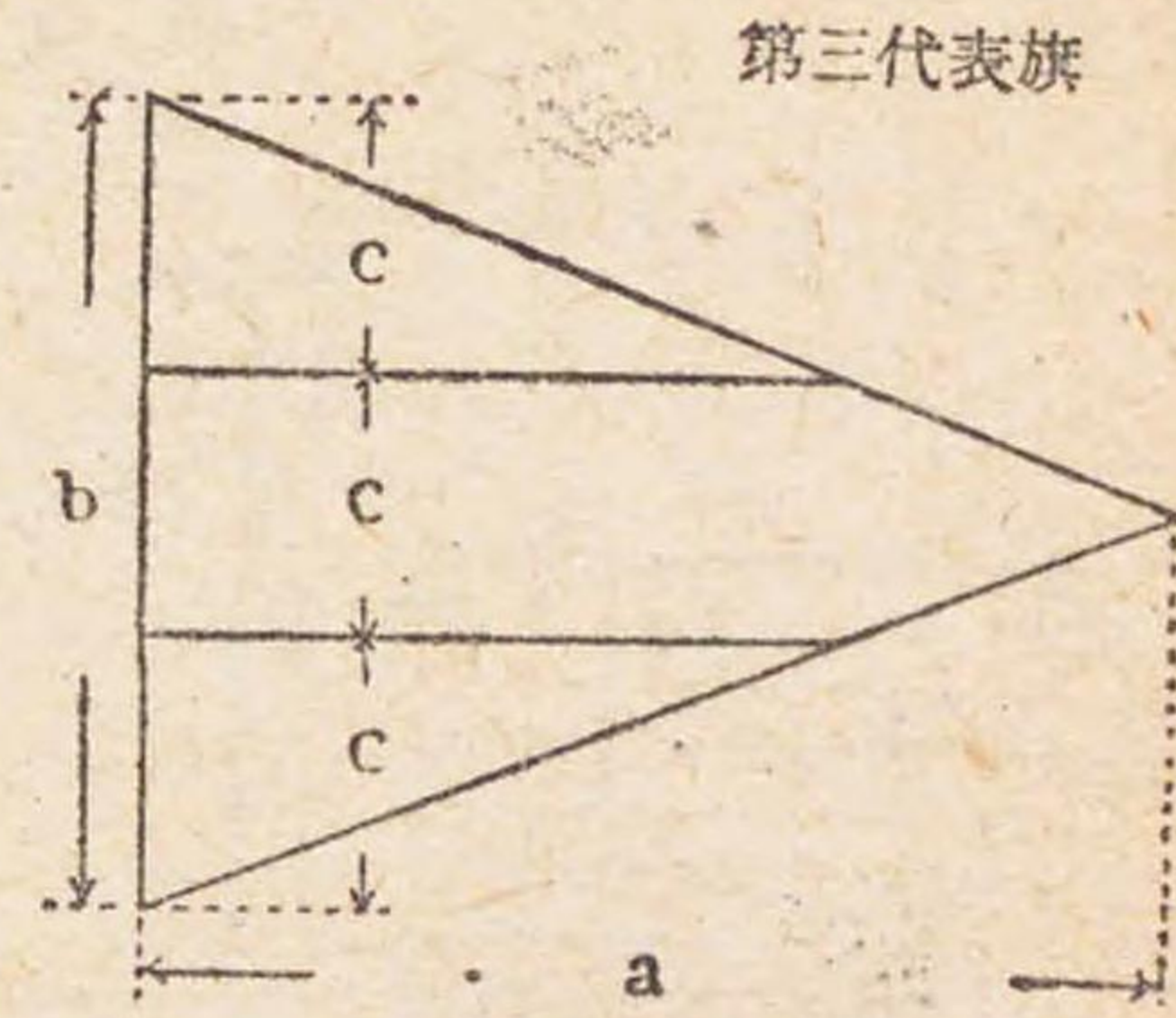


大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸
大	511.0	152.0	46.0	274.3	236.7
中	389.0	114.0	31.0	205.7	183.3
小	259.0	76.0	20.0	137.2	121.8

回答旗



大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸
大	511.0	152.0	46.0	99.1	114.6
中	389.0	114.0	31.0	76.2	84.3
小	259.0	76.0	20.0	50.8	55.8



大サ	a 型	b 型	c 型
大	305.0	244.0	81.3
中	229.0	183.0	61.0
小	152.0	122.0	40.7

附 則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖當分ノ内之ヲ使用スルコト
 ヲ得

内海沿岸船舶通航信號、
 潮流信號方

(明治四十二年七月
 逕信省告示第六百七十三號)

改正 昭和十五年十月
 逕信省告示第二千八百六十九號

内海沿岸中特ニ指定スル場所ニ信號所ヲ置キ通過船舶ニ對シ左記ノ規定ニ依リ船舶通航信號、潮流信號又ハ兩信號ヲ爲サシム

- 信號所ノ位置、信號開始ノ日等ハ別ニ之ヲ告示ス
- 船舶通航信號ハ信號所ノ附近ニ於ケル船舶ノ動靜ニ關シ之ヲ爲ス但シ各信號所ニ付テ特ニ定ムル場合、縦帆ノミヲ装置スル帆船カ群走セザル場合及櫓權ヲ以テ運轉スル船ニ關スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 - 船舶通航信號ハ左ノ二種ニ分チ晝間ニ在テハ黑色ノ船舶通航信號塔ニ白色ノ記號ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ燈ヲ掲ゲテ之ヲ爲ス (附圖參照)
- 第一種 晝間ニ在リテハ前塔ニ圓形ヲ表示シ夜間ニ在
- 内海沿岸船舶通航信號、潮流信號方

テハ該塔ニ不動白色燈ヲ掲グルモノ

第二種 晝間ニ在テハ中央塔ニ三角形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ明暗紅色燈ヲ掲グルモノ

前塔ト稱スルハ信號所見張所ノ上部ニ在ルモノ、中央塔ト稱スルハ前塔ノ後方ニ在ルモノ、後塔ト稱スルハ最後ニ在ルモノヲ謂フ

- 潮流信號ハ左ノ四種ニ分チ晝間ニ在テハ白色柱ノ頂ニ於テ一端ニ紅色圓形板、他端ニ黑色矩形板ヲ有スル白色桿ノ位置ヲ轉換シ夜間ニ在テハ白色ノ潮流信號塔ニ燈ヲ掲ゲテ之ヲ爲ス (附圖參照)
- 第一種 晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約三十分度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色不等分明暗燈ヲ掲グルモノ
- 第二種 晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色等分明暗燈ヲ掲グルモノ
- 第三種 晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿ガ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ掲グルモノ
- 第四種 晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約七十

度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白等分互光燈ヲ揚
グルモノ

四 潮流信號ハ同方向ノ潮流ガ流レ始メテヨリ流レ止ム
マデノ間ニ於テ最初ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ初
期、次ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ中央期、最後ノ
約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ末期トシテ之ヲ爲ス

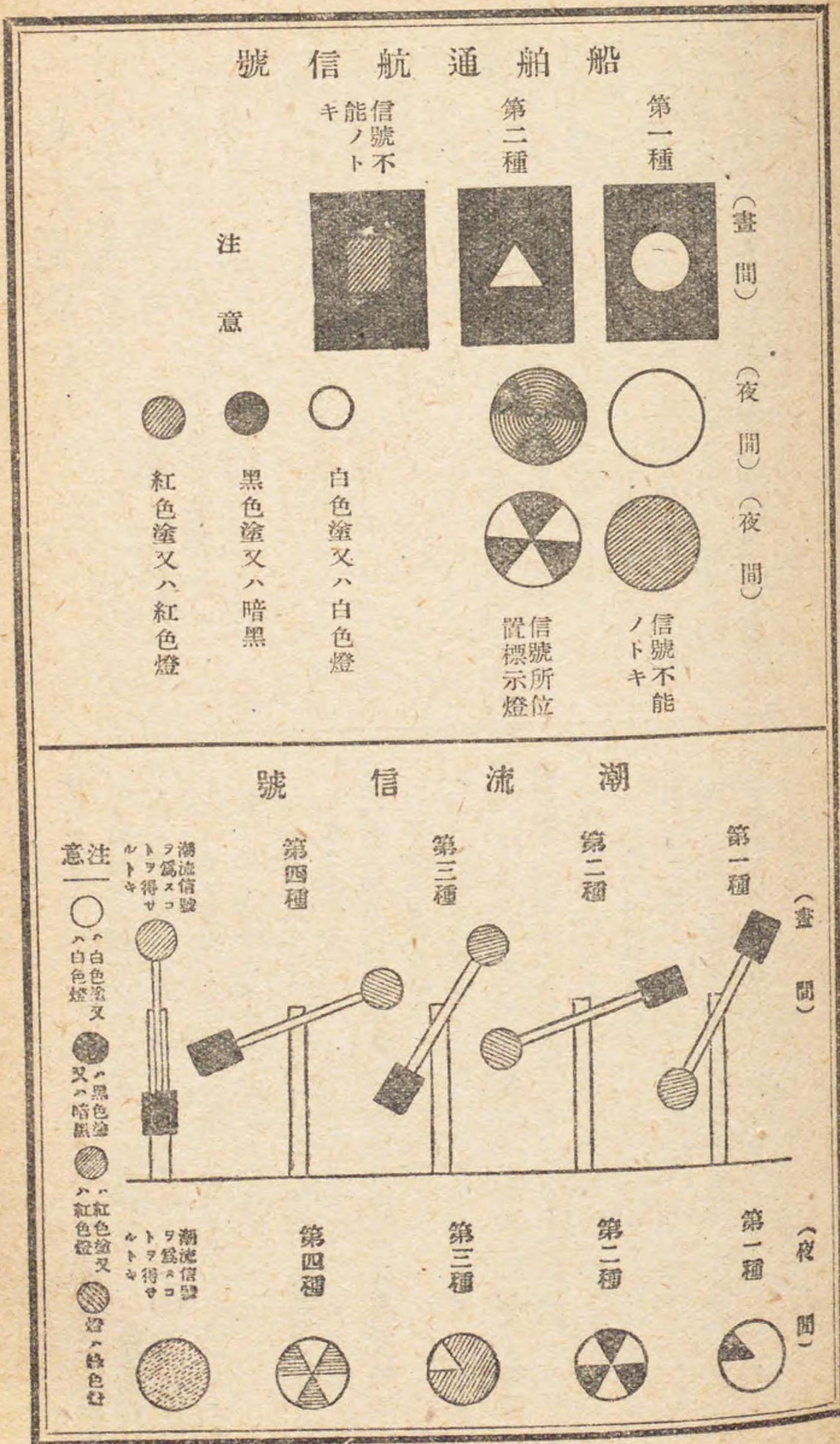
五 信號機ノ故障其ノ他ノ事由ニ依リ信號ヲ爲スコトヲ
得ザルトキハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲ス
船舶通航信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキ

晝間 後塔ニ紅色ノ方形ヲ表示ス
夜間 紅燈一箇ヲ前塔ニ掲グ
潮流信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキ

晝間 圓形板ヲ上端トシテ桿ヲ直立ス
夜間 綠燈一箇ヲ潮流信號塔ニ掲グ

火ノ山下及赤坂船舶通航信號所ニ於テハ夜間信號所ノ
位置ヲ示ス爲メ後塔ニ明暗白色燈ヲ掲グ

七 航路ニ異變アルトキ航行危險ノ虞アルトキ其ノ他船
船ノ航行ニ關シ必要アルトキハ信號所ハ晝間ニ限り萬
國船舶信號法ニ依リ信號ヲ爲スコトアルベシ
(附 圖)



内海沿岸船舶通航信號、潮流信號方

船舶通報規則

(明治四十年九月)
逕信省令第四十四號

改正 昭和九年三月
逕信省令第三十五號

第一條 船舶通報ヲ別チテ左ノ三種トス

- 一 通過報
- 二 信號報
- 三 海難報

第二條 通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

- 一 船名
- 二 通過時分
- 三 通過ノ方向

第三條 信號報トハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ト當該船舶ノ船長トノ間ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル當該船舶ト信號ニ依リ送受スルモノ

五 請求者(若請求者ガ受信者ニ非ザルトキハ併セテ受信者)ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ請求者ガ該船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ非ザルトキハ第十九條第一項ノ規定ニ依リ國旗及信號符字ヲ掲ゲル旨記載シタル船舶所有者(該船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ其ノ賃借人)ノ承諾書ヲ添付スベシ
臨時ニ通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ第一項各號ノ事項ノ外尙豫定通過日時ヲ記載スベシ

第五條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ望ム者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スベシ

第六條 通過報ノ料金左ノ如シ

- 一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ一通毎ニ
 - 内地 相 互 間 金二十錢
 - 内地臺灣樺太及朝鮮相互間 金二十五錢
- 二 登記料ヲ納付セザル者ニ對シテハ一通毎ニ
 - 内地 相 互 間 金三十錢

船舶通報規則

ヲ謂フ

第三條ノ二 海難報トハ特ニ指定スル電信局所ニ於テ船舶ノ遭難又ハ航行ノ安全ニ關スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信(特定人ニ宛ツルモノヲ除ク)ニ依リ知得シタル船舶ノ遭難、委棄又ハ漂流ニ關スル左ノ事項ヲ和文電報ヲ以テ請求者ニ通知スルモノヲ謂フ

- 一 船名(必要アルトキハ船舶ノ種類、國籍又ハ所有者名ヲ附記ス)
- 二 災厄ノ日時(遭難ノ日時又ハ遭難、委棄若ハ漂流ノ事項ノ事實ヲ知得シタル日時)
- 三 船舶ノ位置
- 四 災厄ノ狀況(遭難、委棄又ハ漂流ノ別及其ノ狀況)

第四條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國籍
- 三 船舶所有者名(若船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)
- 四 燈臺名
- 四ノ二 通過ノ方向

内地臺灣樺太及朝鮮相互間 金四十錢
夜間(日没ヨリ日出マデヲ謂フ)通過ノ船舶ニ對スル通過料ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徴收ス

第七條 第四條ノ請求ヲ受ケタル電信局所ニ於テ豫定通過時日切迫ノ爲燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要スルトキハ請求者ハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スベシ

第八條 第四條ノ請求書ニ記載セル船舶ガ燈臺ノ沿海ヲ通過シタル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ船名ヲ知リ得ザリシトキ又ハ全ク船舶ノ通過ヲ知リ得ザリシトキハ通過報ヲ發セザルコトアルベシ

第九條 信號報ノ取扱ヲ望ム船舶所有者又ハ賃借人ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國籍
- 三 船舶所有者名(若船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)
- 四 燈臺名
- 五 請求者ノ住所氏名

第十條 信號報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度

毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ

前項ノ登記料ハ毎年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スベシ

第十一條 信號報ノ料金左ノ如シ

信 號 料 一通ニ付 金一圓

電報料又ハ郵便料 實 費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料金ハ之ヲ受信者ヨリ徵收ス

第十二條 船舶所有者又ハ賃借人信號報ヲ發セムトスルト

キハ和文電報書法ニ從ヒ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ

第九條ノ電信局所ニ差出スベシ但シ之ニ關スル郵便切手

ハ賴信紙ニ貼附スベカラズ

前項ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同

時ニ其ノ旨ヲ申出ツベシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ

記載スルコトヲ得

第十三條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ

指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶

ニ通達ス

第十四條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨

ヲ燈臺ニ信號スベシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記

料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十五條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文

電報ヲ以テ之ヲ第九條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之

ヲ受信者ニ配達ス

第十六條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達

ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第十七條 船舶ニ通達シ能ハザル信號報ノ料金中信號料ハ

納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十八條 燈臺ト船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限り之

ヲ行ヒ其ノ方法ハ國際通信書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶

所有者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ燈臺ニ於テ夜間通過ノ信

號ヲ受クルコトアルベシ

第十九條 通過報又ハ信號報ニ關係ヲ有スル海上ノ船舶ハ

特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字

ヲ揚ゲベシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船

舶所有者又ハ賃借人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承認

ヲ經ルコトヲ要ス

第十九條ノ二 海難報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シ

タル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出ス

ベシ

一 船名及信號符字

二 國 籍

三 船舶所有者名(若船舶ガ貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名)

四 發信電信局所名

五 請求者ノ住所氏名

第十九條ノ三 第十條ノ規定ハ海難報ニ之ヲ準用ス

第十九條ノ四 海難報ノ料金ハ電報ノ字數ニ應ジ一般私報

ノ料金ヲ課ス

前項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第十九條ノ五 電信局所ニ於テ第三條ノ二各號ノ事項中知

得シ得ザルモノアルトキハ當該事項ノ通報ヲ爲サズ又ハ

海難報ヲ發セザルコトアルベシ

第二十條 本令中料金ノ徵收又ハ還附ニ關シ明文ナキ事項

ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ

規定ヲ準用ス

第二十一條 第四條第一項、第九條又ハ第十九條ノ二ノ各

號ニ揚グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ船舶通報ノ請

求者其ノ取扱ヲ罷メムトスルトキハ請求書ヲ差出シタル

船舶通報規則

電信局所ニ其旨ヲ届出ツベシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リ

タルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト

看做ス但シ同一市町村内ニ於ケル受信者住所ノ異動ニ依

リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ此限ニ在

ラズ

第二十二條 船舶通報ハ内地(小笠原島ヲ除ク)相互間及

内地(小笠原島ヲ除ク)臺灣、樺太及朝鮮相互間ニ發受

スルモノニ限ル

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ通過報又ハ信號報ノ取

扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

第二十四條 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

船舶氣象觀測報告規則

(昭和十一年六月 文部、逓信省令第一號)

改正 昭和十五年九月 文部、逓信省令第一號

第一條 公衆通信ヲ取扱フ無線電信ノ施設ヲ有スル船舶及主務大臣ノ特ニ指定スル船舶ハ東經百度ヨリ百八十度ヲ經テ西經百六十度ニ至ル迄北緯零度ヨリ六十五度迄ノ海面ニシテ本邦海岸局ノ通信距離内ヲ航行中毎日中央標準時(以下同ジ)午前六時、正午及午後六時ニ氣象觀測ヲ爲スベシ

第二條 海上氣象特報海上暴風警報電報ニ依リ中心示度七百四十糎以下ノ颱風ノ中心ヨリ千糎以内ヲ航行中ナルコトヲ知リタル場合ニ於テハ前條ノ時刻外ニ正午、午前三時、午前九時、午後三時及午後九時ノ氣象觀測ヲモ爲スベシ
前項ノ外天候異常ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認めタルトキハ前項及前條ノ時刻外ト雖モ氣象觀測ヲ爲スベシ

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日 本船舶ノ信號ニ關スル件

(昭和八年九月 朝鮮總督府令第四百號)

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ハ逓信省ニ於テ編纂スル國

際通信書(國際通信書信號篇)又ハ英和對譯國際通信書信號篇

ニ依リ普通信號ヲ爲スベシ

附 則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第八十六號ハ之ヲ廢止ス

第三條 前二條ノ場合ニ於テ編隊又ハ集團シテ同一行動ヲ取ル船舶ニ在リテハ各其ノ中ノ便宜ノ一隻ニ於テ氣象觀測ヲ爲スベシ

第四條 前各條ノ場合ニ於テ内地又ハ朝鮮(何レモ離レ島ヲ除ク)ノ海岸ヨリ五十糎以内ヲ航行中ナルトキハ船舶安全法第四條第一項第一號及第二號ニ該當スル船舶ヲ除クノ外本規則ニ定ムル氣象觀測ヲ爲スヲ要セス

第五條 第一條乃至第三條ノ氣象觀測ヲ爲シタルトキハ直ニ中央氣象臺宛電報ヲ以テ之ヲ報告スベシ

第六條 前條ノ報告ハ中央氣象臺ノ告示スル船舶氣象電報式ニ依ルベシ

附 則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

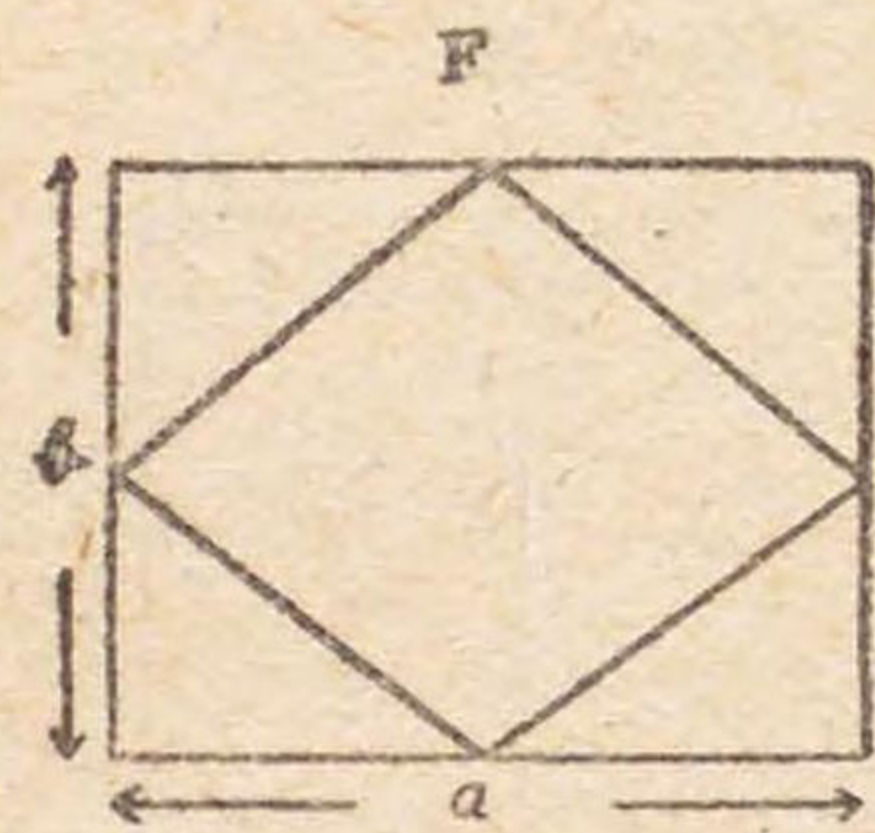
朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日 本船舶ノ國際信號旗ノ寸 法ニ關スル件

(昭和九年一月三十日 朝鮮總督府令第八號)

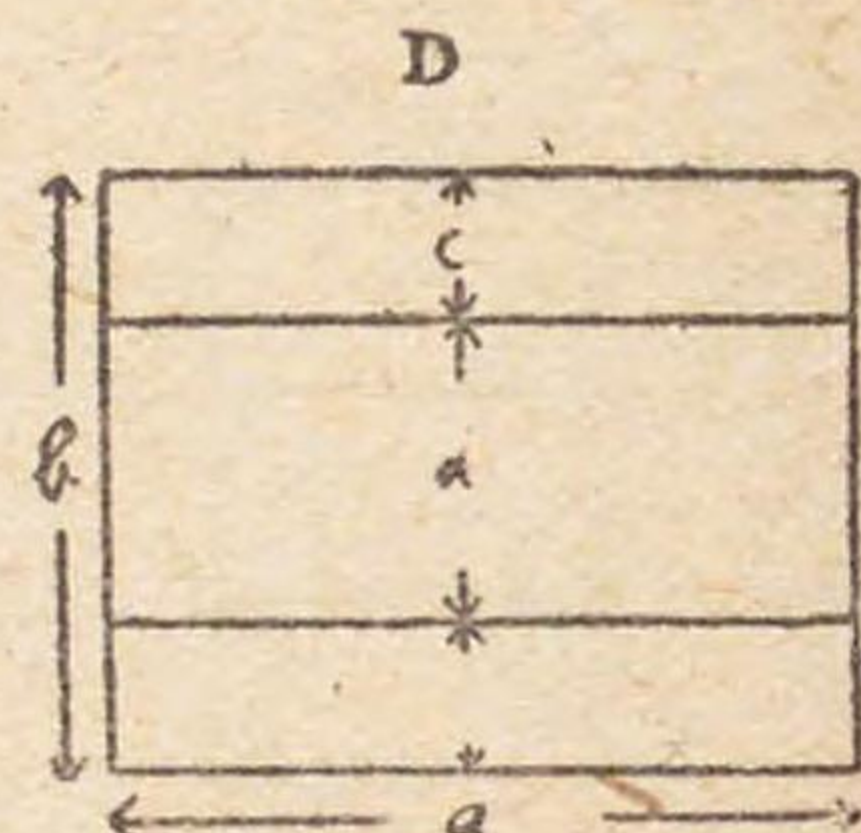
朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ國際信號旗ノ寸法ニ關スル件左ノ通定ム

昭和八年朝鮮總督府令第四百號(朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件)ニ依リ朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ガ信號ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル國際通信書掲載ノ國際信號旗ハ左ノ寸法ノモノノ中何レカニ依ルベシ

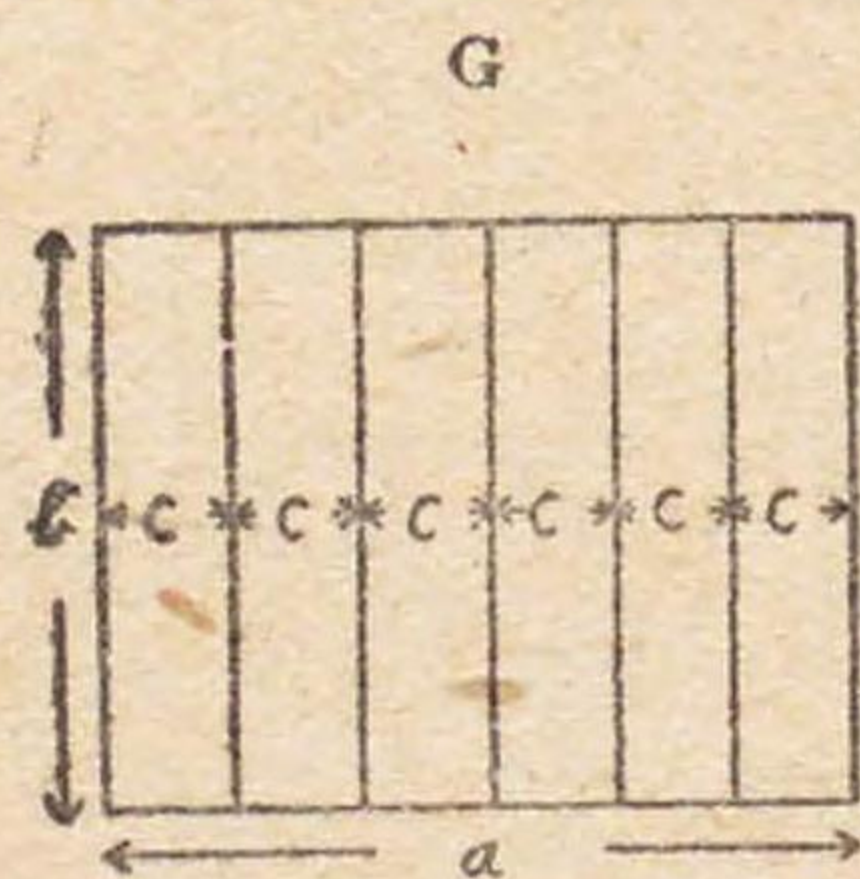
朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ國際信號旗ノ寸法ニ關スル件(朝鮮)



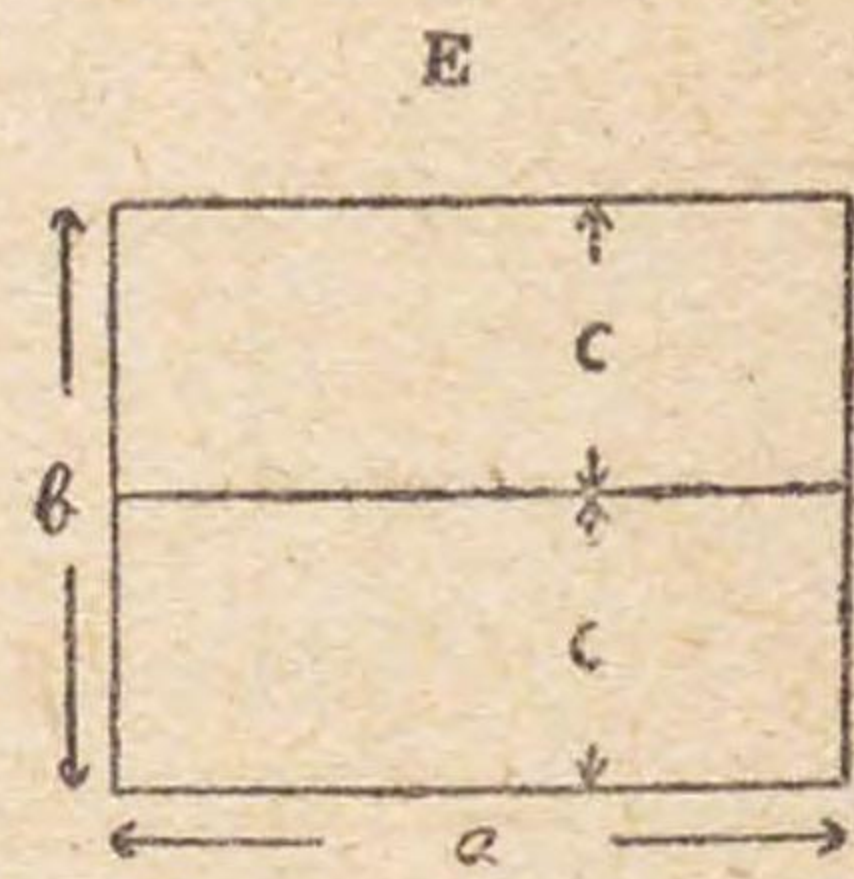
大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	168.8	137.0
小	91.0	76.0



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	244.0	198.0	49.5	99.0
中	168.0	137.0	34.2	68.6
小	91.0	76.0	19.0	38.0



大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	40.7
中	168.0	137.0	28.0
小	91.0	76.0	15.2



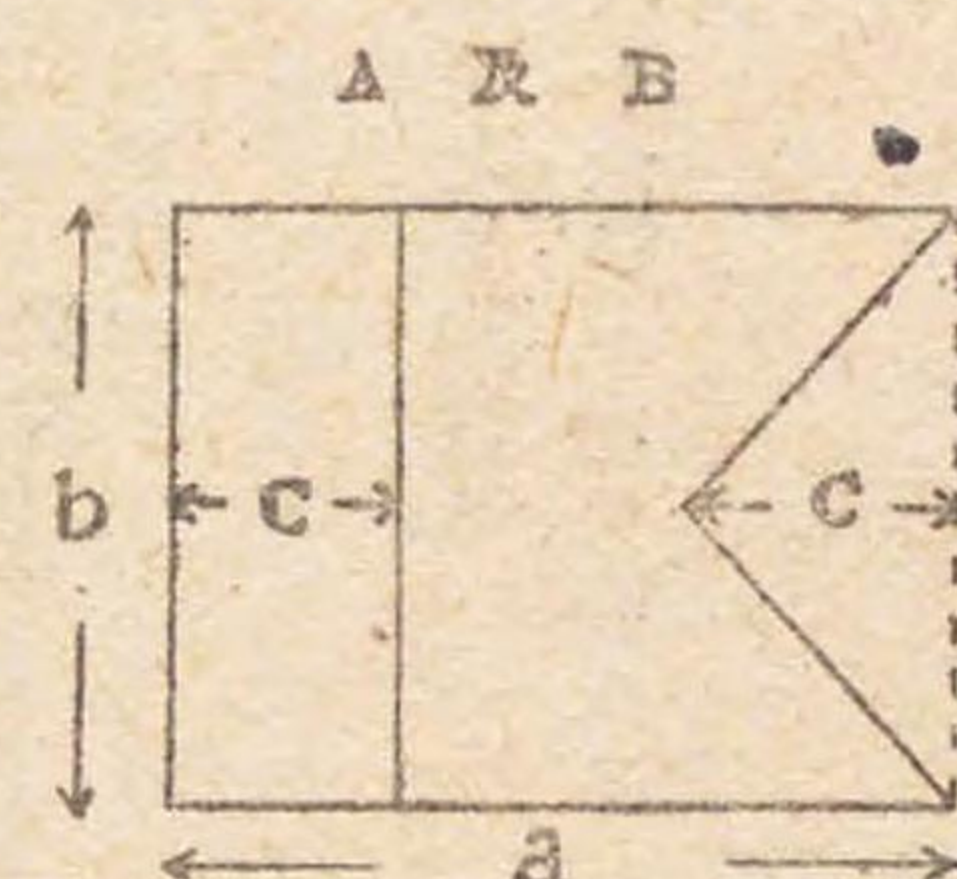
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	99.0
中	168.0	137.0	68.5
小	91.0	76.0	38.0

海事法令集

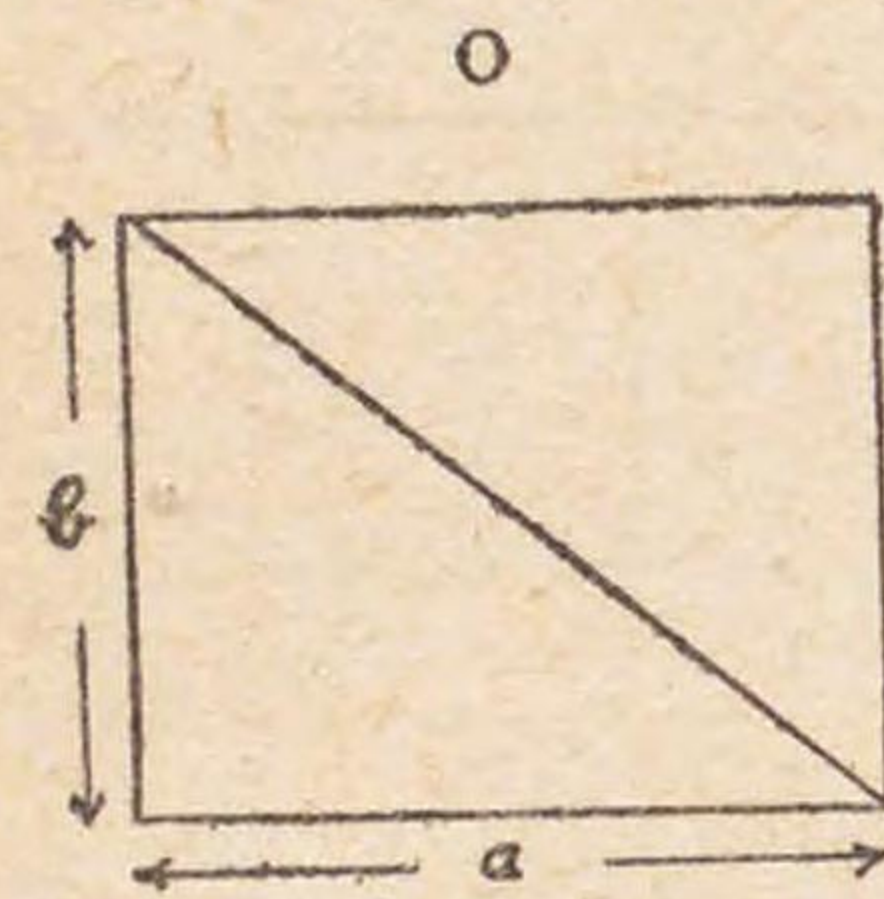
文字旗



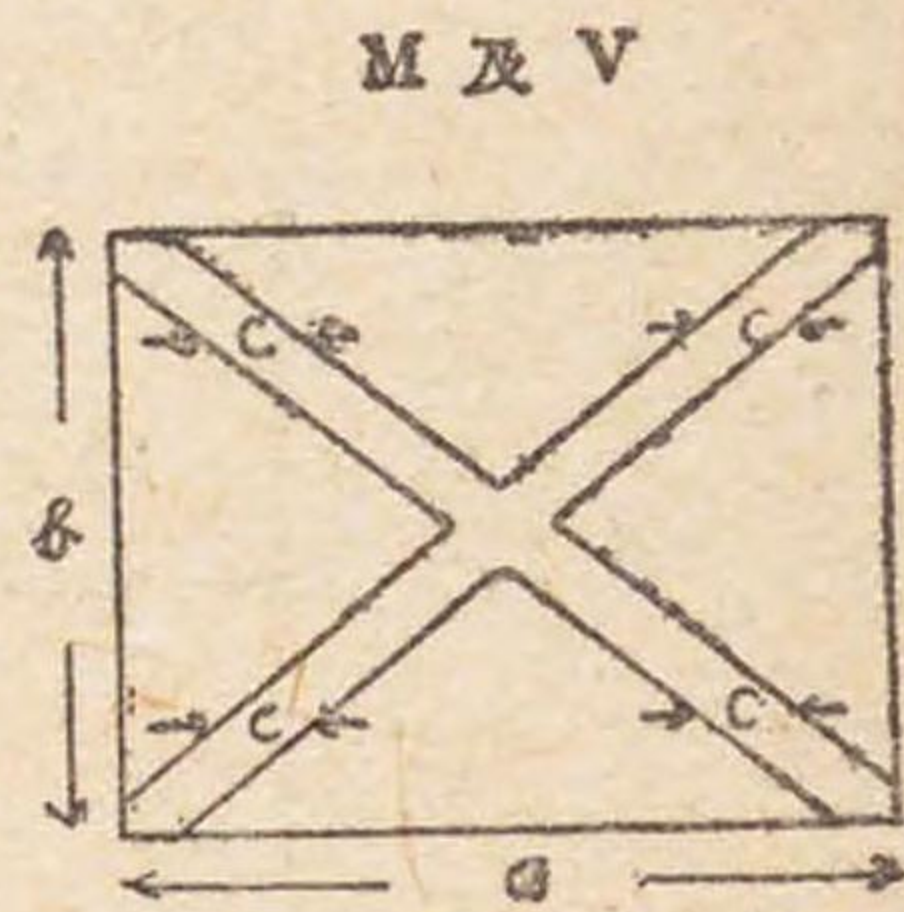
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	39.6
中	168.0	137.0	27.4
小	91.0	76.0	15.2



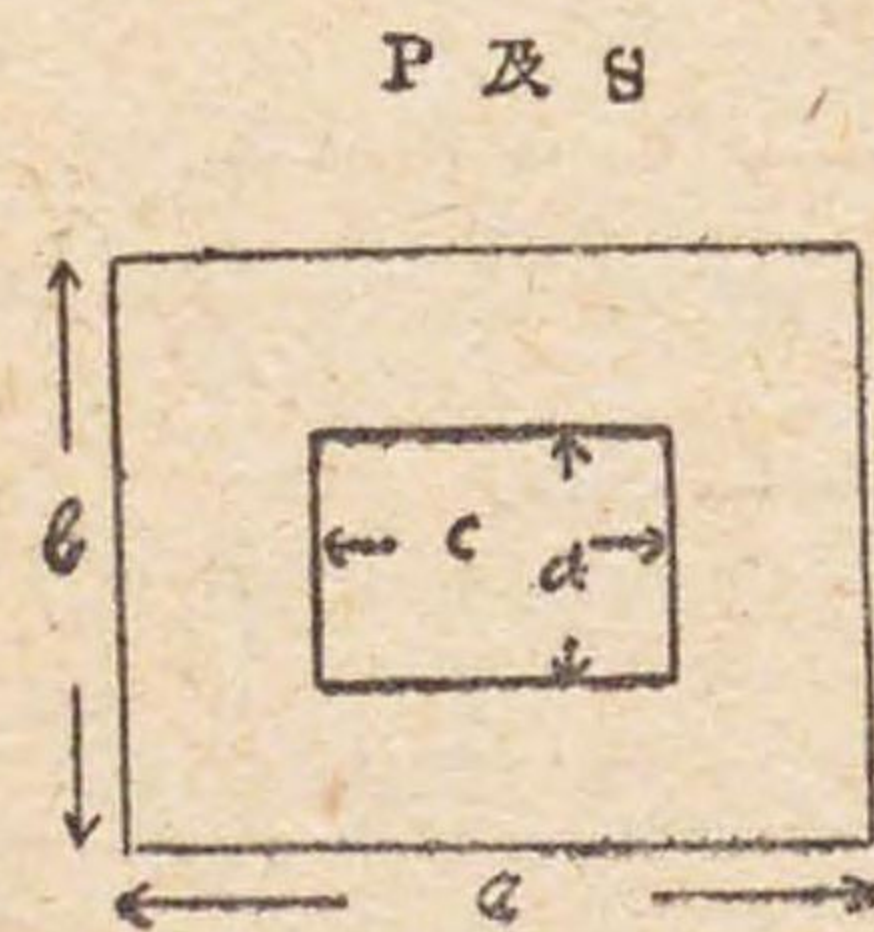
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	31.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3



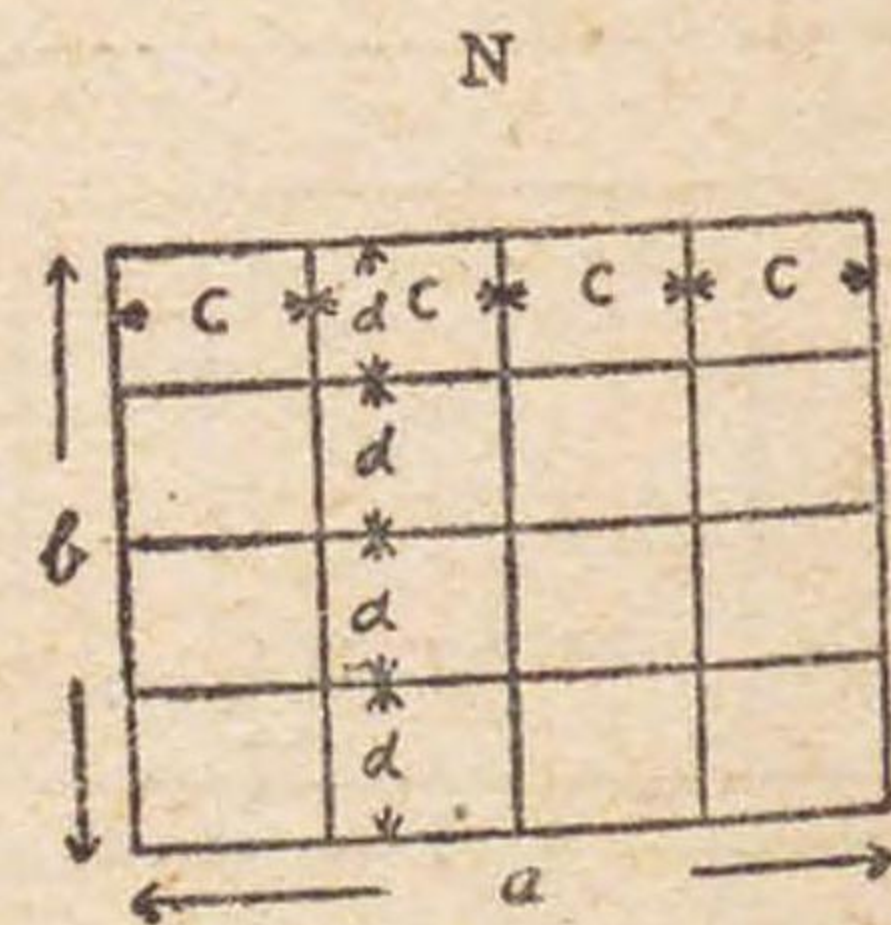
大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0



大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	61.0	76.0	12.7



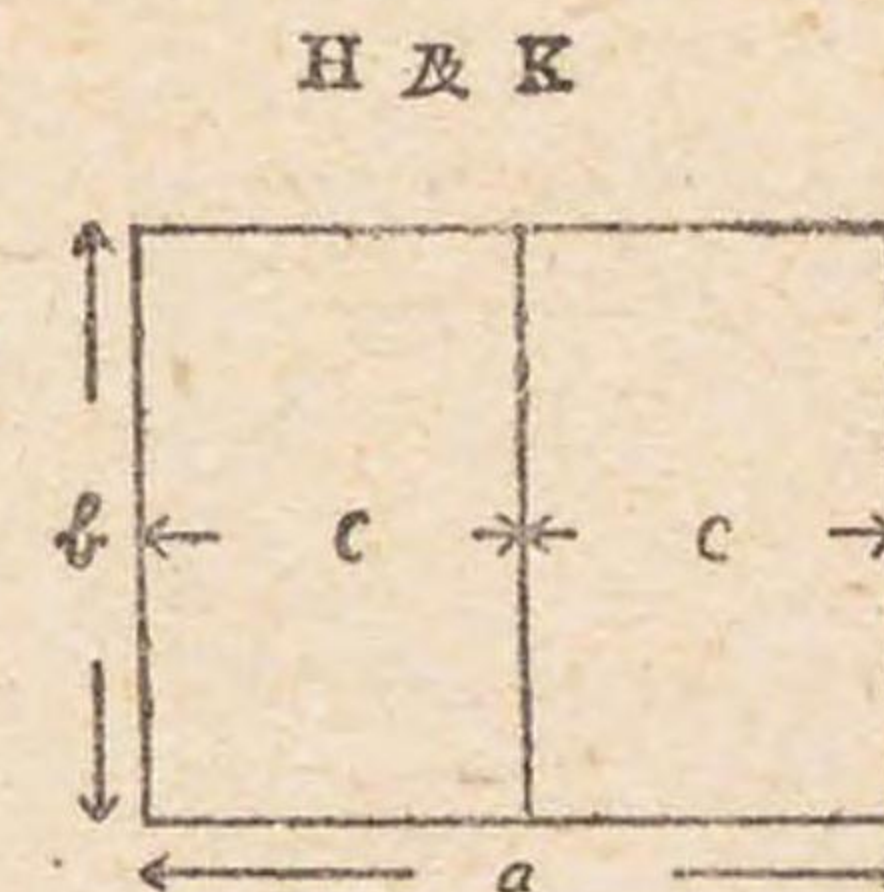
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	244.0	198.0	122.0	82.6
中	168.0	137.0	84.0	57.2
小	91.0	76.0	45.5	31.8



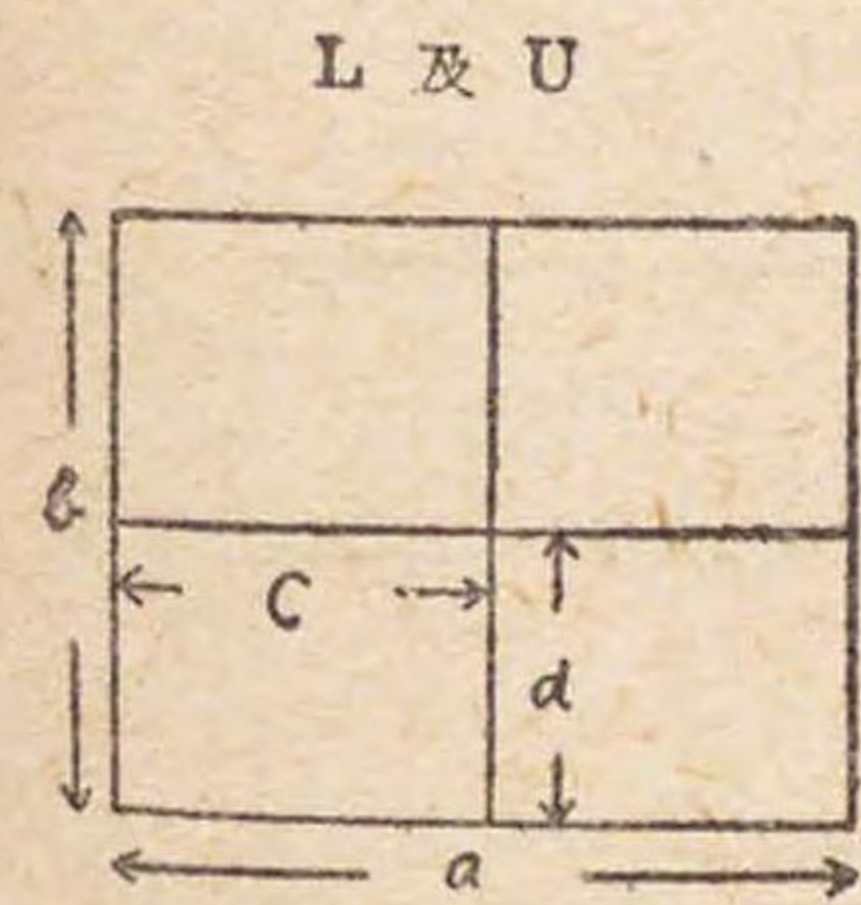
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	244.0	198.0	61.0	49.5
中	168.0	137.0	42.0	34.3
小	91.0	76.0	22.8	19.0



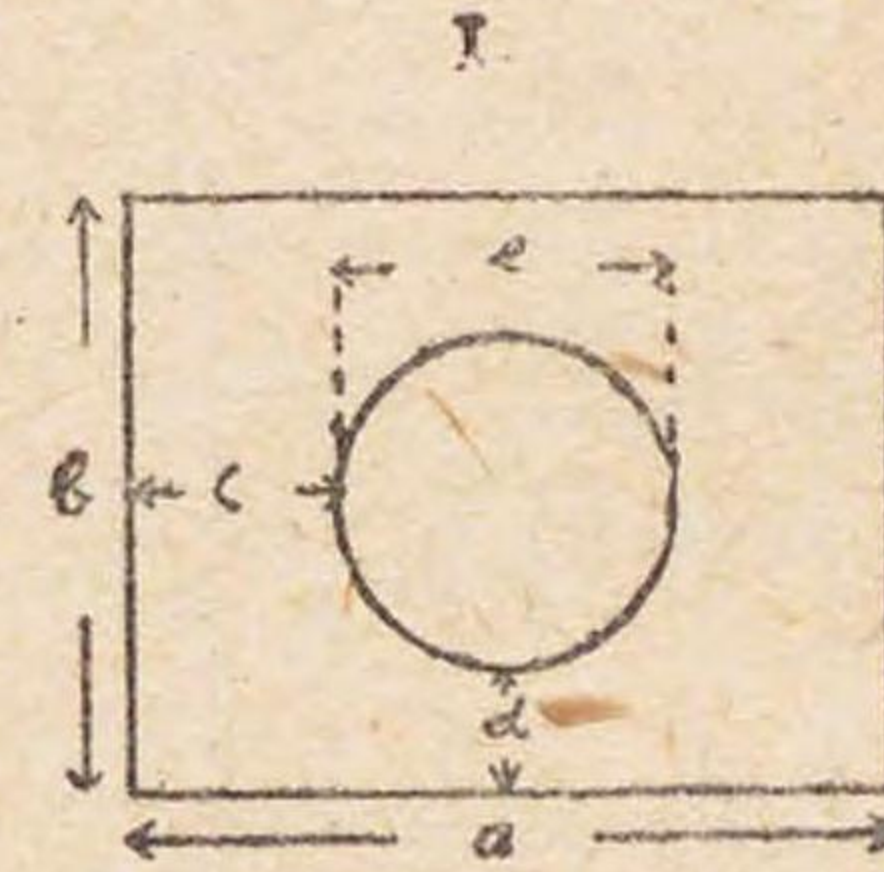
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	66.0
中	168.0	137.0	45.7
小	91.0	76.0	25.3



大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	122.0
中	168.0	137.0	84.0
小	91.0	76.0	45.5



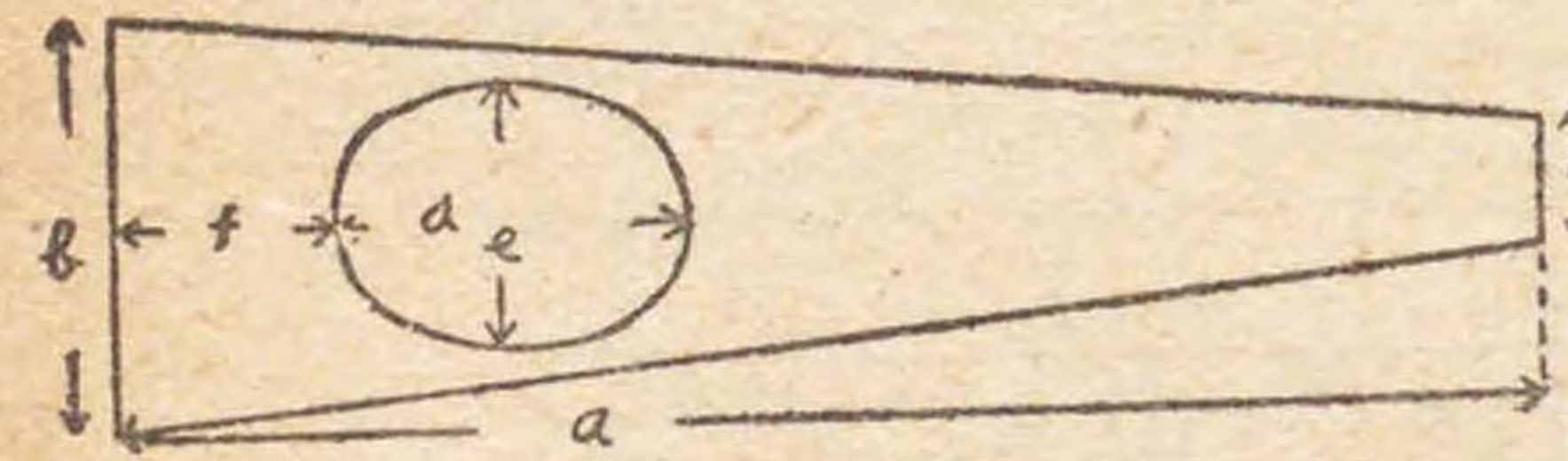
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	244.0	198.0	122.0	99.0
中	168.0	137.0	84.0	68.5
小	91.0	76.0	45.5	38.0



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種
大	244.0	198.0	66.1	43.1	111.8
中	168.0	137.0	45.9	30.2	76.2
小	91.0	76.0	25.2	17.7	40.6

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ國際信號旗ノ寸法ニ關スル件(朝鮮)

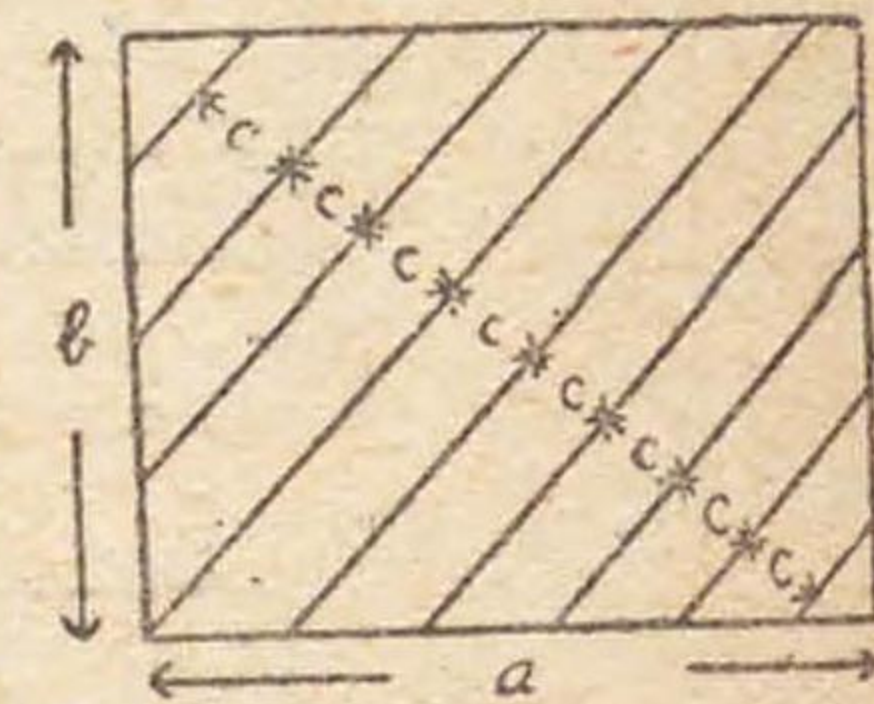
1 及 2



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種	f 種
大	511.0	152.0	46.0	127.0	101.6	71.1
中	389.0	114.0	31.0	96.5	76.2	55.9
小	359.0	76.0	20.0	64.8	50.8	36.8

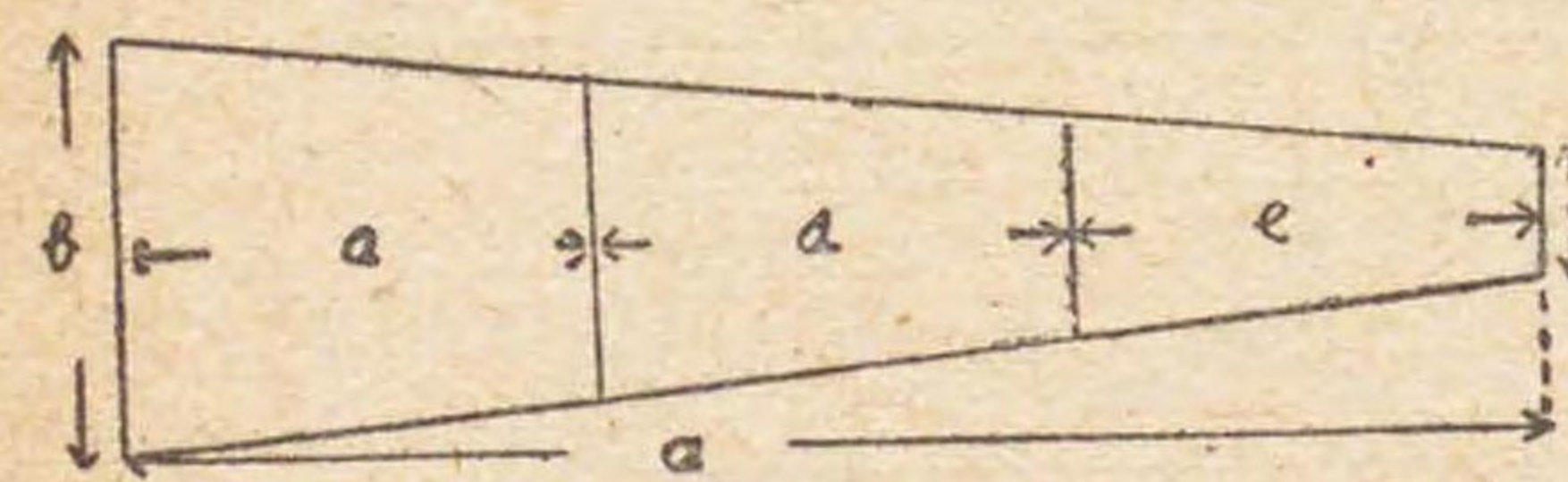
數字旗

Y



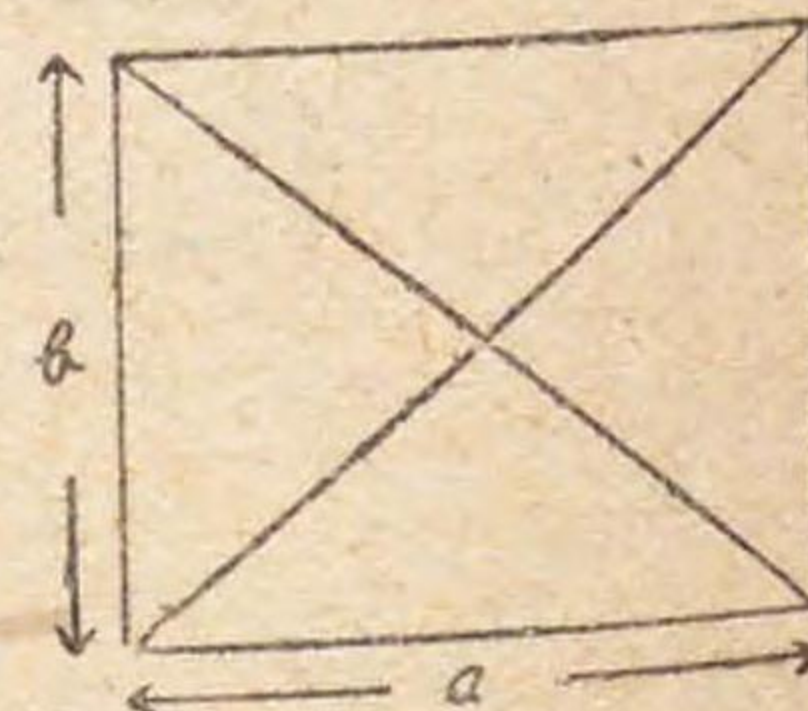
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7

3 及 0



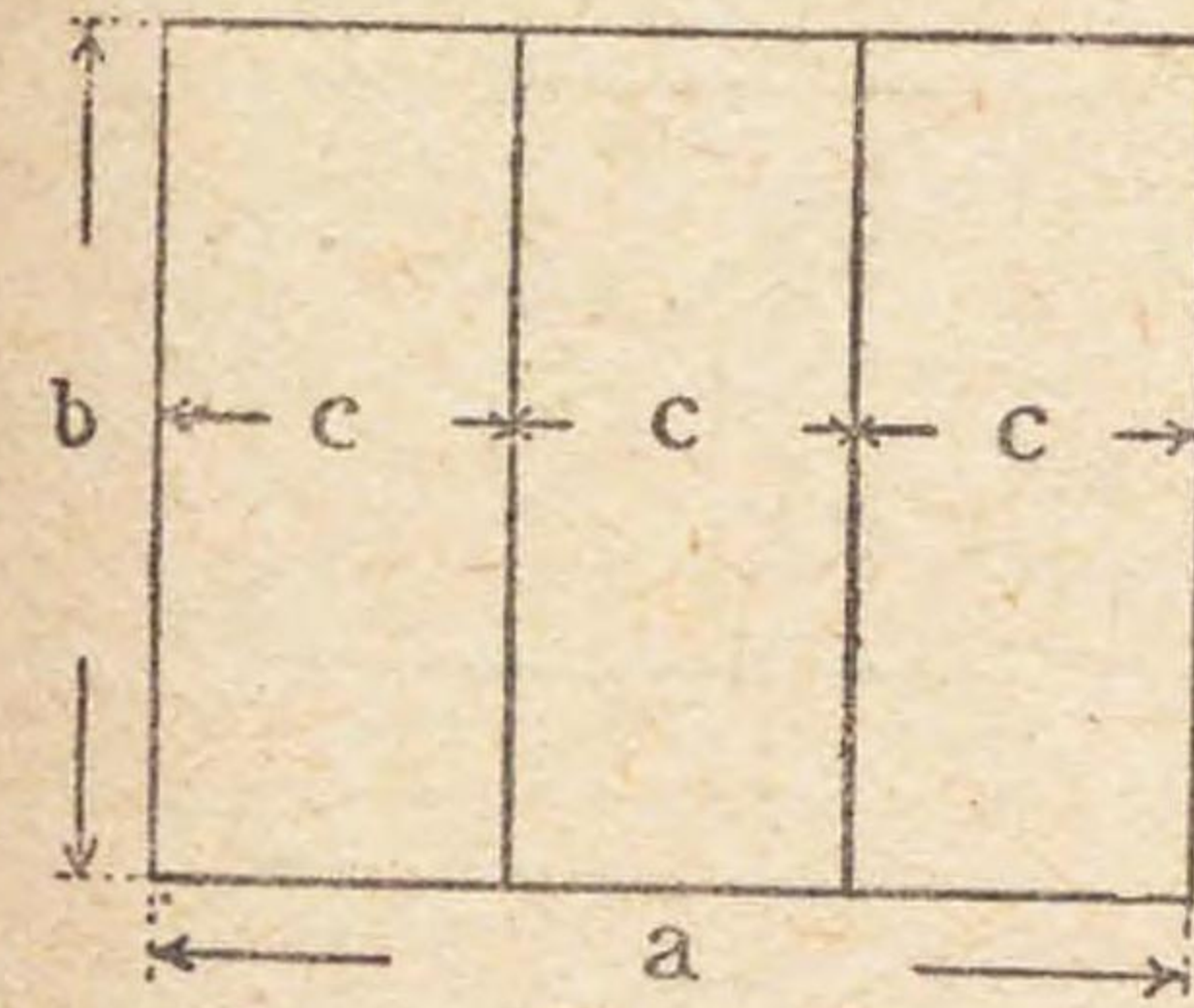
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種
大	511.0	152.0	46.0	167.6	175.8
中	389.0	114.0	31.0	128.3	132.4
小	259.0	76.0	20.0	85.1	88.8

Z



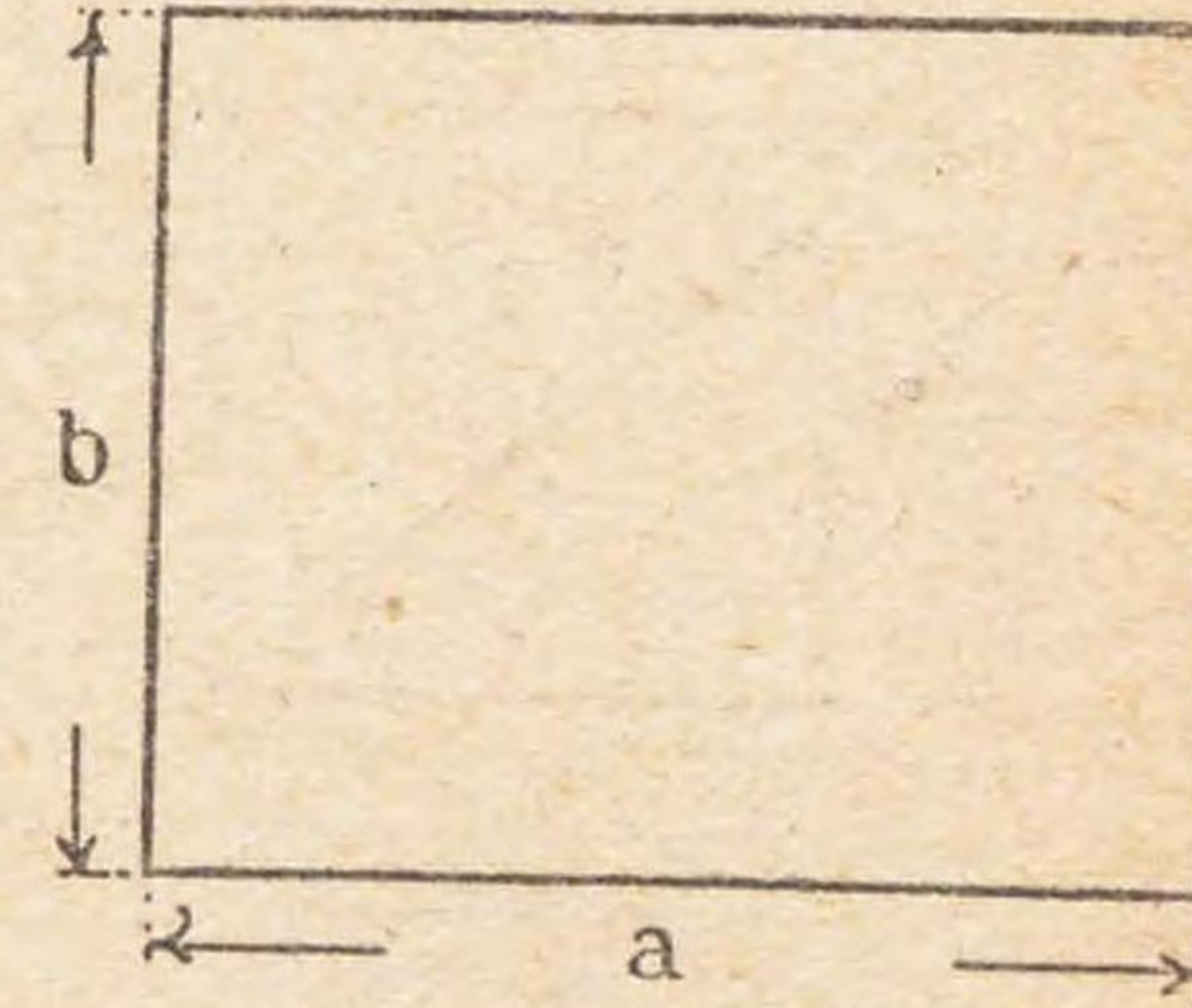
大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

T



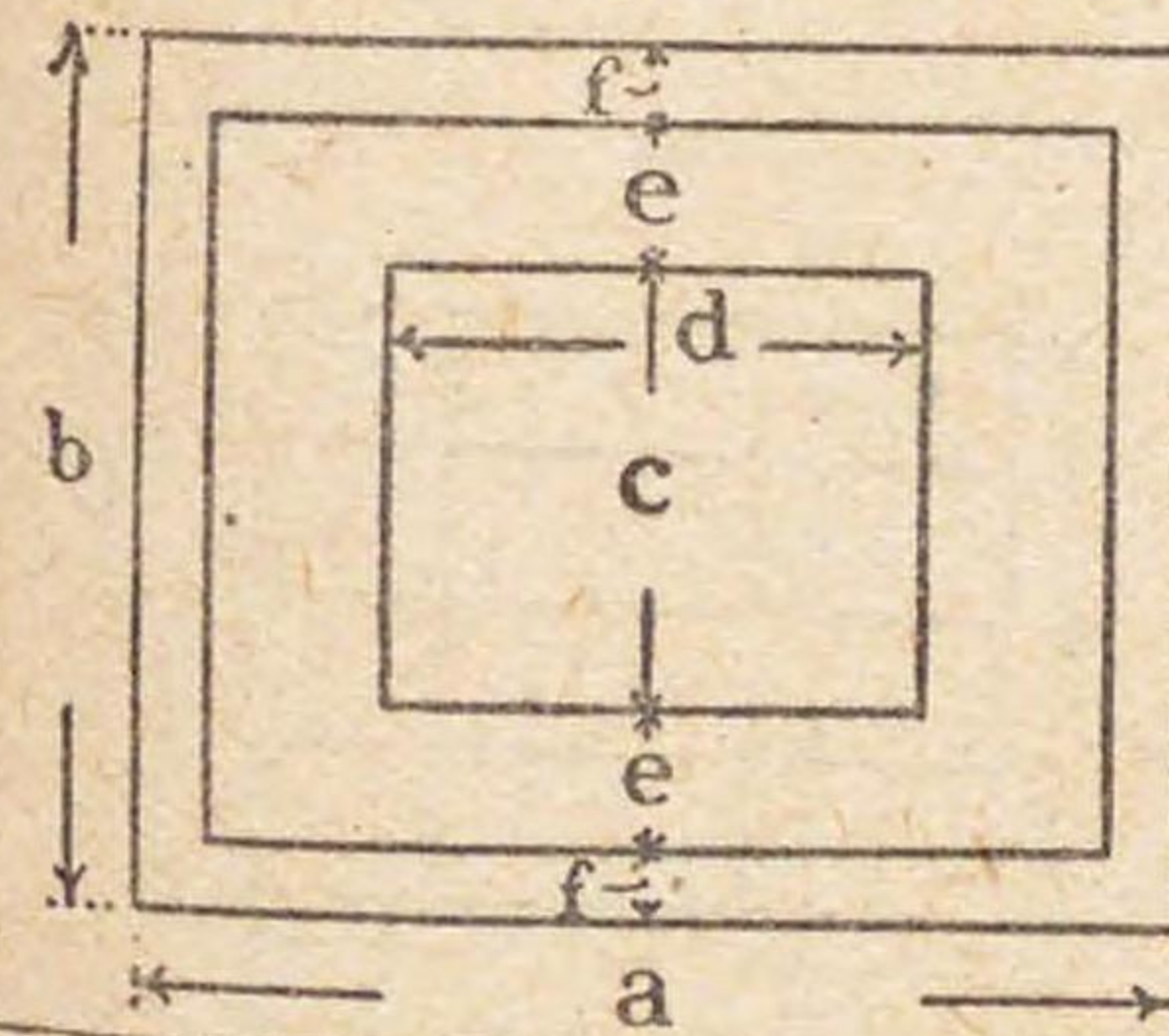
大サ	a 種	b 種	c 種
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

Q



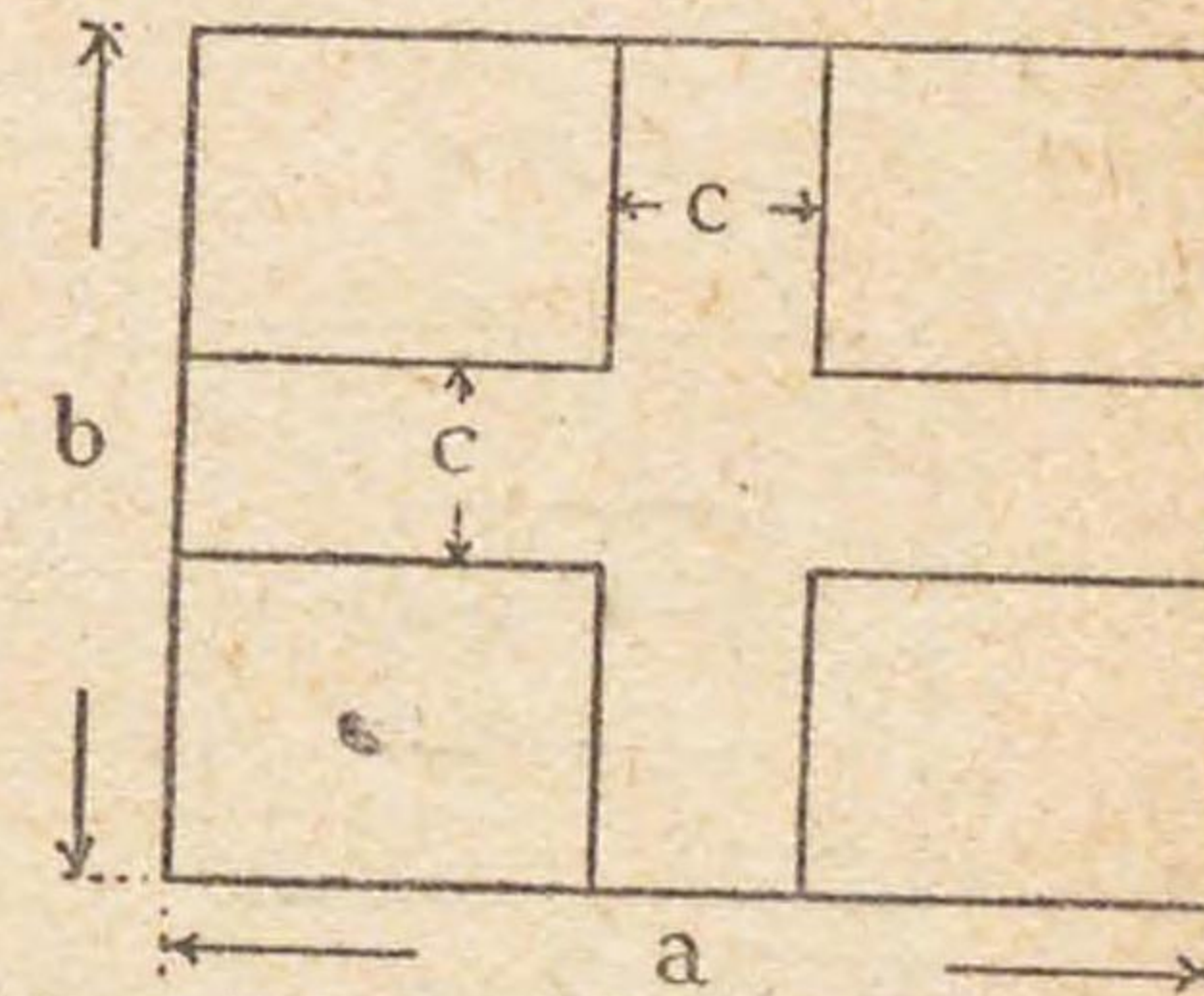
大サ	a 種	b 種
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

W



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種	f 種
大	244.0	198.0	99.0	121.9	33.0	16.5
中	168.0	137.0	68.4	83.8	22.9	11.4
小	91.0	76.0	37.8	45.7	12.7	6.4

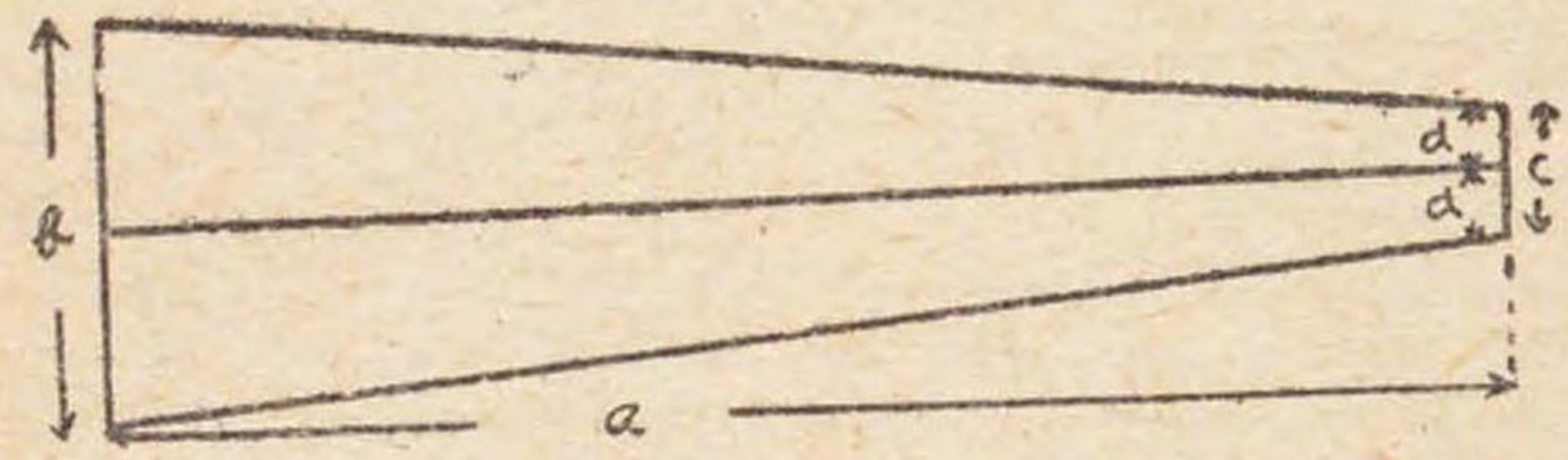
R 及 X



大サ	a 種	b 種	e 種
大	244.0	198.0	49.5
中	168.0	137.0	34.3
小	91.0	76.0	19.1

海軍法令集

6及7



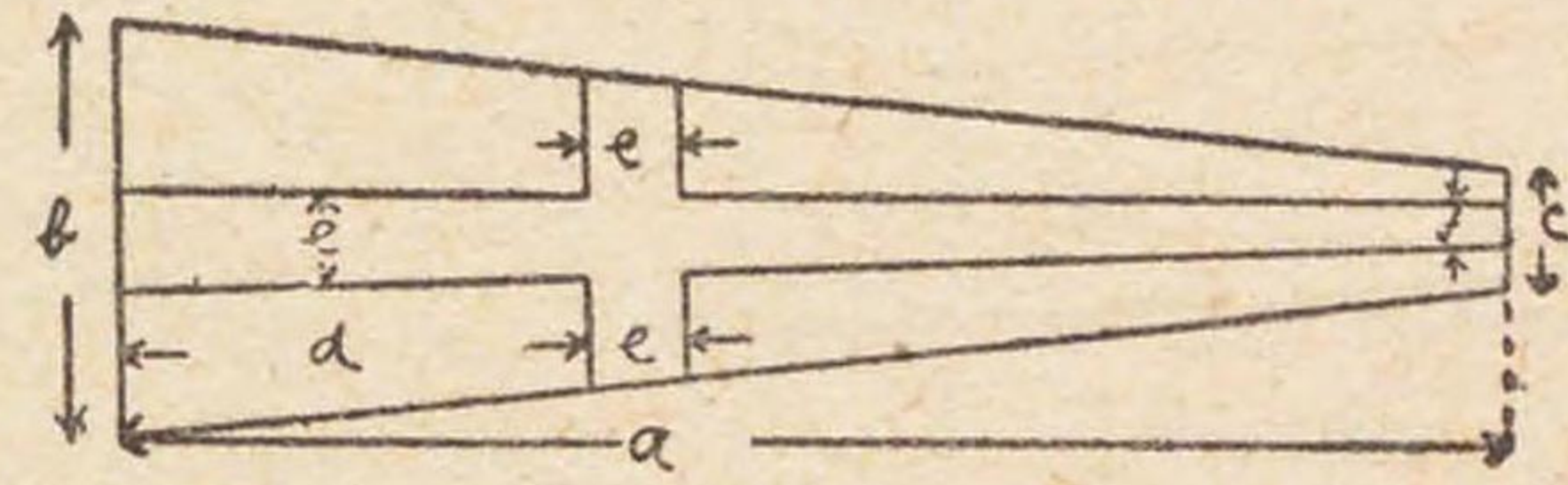
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	511.0	152.0	46.0	23.0
中	389.0	114.0	31.0	15.5
小	359.0	76.0	20.0	10.0

8



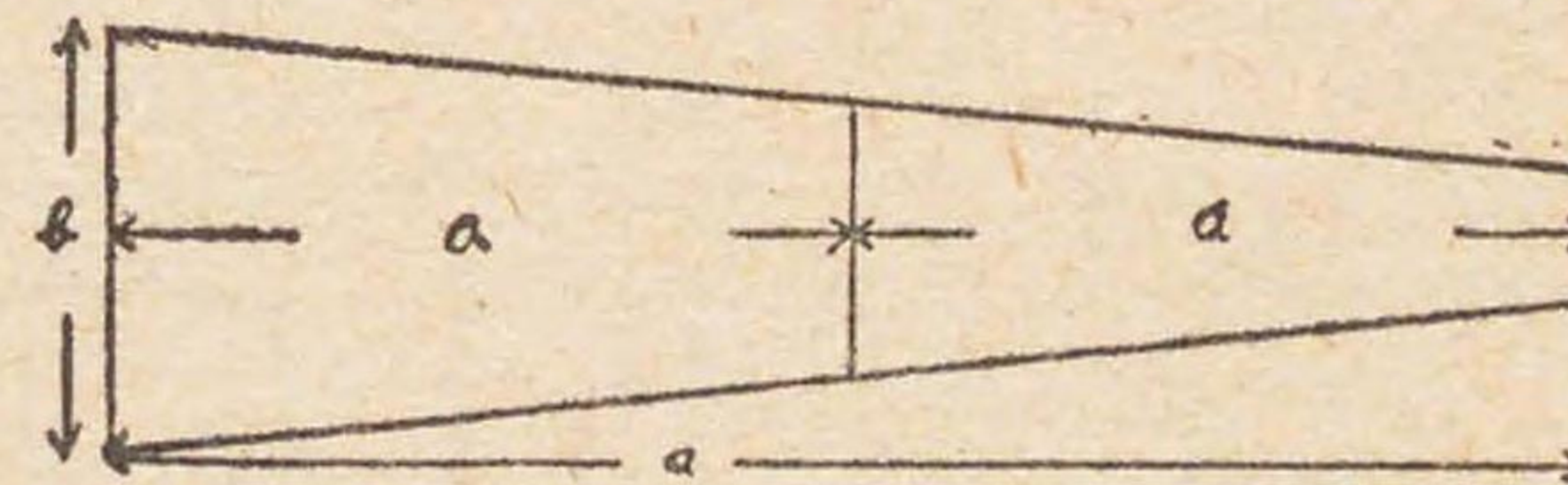
大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種
大	511.0	152.0	46.0	274.3	236.7
中	389.0	114.0	31.0	205.7	183.3
小	259.0	76.0	20.0	137.2	121.8

4及8



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種	e 種	f 種
大	511.0	152.0	46.0	170.2	36.8	15.3
中	389.0	114.0	31.0	129.5	27.9	10.3
小	259.0	76.0	20.0	86.4	19.1	6.7

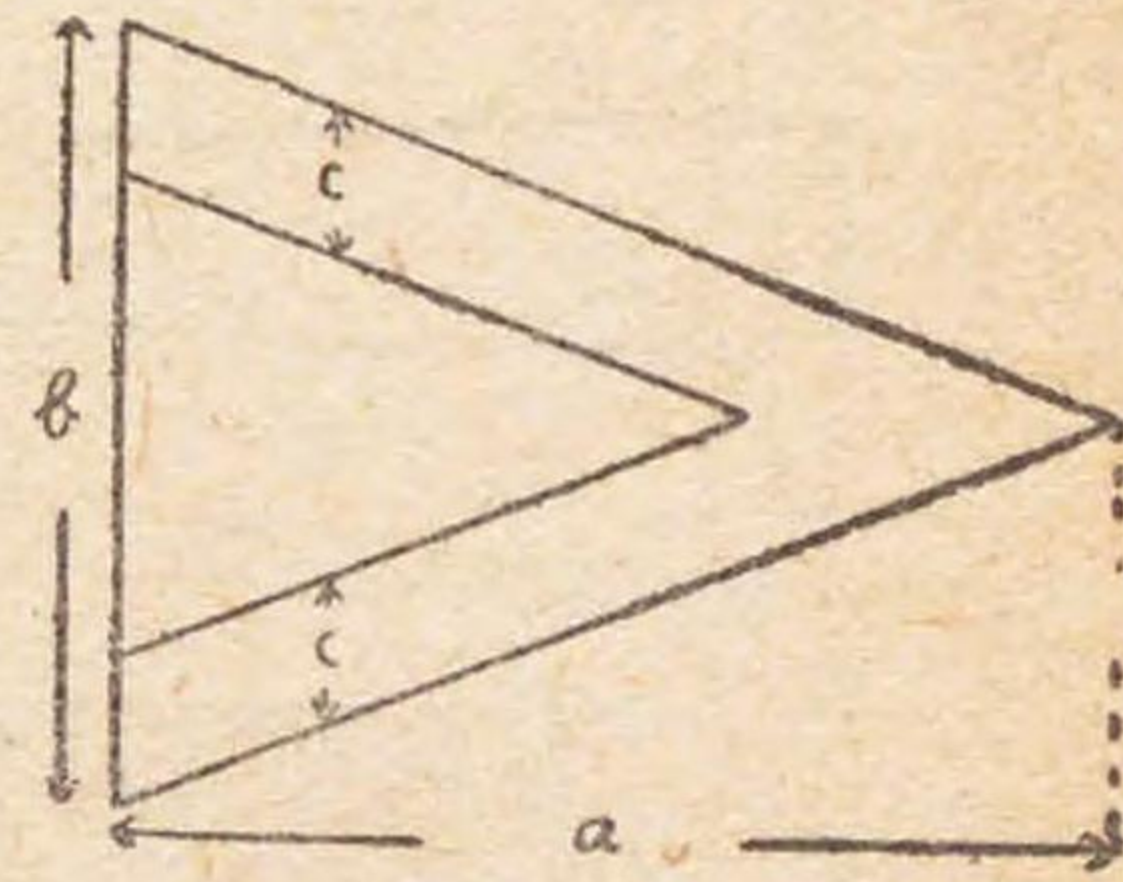
5



大サ	a 種	b 種	c 種	d 種
大	511.0	152.0	46.0	255.5
中	389.0	114.0	31.0	194.5
小	259.0	76.0	20.0	129.5

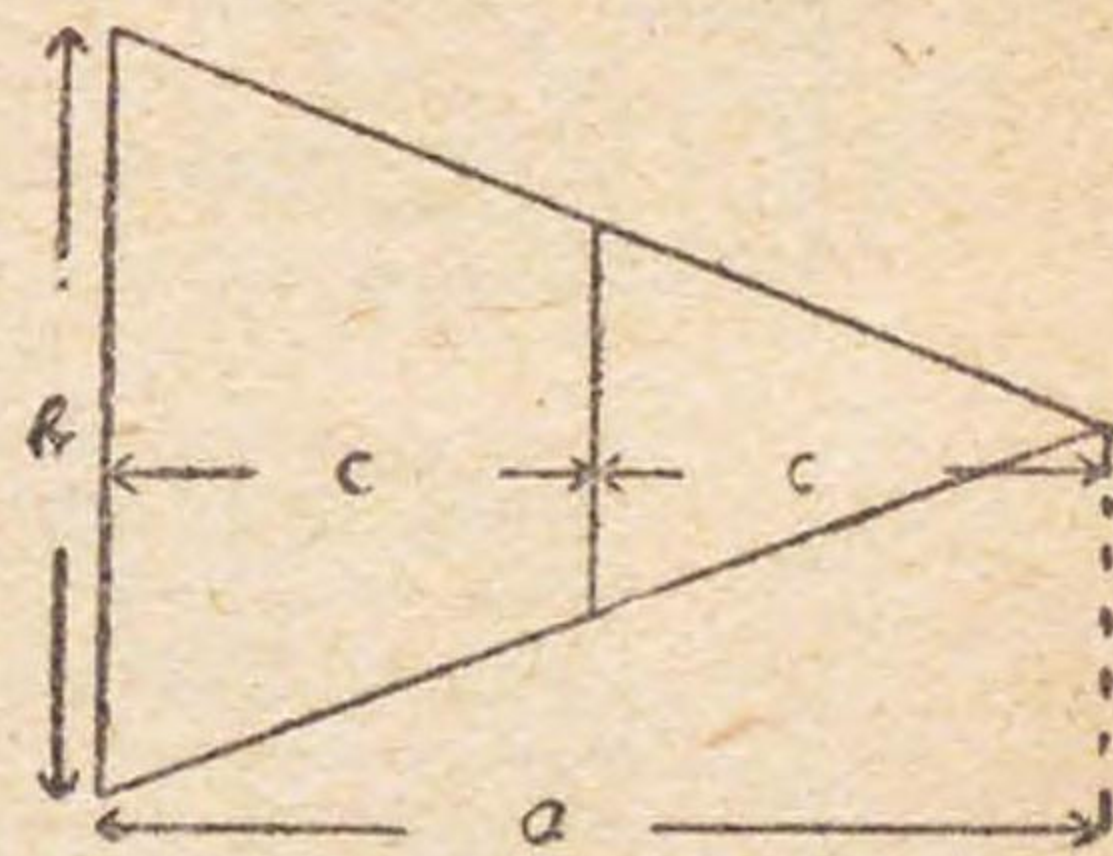
代表旗

第1代表旗



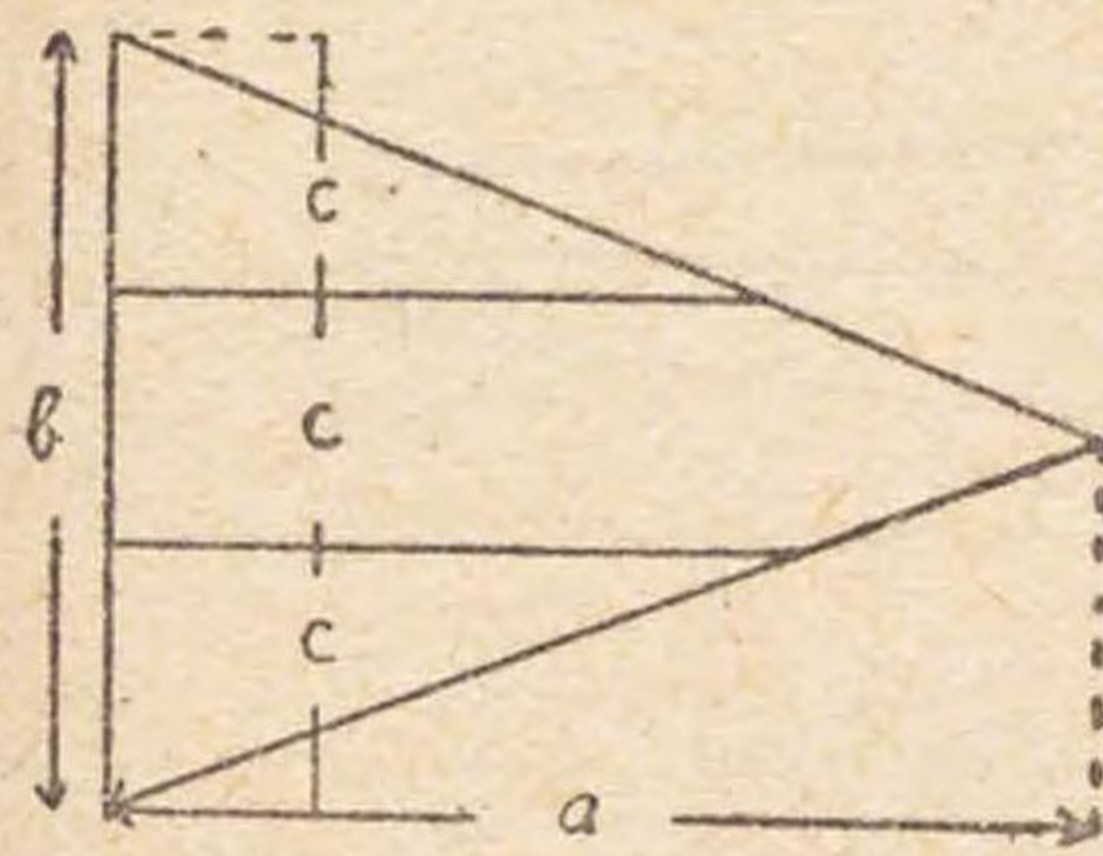
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	305.0	244.0	48.5
中	229.0	183.0	37.0
小	152.0	122.0	24.0

第2代表旗



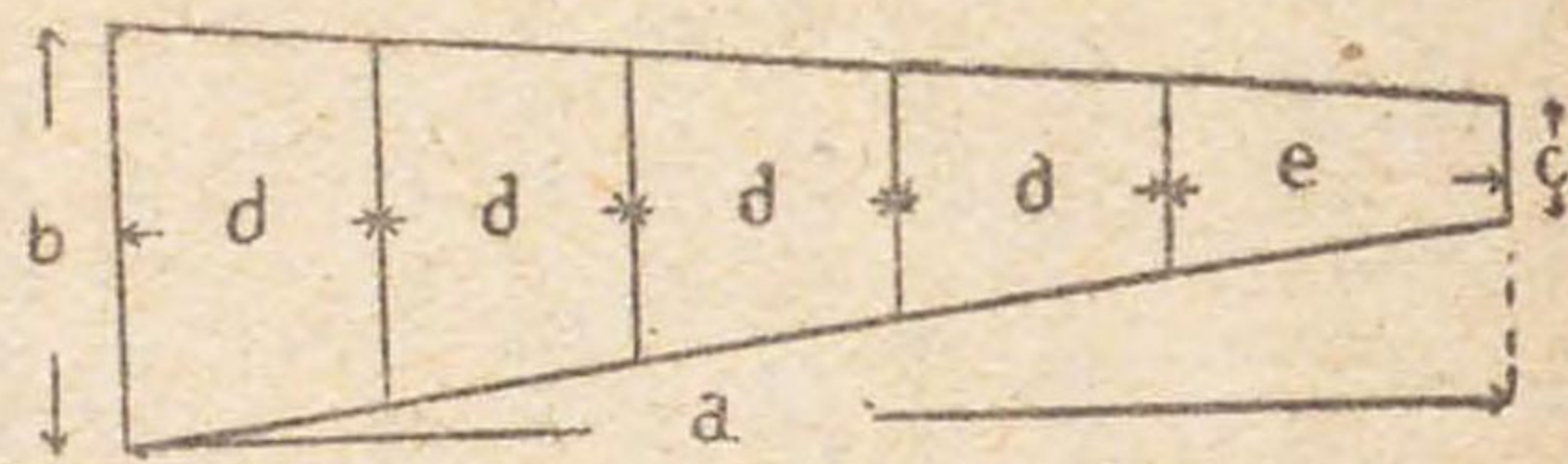
大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	305.0	244.0	152.5
中	229.0	183.0	114.5
小	152.0	122.0	76.0

第3代表旗



大サ	a 寸	b 寸	c 寸
大	305.0	244.0	81.3
中	229.0	183.0	61.0
小	152.0	122.0	40.7

國答旗



大サ	a 寸	b 寸	c 寸	d 寸	e 寸
大	511.0	152.0	46.0	99.1	114.6
中	389.0	114.0	31.0	76.2	84.2
小	259.0	76.0	20.0	50.8	55.8

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ所持スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

朝鮮船舶通報規則 (朝鮮)

朝鮮船舶通報規則

(大正四年三月)
朝鮮總督府令第二十三號

改正 昭和九年十一月
朝鮮總督府令第八號

第一條 朝鮮内並朝鮮内地(小笠原島ヲ除ク)臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル

第二條 船舶通報ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 通過報
- 二 信號報
- 三 海難報

第三條 通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

- 一 船名
- 二 通過時分
- 三 通過方向

第四條 信號報トハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ト船長トノ間

ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ附近ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第四條ノ二 海難報トハ特ニ指定スル電信局所ニ於テ船舶ノ遭難又ハ航行ノ安全ニ關スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信(特定人ニ宛ツルモノヲ除ク)ニ依リ知得シタル船舶ノ遭難、委棄又ハ漂流ニ關スル左ノ事項ヲ和文電報ヲ以テ請求者ニ通知スルモノヲ謂フ

- 一 船名(必要アルトキハ船舶ノ種類、國籍又ハ所有者名ヲ附記ス)
- 二 災厄ノ日時(遭難ノ日時又ハ遭難、委棄若ハ漂流ノ事實ヲ知得シタル日時)
- 三 船舶ノ位置
- 四 災厄ノ狀況(遭難、委棄又ハ漂流ノ別及其ノ狀況)

第五條 通過報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ通過報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國籍
- 三 船舶所有者名(船舶ガ貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名以下之ニ同ジ)

朝鮮内 二十錢
朝鮮ト内地、臺灣及樺太相互間 二十五錢

二 登記料ヲ納付セザル者ニ對シテハ 一通毎ニ

朝鮮内 三十錢
朝鮮ト内地、臺灣及樺太相互間 四十錢
夜間(日没ヨリ日出迄ヲ謂フ)通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ通過報配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 第五條第三項ノ請求者豫定通過日時切迫ノ爲電信局所ヨリ燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要求スルトキハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スベシ

第九條 第五條ノ請求書ニ記載シタル船舶ガ燈臺ノ附近ヲ通過スル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ通過又ハ船名ヲ知り得ザルトキハ通過報ヲ發セズ

第十條 信號報ノ取扱ヲ受ケントスル船舶ノ所有者又ハ賃借人ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ信號報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國籍

朝鮮船舶通報規則(朝鮮)

四 燈臺名
五 通過方向

六 請求者(請求者ガ受信者ニ非ザルトキハ併せて受信者)ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ請求者ガ船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ非ザルトキハ當該船舶ニ於テ第二十條ノ規定ニ依リ國旗及信號符字ヲ揚グル旨ノ船舶ノ所有者又ハ賃借人ノ承諾書ヲ差出スベシ

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ第一項各號ノ事項ノ外船舶ノ豫定通過日時ヲ記載スベシ

第六條 通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第七條 通過報ノ料金左ノ如シ

- 一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ 一通毎ニ

三 船舶所有者名

四 燈臺名

五 請求者ノ住所氏名

第十一條 信號報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ
前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第十二條 信號報ノ料金左ノ如シ
信號料 一通毎ニ 一圓
電報料又ハ郵便料 實費

第十三條 船舶ノ所有者又ハ賃借人信號報ヲ發セントスルトキハ和文電報書法ニ依リ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第十條ノ電信局所ニ提出スベシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼附スベカラズ

信號報ヲ發セントスル場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十四條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶ニ傳達ス

第十五條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セントスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スベシ但シ信號報ノ受信者ハ第十一條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第十條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十七條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ傳達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第十八條 信號報ヲ船舶ニ傳達シ能ハザルトキハ之ヲ發信者ニ通知ス

第十九條 燈臺ト船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限り之ヲ行ヒ其ノ方法ハ國際通信書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ所有者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ通過報ノ夜間信號ハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ於テ時定信號ヲ定メ豫メ朝鮮總督府選信局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

トス

前項ノ料金ハ海難報配達ノ際其ノ受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十條ノ五 電信局所ニ於テ海難報ニ關スル通知ヲ爲スベキ場合ニ於テ第四條ノ二各號ノ事項ヲ知得シ得ザルトキハ當該事項ノ通知ヲ爲サズ

第二十一條 本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ總テ電報規則ヲ準用ス

第二十二條 第五條第一項、第十條又ハ第二十條ノ二、第一項ノ各號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ船舶通報ノ請求者其ノ取扱ヲ罷メントスルトキハ請求書ヲ提出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス但シ同一府邑面内ニ於ケル受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ通過報又ハ信號報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶氣象觀測報告規則 (朝鮮)

第二十條 通過報又ハ信號報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ掲グベシ

第二十一條ノ二 海難報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ海難報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

- 一 船名及信號符字
- 二 國 籍
- 三 船舶所有者名
- 四 發信電信局所名
- 五 請求者ノ住所氏名

海難報ノ取扱ヲ受クベキ船舶ハ之ヲ指定セザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

第二十二條ノ三 海難報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ船舶數及海難報ノ配達ヲ受ケル度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ

前項ノ登記料ハ會計年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前途迄之ヲ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第二十三條ノ四 海難報ノ通知ニ要スル電報ノ料金ハ實費

朝鮮船舶氣象觀測報告

規則

(昭和十一年九月)
朝鮮總督府令第八十四號

改正 昭和十四年
朝鮮總督府令第九十六號

第一條 公衆通信ヲ取扱フ無線電信ノ施設ヲ有スル船舶及朝鮮總督ノ特ニ指定スル船舶ハ東經百度ヨリ百八十度ヲ經テ西經百六十度ニ至リ北緯零度ヨリ六十五度ニ至ル海面ニシテ本邦海岸局ノ通信距離内ヲ航行中毎日中央標準時午前六時、正午及午後六時ニ氣象觀測ヲ爲スベシ

第二條 海上氣象特報電報又ハ海上暴風警報電報ニ依リ中心示度七百三十ミリメートル以下ノ颶風ノ中心ヨリ八百キロメートル以内ヲ航行中ナルコトヲ知りタル船舶ハ前條ノ時刻ノ外中央標準時正午、午前三時、午前九時、午後三時及午後九時ニモ氣象觀測ヲ爲スベシ

天候異常ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ前項及前條ノ時刻外ト雖モ氣象觀測ヲ爲スベシ

第三條 前二條ノ場合ニ於テ編隊又ハ集團シテ航行中ノ船舶ニ在リテハ各其ノ中ノ便宜ノ一隻ニ於テ氣象觀測ヲ爲スベシ

第四條 内地又ハ朝鮮(何レモ離島ヲ除ク)ノ海岸ヨリ五十キロメートル以内ヲ航行中ノ船舶ハ本令ニ依ル氣象觀測ヲ爲スコトヲ要セズ

第五條 第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ氣象觀測ヲ爲シタル船舶ハ直ニ朝鮮總督府氣象臺及中央氣象臺宛電報ニ依リ之ヲ報告スベシ

第六條 前條ノ報告ハ中央氣象臺ノ告示シタル船舶氣象電報式ニ依ルベシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國際通信書使用方ノ件

(昭和八年十月) 臺灣總督府令第一百四號

日本船舶ハ左ノ國際通信書(國際通信書若ハ英和國際通信書)ヲ使用スベシ

國際通信書	信號篇
國際通信書	電信篇
國際通信書	信號篇
對譯 國際通信書	電信篇
英和 國際通信書	電信篇
對譯 國際通信書	電信篇

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際通信書	信號編
國際通信書	電信編
國際通信書	信號編
對譯 國際通信書	電信編
英和 國際通信書	電信編
對譯 國際通信書	電信編

附 則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

(昭和九年二月) 臺灣總督府令第二號

國際通信書掲載ノ國際信號旗ノ寸法ニ關シテハ昭和八年遞信省令第五十一號ニ依ル

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

國際通信書使用方ノ件

(昭和八年十一月) 關東廳令第五十四號

關東州船籍令ニ依ル日本船舶ハ遞信省ニ於テ編纂スル左ノ國際通信書ニ依リ普通信號ヲ爲スベシ

國際通信書	信號篇
國際通信書	電信篇
國際通信書	信號篇
對譯 國際通信書	電信篇
英和 國際通信書	電信篇
對譯 國際通信書	電信篇

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

(昭和九年四月) 關東廳令第十九號

昭和八年關東廳令第五十四號ニ依リ關東州船籍令ニ依ル日本船舶ガ信號ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル國際通信書掲載ノ國際信號旗ノ寸法ニ關シテハ昭和八年遞信省令第五十一號ニ依ル

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

國際通信書使用方ノ件(臺灣)・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件(臺灣)・國際通信書使用方ノ件(關東州)・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件(關東州)

第三章 航路標識

航路標識條例

(明治二十一年十月 勅令第六十七號)

第一條 航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項、第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ

航路標識條例・公設航路標識業務規則

二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四條 航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫ギ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

公設航路標識業務規則

(昭和七年八月 遞信省令第二十七號)

改正 昭和十二年 遞信省令第九十四號

第一條 道府縣又ハ市町村ノ管理スル航路標識(以下公設航路標識ト稱ス)ノ業務ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第二條 公設航路標識ニ於テハ畫標(燈火ヲ點セサル航路標識ニシテ霧信號ニ非サルモノヲ謂フ以下是ニ做フ)ヲ除クノ外燈臺長及一名以上ノ燈臺員ヲ置キ當該航路標識ノ業務ヲ執行セシムヘシ但シ使用機器ノ種類又ハ建設若ハ碇置場所ノ關係等ニ依リ燈臺局ノ認可ヲ受ケ燈臺長一名ノミヲ置キ又ハ附近航路標識ノ管理ニ屬セシムルコト

ヲ得

第三條 燈臺長ハ當該航路標識ノ從業員ヲ監督シ諸般ノ事務ヲ掌理ス

燈臺長ハ燈臺局又ハ同局ノ指定スル燈臺ニ於テ航路標識業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタルモノナルコトヲ要ス但シ同局ニ於テ特ニ其ノ必要ナキモノト認定シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 前條第二項ニ定ムル航路標識業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタル者ニハ適任證ヲ付與ス

前條第二項但書ニ定ムル認定ヲ受ケタル者ニハ認定證ヲ付與ス

適任證及認定證ノ書式ハ別表ニ依ル

第五條 第三條ノ傳習期間ハ一ヶ月以上三ヶ月以内トス但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 傳習ニ要スル一切ノ費用ハ本人若ハ當該道府縣市町村之ヲ負擔スルモノトス

第七條 燈臺長、燈臺員又ハ看視人ヲ採用シタルトキハ運滯ナク燈臺局ニ届出ツヘシ之ヲ解免シタルトキ亦同シ前項ノ採用届ニハ履歷書ノ寫ヲ添付スヘシ燈臺長ニ付テハ適任證若ハ認定證ノ寫ヲモ添付スヘシ

第八條 公設航路標識用品中左ニ掲クルモノハ燈臺局ノ檢定又ハ認可ヲ經タルモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

燈籠、燈器（但シ電球ヲ除ク）、照光器、回轉裝置、點滅裝置、瓦斯發生裝置、浮標體、霧信號用機器

前項ニ依リ檢定又ハ認可ヲ經タル機器ニシテ其ノ要部ヲ修繕シ又ハ之ニ加工シタルトキ亦前項ニ同シ

第九條 公設航路標識中夜標（燈火ヲ點スル航路標識ヲ謂フ）ニハ豫備燈器一組ヲ備付クヘシ但シ同種ノ機器ヲ用ウルニ基以上ノ航路標識ヲ管理スル場合ニ在リテハ二基ニ對シ豫備燈器一組ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

電燈ヲ光源トスル公設航路標識ニハ非常用トシテ適當ナル燈器ヲ備付クヘシ

第十條 公設航路標識業務ノ開始、廢止、休止又ハ標識異變ノ發生及復舊ハ其ノ都度燈臺局ヘ電報スヘシ

第十一條 公設航路標識外部ノ定色塗裝ハ褪色又ハ剝脫ノ爲認識困難トナラサル前ニ施行スヘシ

第十二條 浮標ハ常時其ノ位置及現狀ニ注意シ必要ニ應シ復舊交換又ハ修補スヘシ

第十三條 航路標識業務ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ハ總テ

燈臺局及同局派遣視察官吏ノ指示スル處ニ依ルヘシ

附 則

本令ハ昭和七年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十二年三月遞信省令第三號北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル證書ハ本令施行ノ日ヨリ

（別表ノ一）

第 號 適 任 證

族 籍 氏 名

年 月 日 生

右者當局（當局所管何燈臺）ニ於テ航路標識業務傳習ヲ卒ヘタルヲ以テ何縣（道府市町村）立何燈臺（標、竿）燈臺

長ニ適任ノ者ナルコトヲ證ス

年 月 日

燈 臺 局 印

（別表ノ二）

第 號 認 定 證

族 籍 氏 名

年 月 日 生

右者何縣（道府市町村）立何燈臺（標、竿）燈臺長トシテ任用シ得ル者ト認定ス

年 月 日

燈 臺 局 印

公設航路標識業務規則

府縣區町村費ヲ以テ航路標識設置變更等具申及報告方ノ件

(明治二十一年十月 遞信省訓令第十號)

- 第一條 航路標識條例第二條第一項ニ依リ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ
- 一 航路標識設置位置及其近傍實測地圖
 - 二 航路標識圖面及其構造方法並費用調書
 - 三 一箇年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數並其最大船舶石數又ハ噸數概算調書
- 其位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又其性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經伺ノ上之ヲ變更スヘシ
- 第二條 前條航路標識ヲ設置シ若ハ其位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若ハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキ

私設航路標識取締條規

(明治二十二年三月 遞信省令第二號)

- ヲ以テ地方長官ハ豫メ其ノ實施期限ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ
- 第三條 船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ虞アルヲ以テ其設置變更等ハ總テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經伺ノ上若シ航路ニ障礙アリト認ムルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ趣旨ヲ以テ之ヲ許可スヘシ
- 從來私設ノ航路標識取締ニ關シ左ノ條規ヲ定ム
- 第一條 私設航路標識建設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出スヘシ
- 第二條 前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出スヘシ
- 第三條 私設航路標識建設人ハ標識看守上ニ付遞信省燈臺

局又ハ同局派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ

- 第四條 私設航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省燈臺局派遣視察官吏ノ檢閲ヲ受クベシ

私築燈標ノ燈費ニ關スル件

(明治十九年六月 遞信省令第十八號)

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

朝鮮航路標識規則

(大正七年十月 朝鮮總督府令第百號)

昭和七年三月 改正 朝鮮總督府令第三十號

- 第一條 朝鮮ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ府縣區町村費ヲ以テ航路標識設置變更等具申及報告方ノ件・私設航路標識取締條規・私築燈標ノ燈費ニ關スル件・朝鮮航路標識規則(朝鮮)

朝鮮總督府ニ於テ之ヲ設置ス

- 第二條 土地ノ狀況ニ因リ公共團體又ハ私人ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得
- 前項ニ依リ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ設置者ヲ變更シ又ハ航路標識ノ位置若ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 第三條 航路標識ノ設置ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
- 一 位置ヲ記載シタル書面
 - 二 構造方法書
 - 三 工事費概算書
 - 四 工事設計圖
 - 五 位置及附近ノ狀況ヲ示セル圖面
 - 六 最近一年間ニ於ケル通過又ハ出入ノ船舶數調書
 - 七 管理及維持方法書

- 航路標識ノ位置變更ノ許可申請書ニハ前項第一號及第五號ノ書類及圖面ヲ、性質變更ノ許可申請書ニハ第二號乃至第四號及第七號ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
- 第四條 航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者併用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總

督府選信局長ニ届出ツヘシ

第五條 第二條ノ航路標識ヲ停止又ハ廢止セムトスルトキ

ハ其ノ期日ヲ定メ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲設置者

ハ其ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ

具シ朝鮮總督府選信局長ニ届出ツヘシ

第七條 第二條ノ航路標識ニ於テ使用スル燈油其ノ他點燈

用ノ消耗品ニ付テハ豫メ朝鮮總督府選信局長ノ承認ヲ受

クヘシ

第八條 朝鮮總督ニ於テ第二條ノ航路標識不完全ニシテ危

險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ廢止修理其ノ他必要ナル

措置ヲ命スルコトアルヘシ

朝鮮總督府選信局長ハ第二條ノ航路標識ニ付必要アリト

認ムルトキハ検査官ヲ派遣シテ検査ヲ爲サシメ又ハ設置

者ニ對シテ報告書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更

シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シ

タル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ

所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第十條 航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫留シ若ハ衝突セシ

メ又ハ攀躋シ若ハ之ヲ汚穢シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ大正七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣航路標識規則

(明治三十一年五月) 臺灣總督府令第二十六號

第一條 臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧

ヲ保護スル爲臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條 土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ

費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セントスルトキハ地方長官ヲ

經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ

徵收スルコトヲ許サス

臺灣總督ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト

認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアル

ヘシ 臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價

格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ

第三條 航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ

又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ指定シタ

ル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ所

爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第四條 航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ

又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ

科料ニ處ス

關東廳航路標識使用料

規則

(大正十四年十二月) 關東廳令第六十九號

改正 昭和八年十月 關東廳令第五十二號

第一條 船舶關東州外ノ港ニ入港シタルトキハ本令ニ依リ

航路標識使用料ヲ徵收ス但シ内外國艦艇及日本官公署ノ

所屬船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 航路標識使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス但シ

臺灣航路標識規則(臺灣)・關東廳航路標識使用料規則(關東州)

一噸又ハ一石未滿ノ噸數ハ之ヲ切捨ツ

一 噸數船

登簿噸數五十噸未滿ノ船舶 金五十錢

登簿噸數五十噸以上ノ船舶 一噸ニ付金一錢

二 石數船

積石數百石未滿ノ船舶 金五十錢

積石數二百石未滿ノ船舶 金一圓

積石數二百石以上ノ船舶 金二圓

關東州ニ船簿ヲ有スル登簿噸數二十噸未滿ノ汽船及積石

數五百石未滿ノ帆船ニシテ一月二回以上同一港ニ入港ス

ルトキハ三回以後ノ入港ニ付テハ航路標識使用料ノ徵收

ヲ免除ス

第三條 關東州ト測度方法ヲ異ニスル船舶ノ積量ハ關東州

ニ於テ定ムル測度法ニ依リ之ヲ換算ス

第四條 海難其ノ他ノ事故ニ因リ入港シタル船舶ニシテ關

東廳海務局長又ハ同支局長ニ於テ事情已ムヲ得サルモノ

ト認メタルトキハ航路標識使用料ハ之ヲ免除ス

第五條 航路標識使用料ハ關東廳海務局長又ハ同支局長ヲ

シテ之ヲ徵收セシム

第六條 航路標識使用料ハ船舶ノ船長之ヲ納入スヘシ

第七條

航路標識使用料ノ逋脱ヲ圖リ又ハ納付ヲ怠リ出航シタル船舶ノ船長ハ使用料金額ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額十圓ヲ下ルトキハ十圓トス

附 則

本令ハ大正十五年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ内大連港旅順港及普蘭店港以外ニ入港シタル船舶ニハ之ヲ適用セス

南洋群島航路標識規則

(大正十四年十月
南洋廳令第十三號)

第一條 南洋群島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲南洋廳ニ於テ之ヲ設置ス

第二條 土地ノ狀況ニ依リ官以外ノ者ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
南洋廳長官ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリ

第四章 水難救護

水難救護法

(明治三十二年三月
法律第九十五號)

改正 明治三十三年三月
法律第六十六號

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滞ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ
警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行ス

水難救護法

ト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

第三條 前條ノ航路標識ヲ停止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ期日ヲ定メ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ニ届出ツヘシ

第四條 航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ南洋廳長官ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繋キ若ハ衝突セシメ又ハ攀踏シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ従事スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者ア

リト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他ノ救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遲滞ナク船難報告書ヲ作り市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ
一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二 爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ
遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クコトヲ得ス

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ
船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金額其ノ他ノ物件ノ全部若クハ一

部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

一 船員ノ所持品

二 船員及旅客ノ食料

三 運送貨ヲ支拂フコトヲシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物

四 第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金額救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セザルトキハ市町村長ハ保管ノ

物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其保管ニ係ル金銭ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金銭ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘金アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條 第一條乃至第四條第五條第一項、第六條乃至

キサルコトヲ得

第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限り所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、没沈品ニ在リテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス
物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 漂流物及沈没品

第二十四條 漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遲滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限り直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須

拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ノ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之

ヲ補給ス

第三章 罰 則

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若クハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一 刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈没品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス

附 則

第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十二年七月勅令第三五七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行)

第三十七條 明治三年二月二十九日(不開港場規則難船救助)心得方條目、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

水難救護法等ヲ樺太ニ施行スルノ件

(明治四十三年三月 勅令第二十七號)

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

一 古物商取締法

一 遺失物法

一 水難救護法

一 傳染病豫防法但シ費用ノ負擔補助及市町村市町村會ニ關スル規定ヲ除ク

一 種痘法但シ第五條ヲ除ク

一 明治三十三年法律第十五號

第二條 水難救護法及種痘法中市町村長ノ職務ハ樺太廳支廳出張所長之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水難救護法等ヲ樺太ニ施行スルノ件(樺太)・水難救護法施行細則

水難救護法施行細則

(明治三十二年七月 遞信省令第三十五號)

第一章 遭難 船舶

第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一 船舶ノ種類及名稱

二 總噸數又ハ積石數

三 船籍港

四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所

六 遭難及救護ノ顛末

七 船舶ノ損害

八 死傷者ノ氏名

九 減失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積

其荷造ノ種類、箇數、記號及傭船者若クハ荷造人ノ氏名若クハ名稱

第二條 船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又

ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認
印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ
存スヘシ

第三條 船長船難報告書ニ認證ヲ受ケントスルトキハ該報
告書ニ通ヲ差出スヘシ

第四條 市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリ
ト認メタルトキハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコ
トヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還
付シ他ノ一通ハ當該役場ニ保存スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定
ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集
メテ之ニ告知シ又ハ遲滞ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スル
モノトス

第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用
ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ
算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲
シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大
小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ
地方習慣上ノ賃錢ハ市町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當該地

方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ
市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スル
コトヲ得

第八條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請
求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ
之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

第九條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算
定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコト
ヲ得

第二章 漂流物及沈没品

第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市長村長トハ拾得
地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ
其後最初ニ到着シタル地ノ市町村長ヲ謂フ

第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ
物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其他市町村
長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及
場所ヲ明示スヘシ

第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有
者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自
己ノ權利ヲ市町村長ニ證明スヘシ

水難救護法取扱手續

(明治三十二年七月)
逓信省訓令第六號

改正 大正五年十月
逓信省訓令第三號

第三章 公賣

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、
第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入
札ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第十四條 市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事
項ヲ公告スヘシ

- 一 物件ノ種類、數量及品質
- 二 公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ
爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立
會フコトヲ得

附 則

第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス

第十七條 明治九年(十二月)第百十七號達ハ本則施行ノ
日ヨリ廢止ス

水難救護法取扱手續

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ招集、物件ノ徵用
其他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル
程度ヲ限トシ救護費用ノ増加セサル様注意スヘシ

第二條 救護ハ人命ヲ先ニシ逐次郵便物、船内書類其他ノ
物件ニ及ホスヘシ

第三條 市町村長ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危
險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ

第四條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スルモノナルトキハ市町
村長ハ事件ヲ認知シタル後遲滞ナク地方長官ニ左ノ事項
ヲ通知スヘシ

一 船舶ノ國籍及名稱
二 遭難ノ事由、場所及年月日
第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間

ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者ニ於テ其金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第六條 救護ヲ爲シタル市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ

一 遭難船舶ノ種類、名稱及積量並ニ外國ノ船舶ナルトキハ其國籍

二 船舶港

三 船舶所有者ノ住所、氏名若クハ名稱

四 船長ノ氏名並ニ海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其種類及番號

五 遭難ノ事由、年月日時及場所

六 救護ノ狀況

七 救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類、時間、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額及市町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ掲ケタル者アルトキハ其事項

八 徵用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若クハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額、

市町村長ノ定メタル救護費用

九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ住所氏名

十 救上ケタル物件ノ種類及數量

十一 公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金

十二 物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第八條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サントスルモ船長、船舶所有者又ハ其代理人內國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ地方長官ニ申立ツヘシ

地方長官ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ

第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金銭又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシムヘシ

第十條 市町村長救護費用ヲ支辨セントスルトキハ之ヲ領

收スヘキ者ヲ呼出シテ其金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ送付スヘシ

第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

第十二條 市町村長ハ救護事務終了シタルトキハ一箇月以內ニ救護始末書ノ謄本ヲ當該地方長官ニ差出スヘシ

第十二條ノ二 市町村長水難救護法第九條第一項ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十

四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ其ノ種類、數量及荷主、船長船舶所有者等分明ナル場合ニ在リテハ其ノ住所並ニ氏名ヲ直ニ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ通知スヘシ

第二章 漂流物及沈沒品

第十三條 市町村長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈沒品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得ノ日時、場所並ニ物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ

第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈沒品ノ件名書ヲ作り之

水難救護法取扱手續

ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 物件ノ名稱、數量、品質其他必要ナル表示

二 拾得ノ日時及場所

三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時

四 拾得者ノ住所、氏名

五 公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日

六 物件ノ評價額

七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用

八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額

九 所有者ノ住所、氏名

十 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ取得額又ハ補給金額

第十五條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其氏名ノ項ニ何年何月何日引渡ト附記シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ

第十六條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受クヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈沒品計算書ヲ調製シ地方長官ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一 物件ノ名稱、數量及品質
 二 公賣代金
 三 公告、保管及公賣ノ費用
 四 殘餘又ハ不足ノ金額

第十七條 市町村長ハ毎年一回附錄第一號書式ニ從ヒ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ地方官廳ニ差出スヘシ

地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル件數表ヲ統計シ同一ノ書式ニ依リテ更ニ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ其年六月三十日マテニ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル救護始末書ノ謄本ニ依リ毎年一回附錄第二號書式ニ從ヒ遭難船舶取扱表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

補則

第十八條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其種類並ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場所並ニ期日ヲ稅關官吏ニ稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未済ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ

第十九條

市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ其ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ告知セントスル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十條第一項ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ公賣シ又ハ之ニ關シ告知スルコトナク左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一 水難救護法第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ公賣セントスル場合ニ於テハ葉煙草ニ在リテハ之ヲ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ、其他ノ物件ニ在リテハ之ヲ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ有償ニテ引渡シ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フコト

二 水難救護法第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ告知又ハ公賣セントスル場合ニ於テハ該物件ヲ無償ニテ前號ノ例ニ準シ引渡スコト

第二十條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣セントスル場合ニ於テ該物件政府ノ證券アル製造煙草ナルトキハ之ヲ公賣スルコトナク第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ場合ニ在リテハ有償ニテ、第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ在リテハ無償ニテ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ引渡ス

ヘシ
 前項ノ規定ニ依リ有償ニテ物件ヲ引渡シタルトキハ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フヘシ

第二十一條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該

(第一號書式)

漂流物沈没品件數表 (何年分)

種	類	取扱物件			物件ノ價格			所有者ニ引渡シタル件數	拾得者ニ引渡シタル件數
		前年ノ越高	本年ノ受高	翌年ノ越高	前年ノ越高	本年ノ受高	翌年ノ越高		
漂流物									
沈没品									
	合計								

當シ且同法ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ第十九條第一號ノ例ニ準シ無償ニテ引渡スヘシ

第二十二條 前三條ノ規定ニ依リ物件ヲ專賣官署ニ引渡ス爲メニ要スル運搬費ハ該官署ニ於テ之ヲ負擔ス

水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ニ依リテ公賣シタル件數

拾得者ニ支給シタル分一金額	
公告、保管、評價及取除公賣費用	
國庫ノ取得ト爲リタル金額	
國庫ヨリ支給シタル金額	

(第二號様式)

遭難船舶救護取扱表 (何年分)

汽 噸 數 帆 船	被救護船數	救護費	公賣代金	國庫補給金
計				
石 數 帆 船				

備考

救護費トハ水難救護法第十三條ニ規定スル費用ヲ謂フ

朝鮮水難救護令

(大正三年四月) 制令第十二號

改正 大正十五年六月 制令第九號

第一條 水難救護ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外水難救護法ニ依ル但シ同法中市町村長トアルハ鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關シテハ朝鮮總督府營林署長、其ノ他ニ關シテハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二條 面長ハ救護ノ事務ニ關シ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ助ケ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第三條 鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬其ノ所有者ノ納付スル金額及其ノ所有者引渡ヲ請求セサル場合又ハ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタル場合ニ於ケル材木ノ所有權ノ歸屬ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水難救護令(朝鮮)・朝鮮水難救護令施行規則(朝鮮)

朝鮮水難救護令施行規則

(大正三年五月) 朝鮮總督府令第八十三號

改正 大正十五年六月 朝鮮總督府令第五十號

第一章 遭難船舶

第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類及名稱
- 二 總噸數又ハ積石數
- 三 船籍港
- 四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
- 五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
- 六 遭難及救護ノ顛末
- 七 船舶ノ損害
- 八 死傷者ノ氏名
- 九 滅失又ハ毀損シタル積荷ノ種類、重量又ハ容積、其ノ荷造ノ種類、箇數、記號及備船者又ハ荷送人ノ氏名若ハ名稱

第二條 船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ

第三條 船長船難報告書ニ認證ヲ受ケムトスルトキハ該報告書ニ通ヲ提出スヘシ

第四條 警察署長(其ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下同シ)船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ其ノ一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ之ヲ保存スヘシ

第五條 警察署長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滞ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其ノ金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條 警察署長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大

自己ノ權利ヲ營林署長又ハ警察署長ニ疏明スヘシ

第三章 公賣

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十四條 營林署長又ハ警察署長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 物件ノ種類、數量及品質
二 公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル
第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附 則

本令ハ朝鮮水難救護令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

地方習慣上ノ賃錢ハ警察署長ニ於テ豫メ之ヲ定メ警務部長ノ認可ヲ受ケ其ノ金額ヲ定率ト爲スヘシ

第八條 海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セムトスルトキハ警察署長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其ノ艦長又ハ船長ニ提出スヘシ

第九條 船長、船舶所有者其ノ他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ警察署長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章 漂流物及沈没品

第十條 漂流物又ハ沈没品ハ之ヲ拾得シタル地ヲ管轄スル營林署長又ハ警察署長ニ引渡シ航海中拾得シタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到着シタル地ノ營林署長又ハ警察署長ニ引渡スヘシ

第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其ノ他營林署長又ハ警察署長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其ノ物件ニ對スル

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材
木ニ關スル件

(大正七年六月) (朝鮮總督府令第六十八號)

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬ハ其ノ價格ノ百分ノ十五、其ノ所有者ノ納付スル金額ハ其ノ價格ノ百分ノ二十五トス

前項ノ漂流材木ハ水難救護法第二十五條第二項ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一年內ニ返還ノ請求ナキトキ又ハ返還ノ請求ヲ爲ササル意思ヲ表示シタルトキハ國庫ニ歸屬ス但シ特別ノ協定アル場合ニ於テハ其ノ協定ニ依ル

附 則

本令ハ大正七年制令第十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正七年七月一日ヨリ施行)

水難救護法ノ施行細則ニ 關スル件

(大正十二年一月
臺灣總督府令第七號)

明治三十二年法律第九十五號水難救護法ノ施行細則ハ明治三十二年逡信省令第三十五號水難救護法施行細則ニ依ル但シ同規則中市町村長トアルハ市尹街庄長又ハ區長トス

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年府令第二十七號臺灣水難救護規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第六輯 港 灣

第一章 開港及港灣取締

開港港則

(明治三十一年七月
勅令第三百三十九號)

改正 昭和十五年六月
勅令第四百九號

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

橫濱ノ港界ハ十二天鼻ヨリ北四十六度東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以內
神戸ノ港界ハ蘆屋川口ヨリ南四十二度三十分西ニ引キタル一線及妙法寺川口ヨリ南八十七度東ニ引キタル一線以內
新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル

開港港則

圓圈ノ一弧內ニ含マル

夷港ノ港界ハ稚泊村ヨリ北五十里村外堺マデ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マデ引キタル一線トノ內ニ含マル

大阪ノ港界ハ神崎川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積內

長崎ノ港界ハ小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾島長刀崎ニ引キタル一線ト蔭ノ尾島三角點(一五四呎)ヨリ西南ニ向ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ崎ニ引キタル一線以內

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海里ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マデ引キタル一線內ニ含マル

清水ノ港界ハ眞崎ヨリ正北ニ引キタル一線以內

武豊ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内
 名古屋ノ港界ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑
 ヲ有スル圓圈ノ一弧内
 四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有ス
 ル圓圈ノ一弧内
 宇野ノ港界ハ高邊岬(高邊山三角點ヨリ南三十度東)ヨ
 リ下鳥島ノ西端及飛洲ヲ經テ蛸崎(五一米三角點ヨリ正
 東)ニ引キタル一線以内
 尾道糸崎ノ港界ハ大吠山ノ山頂ヨリ岩子島三角點(三九
 ○呎)ニ引キタル一線、岩子島鷄小島ヨリ向島布刈鼻ニ
 引キタル一線、向島大磯鼻ヨリ戸崎ニ引キタル一線及向
 島松ヶ鼻ヲ中心トシテ八鏈ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以
 内
 今治ノ港界ハ蒼社川口ノ東岸ヨリ正北ニ引キタル一線ト
 大濱燈臺ヨリ南六十度東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界
 トナシタル面積内
 高知ノ港界ハ龍頭崎燈臺ヨリ正東一海里ニ引キタル一線
 及該線ノ東端ヨリ正北ニ引キタル一線以内
 宇部ノ港界ハ宇部岬ヨリ南八十度西ニ引キタル一線及本
 山鼻ヨリ南七十度東ニ引キタル一線以内

萩ノ港界ハ大瀬鼻ヨリ笠山ノ山頂ニ引キタル一線以内
 關門ノ港界ハ高ヶ巢山ノ山頂ヨリ北四十度西ニ引キタル
 一線、彦島金刀比羅山ノ山頂ヨリ若松ノ港界迄正西ニ引
 キタル一線及彦島關門以内
 若松ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓
 圈ノ一弧内
 博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ溝切ニ引キタル一線及小戸
 鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内
 唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同
 島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界
 トナシタル面積内
 住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタ
 ル一線以内
 口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間崎
 ヲリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル
 面積内
 三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ
 有スル圓圈ノ一弧内
 三角ノ港界ハ瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島コンビラ鼻マテ際崎
 ノ鼻ヨリ戸馳島野崎マテ同島鬼鼻ヨリ千束島六四郎鼻マ

テ夫ヨリ大矢野島塔ヶ崎マデ引キタル四線以内
 鹿兒島ノ港界ハ一丁臺場南端ノ燈臺ヲ中心トシテ一海里
 ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
 嚴島ノ港界ハ虎崎ヨリ耶良崎(一名寢釋迦鼻)ニ引キタ
 ル一線以内
 那覇ノ港界ハ先原崎ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線及
 安里川口ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線以内
 濱田ノ港界ハ黒崎ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島
 ノ北端(千疊敷鼻)ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内
 境ノ港界ハ境港燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有ス
 ル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線
 以東
 宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置崎ニ引キタル一線以内
 敦賀ノ港界ハ赤崎ヨリ蛭子崎ニ引キタル一線以内
 七尾ノ港界ハ能登島松ヶ崎ヨリ南東ニ引キタル一線以西
 及屏風崎峽以東
 伏木東岩瀬ノ港界ハ岩崎三角點(六一米)ヨリ南七十八
 度三十分東ニ引キタル一線及大村三角點(六・八米)ヨ
 リ正北ニ引キタル一線以内
 船川ノ港界ハ生鼻崎ヨリ正南ニ引キタル一線ト南平澤ノ

南東角ヨリ正東ニ引キタル線トノ二線ヲ經界トナシタル
 面積内
 青森ノ港界ハ鼻線岬ヨリ正西ニ引キタル一線以内
 八戸ノ港界ハ日出岩(三・三米)ヨリ正西ニ引キタル一
 線及同岩ヨリ正南ニ引キタル一線以内
 釜石ノ港界ハ鷲ノ巢崎ヨリ鎌ヶ崎ニ引キタル一線以内
 鹽釜ノ港界ハ花淵崎ヨリ唐戸島ノ南端ニ引キタル一線及
 唐戸島三角點(三六米)ヨリ寒風澤島長濱天測點ヲ經テ
 腕崎ニ引キタル一線以内
 小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリカヤシ岬ニ引キタル一線以内
 留萌ノ港界ハ留萌崎(留萌港南防波堤燈臺ヨリ南三度西
 千三百五十米)ヨリ北三十度西一海里半ニ引キタル一線
 及該線ノ北端ヨリ北六十度東ニ引キタル一線以内
 根室ノ港界ハ辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有
 スル圓圈ノ一弧内
 釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及
 該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東
 室蘭ノ港界ハエンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ
 引キタル一線以内
 大泊ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル

圓圈ノ一弧内

眞岡ノ港界ハ導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲グベシ港ヲ通過スル船舶ガ港界内ニ入ラントスルトキ亦同ジ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後又ハ港ヲ通過スル船舶ガ港界外ニ出タル後ニアラザレバ之ヲ引下スベカラズ

著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スベシ但シ著港届ヲ差出シタル後ニアラザレバ如何ナル船舶タリトモ税關手續ノ便利ヲ與ヘザルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマデハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムベシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スベシ而シテ各船舶ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊

積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツベシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前橋ノ頂上ニ掲グベシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラザレバ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スベカラズ

港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第十條 休繋中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」、倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スベシ

第十一條 船舶ガ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマデ船鐘ヲ打鳴スベシ且ツ日出ト日没ノ間ニハNQノ信號ヲ掲グ日没ト日出ノ間ニハ斷ヘズ紅燈ヲ上下スベシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハSTノ信號ヲ掲グ日没ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スベシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニア

船所ヲ去ルベカラズ但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ掲グベシ

港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮ガ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ検査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障礙スベカラズ

「ヂブ、ブームス」ヲ接ギ出シタル船舶ニシテ其「ヂブブームス」ガ航海ノ自由ヲ障礙スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムベシ

第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲グベシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ掲ゲタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スベシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムベシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物料ヲ

ラザレバ港界内ニ於テ銃砲及烟火等ヲ發スルコトヲ得ズ

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病(虎列刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類)ノアル地ト布

告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日没ノ間ニハ黃旗ヲ日没ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前橋ノ頂上ニ掲グベシ又

前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄りタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スベシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマデ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スベカラズ且ツ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サズ

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキハ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スベシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シ

タル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サズ

第十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スベカラズ

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防グ爲メ必要ノ豫防ヲ爲スベシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セバ該船舶ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ取除カザルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

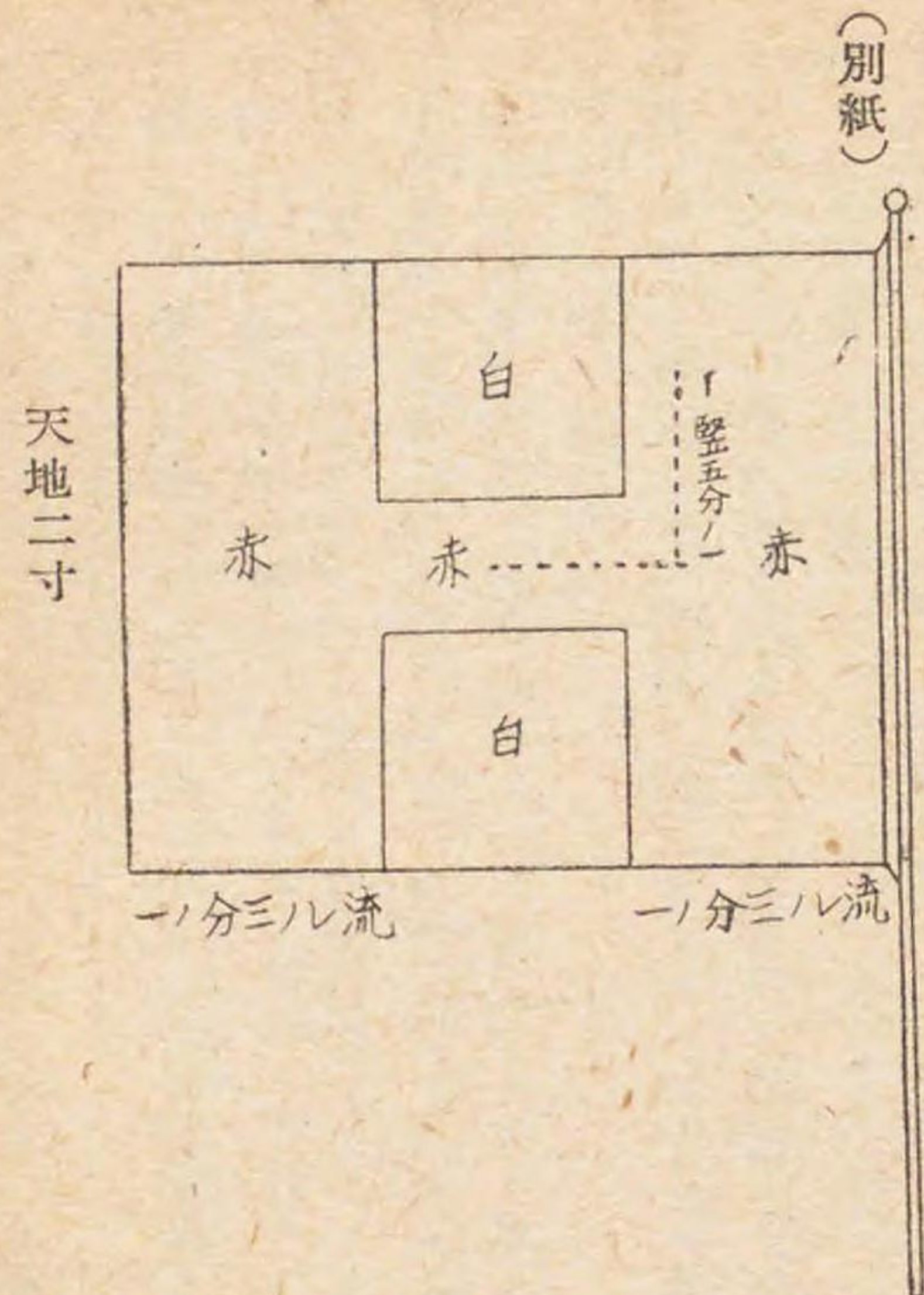
第十四條 船舶出港セムトスルトキハ其旨〔港務局〕ニ届出デ且ツ出帆旗ヲ引揚グベシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルベキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セザルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壊セシムルコトヲ得

除ケ置クベシ
第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラレベキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス



開港港則・開港港則施行規則

第十六條 〔港務局〕ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムベシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱、其他ノ船具ヲ繫グベカラズ

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スベシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ満足スベキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラザレバ其船舶ノ出港ヲ許サズ

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含ス船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハズ船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取

開港港則施行規則

〔昭和二年四月〕
遞信省令第七號

改正 昭和十六年三月
遞信省令第三十五號

第一章 錨地

第一條 開港港則ヲ施行スル港ニ於ケル船舶ノ錨地ハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ於テ港長之ヲ指定ス

港長港内ノ實況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ區域ニ拘ラズ錨地ヲ指定スルコトヲ得

第二條 入港船舶ハ左ノ各號ニ定ムル場所ニ於テ港長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クベシ但シ豫メ港長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 橫濱ニ在リテハ本牧挂燈浮標ノ内方

二 神戸ニ在リテハ和田岬檢疫所附近但シ大阪方面ヨリ入港スルモノハ同檢疫所附近又ハ第五突堤信號所附近

三 大阪ニ在リテハ港界線附近

四 長崎ニ在リテハ女神外

五 關門ニ在リテハ下關海峽西口ヨリ入港スルモノハ六

連島燈臺附近、同東口ヨリ入港スルモノハ部埼燈臺附近
若松方面ヨリ入港スルモノハ港界線附近

前項ニ掲グル錨地ノ指定ハ特定信號(無線電信又ハ無線
電話ヲ含ム)ニ依リ之ヲ爲スコトアルベシ

第二條ノ二 前條及第三十一條ノ四ニ掲グル特定信號及之
ヲ行フベキ場所ハ之ヲ告示ス

第三條 錨地ノ指定ヲ受クベキ船舶日没後到着シタルトキ
ハ日出迄第二條第一項各號ニ掲グル場所ニ於テ假泊スベ
シ但シ定期郵便船其ノ他ノ船舶ニシテ港長ノ許可ヲ受ケ
タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 港長ノ指定シタル錨地ヲ變更セムトスルトキハ豫
メ港長ノ許可ヲ受クベシ但シ風波、災害其ノ他已ムヲ得
ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ港長ノ許可ヲ受ケズシテ錨地ヲ變
更シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由及錨地ヲ港長ニ届出ヅ
ベシ

第五條 總噸數八百噸未満ノ内地各港間ノミヲ航行スル船
舶ニシテ開港港則第九條第一項若ハ第十二條第一項ニ該
當セザルモノハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ碇泊スル
場合ニ限り第二條ノ指定ヲ受クルコトヲ要セズ

雜種船ハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ碇泊スベシ

第六條 總噸數五百噸以上ノ船舶錨泊スルトキハ港長ノ許
可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外雙錨泊ヲ爲スベシ但シ横濱
神戸及大阪ノ防波堤外又ハ長崎ノ女神外ニ錨泊スルモノ
ハ此ノ限ニ在ラズ

港長必要アリト認ムルトキハ總噸數五百噸未満ノ船舶ト
雖雙錨泊ヲ命ズルコトヲ得前項但書ノ船舶ニ付亦同ジ

第七條 繫船浮標ヲ使用セムトスル船舶ハ港長ノ許可ヲ受
クベシ

前項ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ繫船浮標使用料ヲ納入スベ
シ

第二章 航 路

第八條 船舶ハ別表第二號表ノ定ムル航路及特定條件ニ從
ヒ出入又ハ通過スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキ又
ハ雜種船ニシテ別表第二號表ノ定ムル場合ニ該當セザル
トキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 航路内ニ於テハ左ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已
ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 投錨スルコト

二 被曳船ヲ放ツコト
三 其ノ他船舶航行ノ妨害トナルコト

第三章 航 法

第十條 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船
ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避クベシ

第十一條 汽船ハ港界内及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ
及ボサザル程度ニ速力ヲ減ジテ航行スベシ

帆船ハ港界内ニ於テハ帆ヲ減ジ又ハ曳船ヲ用キテ航行ス
ベシ横濱、神戸及大阪ノ各港ニ在リテハ航路内、關門港
ニ在リテハ港區内及早瀬瀬戸、長崎港ニ在リテハ航路内
及女神内ニ於テハ縫航スベカラズ

第十二條 船舶ハ並列シテ航行スベカラズ

第十三條 航路ヲ横切ラムトスル船舶ハ航路ヲ航行スル他
船ノ進路ヲ避クベシ

航路ニ於テ行進ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スベ
シ但シ早瀬瀬戸ニ在リテハ内海水道航行規則第八條第一
項第二號ノ規定ニ依ル

船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スベカラズ但シ關門港ノ航
路ニ在リテハ内海水道航行規則第三條ノ規定ニ依ル

第十三條ノ二 神戸港ニ於テ第一航路ヲ航行スル汽船ト第
開港港則施行規則

三航路ヲ航行スル汽船出會ノ虞アルトキハ第三航路ヲ航
行スル汽船ハ第一航路ヲ航行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

第十四條 雜種船ハ汽船及帆船ノ進路ヲ避クベシ

第十五條 船舶ハ防波堤、埠頭又ハ繫泊船等ノ一端ヲ右舷
ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄り左舷ニ見テ通航スルト
キハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ

第十六條 本章ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法ニ關シテハ海
上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 第四章 爆發物及危險物

第十八條 開港港則第九條ニ掲グル爆發物及容易ニ燃燒ス
ベキ物件ノ種類ハ別表第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 爆發質ノ物件ニ付テハ船舶ニ備付ケタル大砲一
門毎ニ火藥五十發分門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ
火藥百發分門管百五十箇並信號用ノ榴彈、火箭、焰管及
救命焰ハ之ヲ常用ト看做ス容易ニ燃燒スベキ物件ニシテ
船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノ亦同ジ

第二十條 常用ニ超過シタル爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ
物件ヲ積卸又ハ運搬セムトスル船舶ハ豫メ港長ノ許可ヲ
受クベシ

前項ニ掲グル物件ヲ積載シタル船舶ハ港長ノ指定シタル

場所ニ非ザレバ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ但シ容易ニ
燃焼スベキ物件ヲ積載シタルモノニシテ碇泊ノ期間及場
所並積荷ノ種類及數量ヲ具シ港長ノ許可ヲ受ケタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ニ掲グル物件ヲ積載シタル船舶ハ晝間ハ赤旗ヲ、
夜間ハ紅燈一箇ヲ舷線上見易キ場所ニ掲揚スベシ

第五章 届出 手續

第二十條 開港港則第二條第三項ニ規定スル着港届ハ第一
號書式ニ、同第十四條第一項ニ規定スル出港届ハ第二號
書式ニ、同條第二項ニ規定スル着發届ハ第三號書式ニ依
リ港長ニ差出スベシ

第二十一條 出港シタル船舶避難、修繕其ノ他事故ノ爲出
港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタ
ル届書ヲ港長ニ差出シ着港届ニ代フルコトヲ得

第二十二條 船舶ヲ修繕又ハ休業セムトスルトキハ豫メ其
ノ旨港長ニ届出ツベシ

前項ノ届出アリタル場合ニ於テ港長必要アリト認ムルト
キハ當該船舶ノ修繕又ハ休業中相當船員ノ乗組ヲ命ズル
コトアルベシ

第二十三條 船舶ヲ進水又ハ船渠ニ出入セシメムトスルト

キハ豫メ其ノ旨港長ニ届出ツベシ

第二十四條 開港港則第十二條第六項ニ掲グル船舶入港シ
タルトキ又ハ碇泊中ノ船舶ニ同條第一項ニ掲グル傳染病
ノ疑若ハ家畜傳染病ノ疑アルモノノ發生シタルトキハ直ニ
其ノ旨港長ニ届出ツベシ

第二十五條 港界内又ハ港界附近ニ於テ難破又ハ沈没等ノ
事故發生シタルトキハ直ニ其ノ旨港長ニ届出ツベシ之ヲ
發見シタルトキ亦同ジ

第二十六條 國籍證書ヲ受有スルコトヲ要セザル船舶、平
水區域ノミヲ航行スル船舶及内地ニ於ケル一定ノ港ヲ定
期ニ航行スルモノニシテ豫メ港長ノ許可ヲ受ケタル船舶
ハ第二十條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條 本章ニ規定スル届出ハ特ニ定ムル場合ヲ除ク
ノ外船長又ハ船舶所有者之ヲ爲スベシ

第六章 雜則

第二十八條 雜種船、筏等ハ濫リニ之ヲ繫船浮標、船舶ノ
船尾若ハ船側ニ繫留セシメ又ハ船舶航行ノ妨害トナルベ
キ場所ニ碇泊若ハ停留セシムベカラズ

第二十九條 船舶他ノ船舶、筏等ヲ曳航スルトキハ左ノ制
限ヲ超ユベカラズ但シ港長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ

限ニ在ラズ

一 總噸數三百噸以上ノ船舶ヲ曳クトキハ一艘、總噸數
百噸以上三百噸未満ノ船舶ヲ曳クトキハ二艘、總噸數
百噸未満ノ船舶ヲ曳クトキハ三艘

二 雜種船ヲ曳クトキハ神戸及大阪ノ防波堤内ニ於テハ
八艘(五艘以上ヲ曳クトキハ二縱列ト爲スベシ)横濱
防波堤内及長崎女神内ニ於テハ五艘、關門ニ於テハ港
區内ハ四艘航路内ハ八艘(曳船ノ船首ヨリ最後被曳船
ノ船尾迄長三百米ニ達スル迄ハ八艘ヲ超ユルコトヲ
得

三 被曳船ヲ並列シテ曳クトキハ二縱列

四 筏等ヲ曳クトキハ曳船ノ船首ヨリ被曳物件ノ後端ニ
至ル迄長百二十米

曳船ト被曳船及被曳船相互間ノ曳索ノ長ハ航行ニ支障ナ
キ程度ニ止メ濫リニ延長スベカラズ筏等ノ場合ニ付亦同
ジ

第三十條 船舶ハ濫リニ左ニ掲グル場所ニ碇泊又ハ停留ス
ベカラズ

一 埠頭、棧橋、運河、船溜ノ入口又ハ船渠ノ附近
二 關門港柁ヶ鼻低立標ヨリ二百二十二度二百七十五米

開港港則施行規則

ノ地點ニ引キタル線、同地點ヨリ門司區境界線迄零度

ニ引キタル線及其ノ線ノ北端ヨリ門司埼燈標ニ引キタ
ル線内ノ水域並小森江發着信號竿ヨリ門司區境界線迄
三百三十二度ニ引キタル線、白木埼防波堤燈臺ヨリ百
五十八度ニ引キタル線、同燈臺ヨリ門司區境界線迄三
百三十八度ニ引キタル線及門司區境界線内ノ水域

第三十一條 大阪港櫻島棧橋ニ繫留又ハ解纜セムトスル船
舶アルトキハ同棧橋ノ信號柱ニ國際信號H Rヲ掲揚ス此
ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ其ノ前橋頭ニ直徑約六十糎ノ
黒球一箇ヲ掲揚スベシ

前項ノ船舶ニ對シテハ他ノ船舶ハ成ルベク其ノ進路ヲ避
クベシ

第三十一條ノ二 (削除)

第三十一條ノ三 神戸港第四及第五航路ニ依リ殆ド同時ニ
出港スル船舶(共ニ總噸數約百噸以上ノ船舶ナル場合ニ
限ル)アルトキハ川崎鼻見張所信號柱ニ晝間ニ在リテハ
國際信號旗B二旗ヲ連掲シ夜間ニ在リテハ綠燈三箇ヲ縱
ニ一米ツツヲ隔テテ連掲ス此ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ
川崎鼻ニ於テ出會ノ危險ヲ避クル爲其ノ運航ニ注意スベ
シ

第三十一條ノ四 神戸ニ入港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ其ノ錨地ノ指定ヲ受ケタル時ヨリ(第二條但書ノ規定ニ依リ錨地ノ指定ヲ受ケザル場合ニ在リテハ港界線附近ニ來リタル時ヨリ)錨地ニ繫留シ終ル迄特定信號中ノ錨地表示信號ヲ爲スベシ錨地ヲ變更スルトキ之ニ準ズ

第三十一條ノ五 横濱ニ入港スル船舶ニシテ錨地ノ指定ヲ受ケタルモノハ港界線附近ニ來タリタル時ヨリ錨地ニ繫留シ終ル迄別ニ告示スル所ニ依リ信號ヲ爲スベシ

第三十二條 關門ヲ出港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ其ノ前橋又ハ見易キ場所ニ左ノ信號旗ヲ掲揚スベシ

一 下關海峽東口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニE

二 下關海峽西口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニW

第三十二條ノ二 神戸ヲ出港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ拔錨ノ時ヨリ防波堤入口ヲ通過シ終ル迄左ノ信號ヲ爲スベシ

錨地ヲ變更スルトキ亦同ジ

一 第一航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗1

二 第二航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗2

三 第三航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗3

前項ノ規定ニ依リ信號ヲ爲シタル後已ムヲ得ザル事由ニ因リ通過セムトスル防波堤入口ヲ變更シタルトキハ直ニ信號ヲ變更スベシ

第三十三條 早瀬瀬戸ヲ西行セムトスル汽船ハ前田川口ニ竝ビタル時ヨリ又同瀬戸ヲ東行セムトスル汽船ハ柁ヶ鼻ニ竝ビタル時ヨリ執レモ門司崎ヲ通過スル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ長聲三發ヲ隨時吹鳴スベシ

第三十四條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スベカラズ

第三十五條 船舶ニ搭載セル竹木材ヲ水上ニ卸サムトスルトキ又ハ筏等ヲ繫留若ハ運行セムトスルトキハ港長ノ許可ヲ受クベシ

第三十六條 灰燼、塵芥、動物ノ死體等ヲ處置セムトスルトキハ港長ノ承認シタル塵船ヲ使用スベシ

塵船ヲ使用セムトスル船舶ハ國際信號F Tヲ掲揚スベシ

第三十七條 船舶ノ碇泊又ハ航行ノ妨害トナルベキ場所ニ

於テ魚撈ヲ爲スベカラズ

第三十八條 港長ハ期間及區域ヲ限リ船舶ノ航行ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ期間及區域ハ之ヲ告示ス

第三十八條ノ二 港長必要アリト認ムルトキハ船舶ニ對シ水先人ヲ乗込マシムベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十九條 港界内及港界附近ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルベキ總テノ難破物又ハ沈没物等ハ之ヲ除去スル迄其ノ所有者ニ於テ危險豫防ノ爲必要ノ措置ヲ爲スベシ

第四十條 港界内ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルベキ作業ヲ爲サムトスル者ハ豫メ港長ノ許可ヲ受クベシ港界内及港界附近ニ於テ難破物又ハ沈没物等ヲ引揚ゲムトスル者亦同ジ

第四十一條 船舶ハ港界内及港界附近ニ於テ他船ノ運行ノ妨害トナルベキ探照燈其ノ他類似ノ燈火ヲ濫ニ使用スベカラズ

第四十二條 特設信號ヲ使用セムトスル者ハ港長ノ許可ヲ受クベシ

第四十三條 信號符字ヲ有スル船舶ハ航行中ノ掲揚スベシ但シ雜種船ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 船舶ハ夜間航行中絶エズ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ掲揚スベシ

第四十五條 本令ニ於テ雜種船ト稱スルハ汽艇、舢舨、舢舨、舢舨及櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ノミヲ以テ運轉スル舟ヲ謂フ

第四十六條 本令第一條、第二條、第四條、第五條、第八條乃至第十六條、第二十四條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ軍艦ニ適用ス

第四十七條 報時信號及氣象信號ノ方法ハ之ヲ告示ス

第四十八條 本令ノ規定ハ船舶ニ類似セル形體ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス

第七章 罰 則

第四十九條 第二條、第十九條第一項及第二項、第二十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條、第五條第二項、第七條第一項、第八條、第九條、第十九條第三項、第二十二條第一項、第二十三條、第二十八條乃至第三十條、第三十五條、第三十七條、第四十條及第四十四條ノ規定ニ違反シタル者第二十五條ニ規定セル事項ヲ發生セシメ之ヲ届出デザル者及第三十八條ノ規定ニ依リ港長ノ禁止シタル區域内ヲ航行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十條 前條ノ規定ニ該當スル者法人ナル場合ニ於テハ

其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スベキ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年遞信省令第十六號開港港則施行細則、明治四十一年神奈川縣令第五十五號橫濱港規程、明治四十一年兵

(別表) 第一號表 (各港港區表)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (昭和一六、三、遞令三五)

港ノ名稱	港 區				境 界	碇泊スベキ船舶ノ種別
	第一區	第二區	第三區	第四區		
神 戶	北防波堤及東防波堤内ノ水域	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	沿ヒ見立地先防波堤及防波堤並同防波堤ニ沿ヒ港界線迄引キタル線内ノ水域	汽船、總噸數五百噸未満ノ帆船及雜種船舶 シ雜種船舶ハ沿岸附近ニ限ル	
横 濱	北防波堤及東防波堤内ノ水域	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	沿ヒ見立地先防波堤及防波堤並同防波堤ニ沿ヒ港界線迄引キタル線内ノ水域	汽船、總噸數五百噸以上ノ帆船及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶 汽船、帆船、雜種船舶及容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶	
神 戶	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線及第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線内ニ於テ第一區及第二區外ノ水域	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線及第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線内ニ於テ第一區及第二區外ノ水域	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線及第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線内ニ於テ第一區及第二區外ノ水域	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線及第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線内ニ於テ第一區及第二區外ノ水域	汽船、帆船及雜種船舶但シ雜種船舶ハ沿岸附近ニ限ル	
神 戶	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十度ニ於テ百六十一度及三百四十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十度ニ於テ百六十一度及三百四十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十度ニ於テ百六十一度及三百四十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十度ニ於テ百六十一度及三百四十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	汽船但シ總噸數八百噸未満ノ汽船ハ大棧橋北側	
大 阪	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	各種船舶	
大 阪	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	軍艦及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶	
大 阪	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	汽船、總噸數五百噸未満ノ帆船及雜種船舶但シ總噸數八百噸未満ノ汽船ハ中島川口北端ヨリ稻佐崎ニ引キタル線以北又ハ總噸數五百噸未満ノ帆船及雜種船舶ハ沿岸附近ニ限ル	
長 崎	第一區	第二區	第三區	第四區	汽船、帆船及雜種船舶但シ總噸數五百噸未満ノ帆船及雜種船舶ハ沿岸附近ニ限ル	

第一號書式

船種
 船名
 國籍
 船籍港
 船所有者
 代理店
 總噸數
 登簿噸數
 最初發航地名及年月日
 最終發航地名及年月日
 着港日時
 船員數
 船客數
 當港下船客數
 當港揚荷ノ種類及數量
 噸稅有效期間
 右及屆出候也
 年 月 日

名(內職員 名)

港

屆

船長氏名

第二號書式

船種
 船名
 國籍
 最終仕向地
 最初仕向地
 當港乘船客數
 當港積荷ノ種類及數量
 一出港日時
 右及屆出候也
 年 月 日

出

港

屆

船長氏名

第三號書式

何稅關港務部宛
 船種
 船名
 國籍
 船籍港
 着發屆
 開港港則施行規則

着

發

屆

海事法令集

- 船舶所有者
- 代理店
- 總噸數
- 登簿噸數
- 最初發航地名及年月日
- 最終發航地名及年月日
- 最終仕向地
- 最初仕向地
- 着港日時
- 出港日時
- 船員數
- 當港下船客數
- 當港乘船客數
- 當港揚荷ノ種類及數量
- 當港積荷ノ種類及數量
- 噸稅有效期間
- 右及届出候也

名(内職員名)

船長氏名

何税關港務部宛

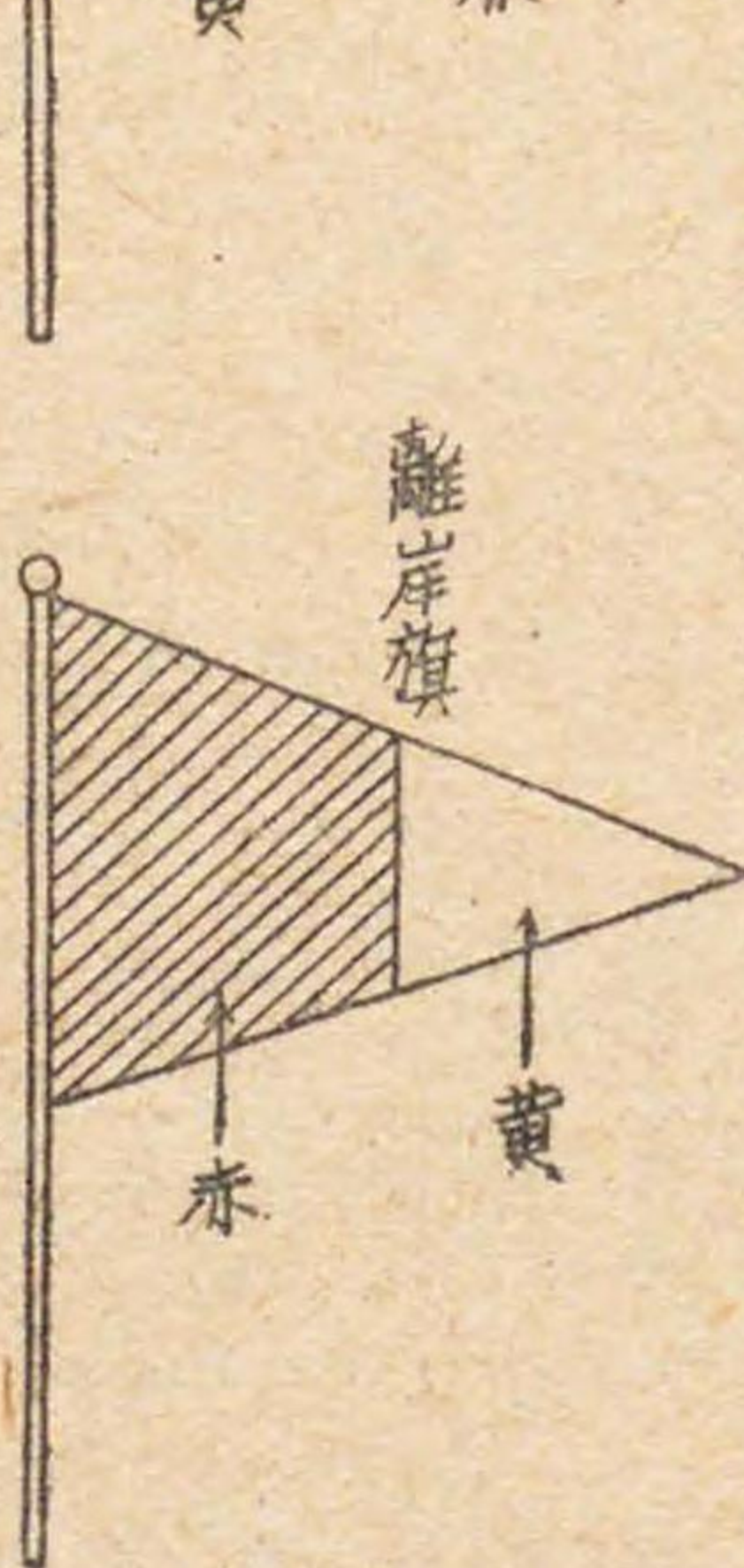
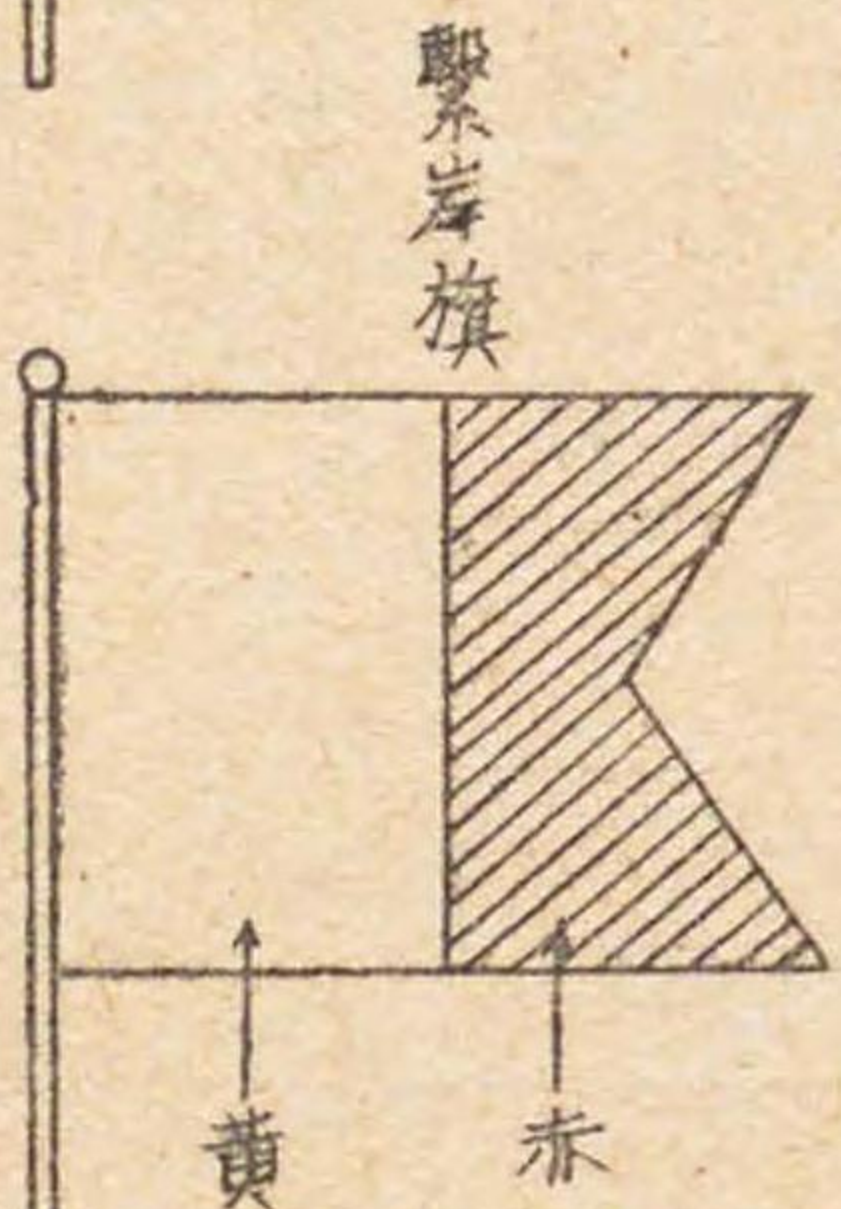
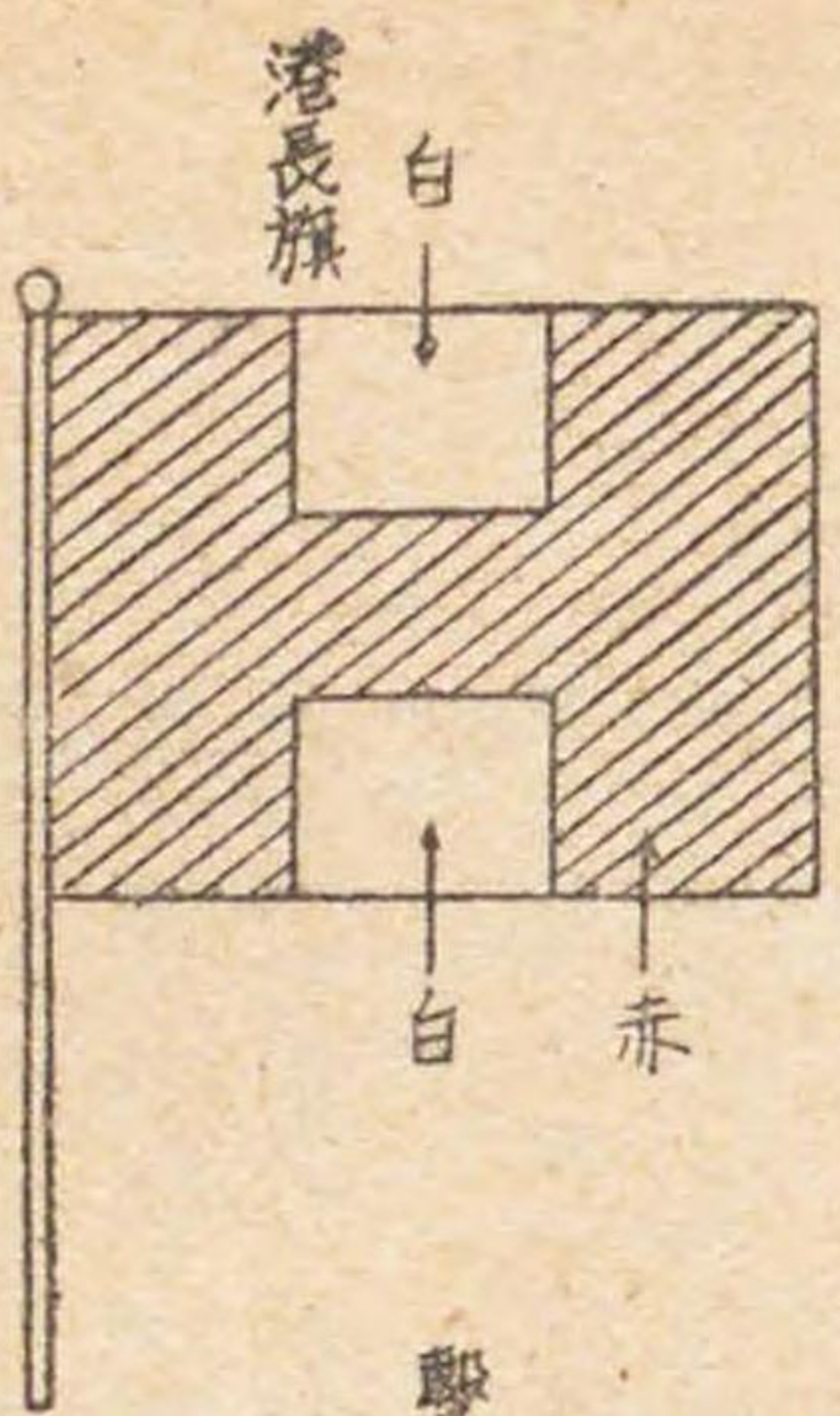
開港港則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所

昭和二十二年
 逓信省告示第九百三十七號
 改正 昭和十五年六月
 逓信省告示第六百五十六號

大阪ニ在リテハ北防波堤關門見張所但シ同所ニ於テ信號ヲ爲スコト能ハザルトキハ黑球一箇ヲ掲揚ス此ノ場合ニ在リテハ港務部廳舍屋上見張所
 長崎ニ在リテハ女神見張所
 關門ニ在リテハ六連島信號所、部埼信號所、大里信號所
 葛葉信號所、税關廳舍屋上及下關出張所廳舍屋上信號所

三 特定信號
 神戸港

(一) 旗旒信號(特定信號旗及國際信號旗ヲ連掲ス)
 (イ) 錨地指定並ニ錨地表示信號



二 特定信號ヲ行フベキ場所
 神戸ニ在リテハ和田岬檢疫所又ハ第五突堤信號所及川崎鼻見張所

錨地指定信號
 港長旗、A 第一區内ニ錨泊スベシ
 同、B 第二區内同

錨地表示信號
 回答旗、A
 同、B

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所 五〇五

一 浮標繫留信號

繫船浮標ニ指定スルトキハ港長旗ノ下ニ其ノ指定スベキ浮標番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連掲シテ之ヲ表示ス受信船舶ハ同一信號ヲ掲ゲテ應信スルモノトス但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ掲ゲ置クベシ

二 岸壁又ハ棧橋繫留信號

繫船岸壁又ハ棧橋ニ指定スルトキハ繫岸旗ノ下ニ其ノ指定スベキ岸壁番號又ハ棧橋番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連掲シテ之ヲ表示ス受信船舶ハ同一信號ヲ掲ゲテ應信スルモノトス但シ繫岸旗ノ代リニ國際信號旗Nヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ掲ゲ置クベシ

三 錨泊信號

港長旗ノ下ニ國際信號旗 A 第一區一番浮標ノ西方ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ B 第一區九番浮標ノ南西方ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ C 第一區南防波堤ニ沿ヒ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ

注 意

一 第一號繫船岸以南ノ岸壁ニ繫留セントスル船舶ハ同繫船岸信號所ノ信號ニ留意スベシ
二 中央突堤(舊大棧橋)以北ノ棧橋又ハ岸壁ニ繫留セントスル船舶ハ港務部監舎屋上見張所ノ信號ニ留意スベシ
同 D 第二區北寄りニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同 E 第二區南防波堤ニ沿ヒ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ
同 F 第四區西寄りニ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ
同 G 第五區ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同 H 第六區ニ錨泊スベシ
同 I 第一區ニ航路ヲ避ケテ假泊シ指定ヲ待ツベシ
同 J 外港ニ航路ヲ避ケテ假泊シ信號又ハ無線電信ニ依ル指定ヲ待ツベシ
同 K 無線電信ニ依リ港務部ト連絡シテ指定ヲ受クベシ
受信船舶ハ同一信號ヲ掲ゲテ應信スルモノトス但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ掲ゲ置クベシ

三 第一及第二號繫船岸ヨリ離岸セントスル船舶ニシテ離岸ノ準備全ク整ヒタルトキハ信號符字ヲ掲ゲテ長聲一發シ第一號繫船岸信號所ノ信號ニ留意スベシ

四 開港港則施行規則第五條ニ該當スル船舶及豫メ港長ノ許可ヲ受ケ錨地ノ指定ヲ要セザル船舶ハ港界附近ニ來リタルトキヨリ錨地ニ繫留シ終ル迄其ノ錨地ニ關シテ規定セラレタル應信信號ニ該當スル特定信號ヲ掲ゲベシ

五 浮標十八番乃至二十二番ニ繫留スル船舶ハ成ルベク船首ヲ西ニ向ケ其ノ首尾ヲ繫留スベシ

夜間 信號

第一號繫船岸以南ノ岸壁ニ繫留又ハ離岸セントスル船舶ニ對シテハ同繫船岸信號所信號柱ノ橫架ニ赤色及白色ノ燈四箇ヲ上下ニ約一米ヅツ隔テ、連掲ス其ノ信號竝ニ信文左ノ如シ

信 號	信 文
赤 白 赤	豫定繫岸船ハ直ニ豫定ノ位置ニ繫留スベシ
白 赤 赤 白	豫定離岸船ハ直ニ離岸スベシ
	但シ離岸信號ハ當分ノ間之ヲ行ハズ

長崎港 國際信號旗

港長旗ノ下ニ國際信號旗	A	第一號浮標ニ繫留スベシ
	B	第二號浮標 同
	C	第三號浮標 同
	D	第四號浮標 同
	E	第五號浮標 同
	F	第六號浮標 同
	G	第七號浮標 同
	H	第八號浮標 同
	I	第九號浮標 同
	J	太田尾一號浮標 同
	K	太田尾二號浮標 同
	L	西泊灣外浮標 同
	M	高鉾浮標 同
	N	西泊灣内繫索浮標
	O	第一區内内方ニ錨泊スベシ
	P	第二區戸町灣ニ航路ヲ避ケ錨泊スベシ

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所 五一一

報時球

- 一 報時球ハ時報柱ニ裝置シ球ハ中央ニ白色横線一條ヲ畫シテ赤色ニ橋ハ白色ニ塗裝ス
- 報時橋ノ位置(水路部刊行海圖ニ依ル)左ノ如シ
- 横濱ニ在リテハ東經百三十九度三十八分五十五秒北緯三十五度二十六分四十二秒
- 神戸ニ在リテハ東經百三十五度十一分四十一秒北緯三十四度四十分五十八秒
- 大阪ニ在リテハ東經百三十五度二十五分五十七秒北緯三十四度三十八分五十四秒
- 長崎ニ在リテハ東經百二十九度五十二分二十一秒北緯三十二度四十三分四十三秒
- 關門ニ在リテハ東經百三十度五十七分三十九秒北緯三十三度五十六分二十六秒
- 二 球ハ常ニ之ヲ橋ノ下部横桁上若ハ之ニ相當スル箇所ニ據置キ正午約五分前橋ノ上部横桁下ニ引揚ゲ正午降下セシム(降下シ始ムル瞬時ヲ以テ正午トス)
- 三 前項信號ニ過誤アリタルトキハ橋ノ横桁ニ國際信號旗Wヲ掲揚ス但シ此ノ場合長崎ニ在リテハ前項ノ方法ニ準ジ更ニ午後一時ニ信號ヲ執行ス

四 故障ニ依リ報時信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ橋ノ横桁ニ國際信號旗Dヲ掲揚ス

報時燈

- 一 報時燈ハ報時橋ニ隣接セル信號柱ニ裝置シ三箇ノ綠燈ヲ以テ三角形ヲ表示ス
- 二 報時燈ハ之ヲ午後九時約五分前ニ點燈シ引續キ約二分間反覆明滅シ其ノ後不動ト爲シ同九時零分消燈ス但シ不動點燈申午後八時五十八分同時五十九分ノ二回ニ豫備信號トシテ瞬時消燈ス
- 三 前項信號ニ過誤アリタルトキハ同燈ヲ午後九時零分十秒ヨリ三十秒間反覆明滅シタル後前項ノ方法ニ準ジ更ニ午後九時三十分ニ信號ヲ執行ス
- 四 故障ニ依リ報時信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ報時燈ヲ點燈セズ

開港港則施行規則第四十七條ノ規定ニ依ル氣壓示度信號ノ方法

(昭和十二年九月)
 遞信省告示第九百三十九號
 改正 昭和八年十一月
 遞信省告示第二千四百八十九號

- 一 氣壓示度ハ國際信號法ニ依リ當日正午時ニ於ケル海面氣壓ヲ表示ス
- 二 場所及時刻
 神戸ニ在リテハ神戸稅關港務部屋上ニ設備セル標柱ニ毎日(但シ日曜日及一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ除ク)午後零時十五分ヨリ同時三十分迄信號ヲ掲揚ス
 長崎ニ在リテハ長崎稅關港務部報時觀測所構内ノ報時橋ニ毎日午後零時十五分ヨリ同時三十分迄信號ヲ掲揚ス

開港々則施行規則第四十七條ノ規定ニ依ル氣壓示度信號ノ方法・開港港則施行規則第三十一條ノ四ノ規定ニ依ル横濱入港船舶ノ錨地信號

開港港則施行規則第二十一條ノ規定ニ依ル横濱入港船舶ノ錨地信號

(昭和十二年九月)
 遞信省告示第二千四十六號

錨地信號	信文
1	第一區内ニ錨泊
2	第二區内ニ錨泊
3	第三區内ニ錨泊
4	第四區内ニ錨泊
P	山下町棧橋ニ繫留
A	新港町岸壁一乃至四號ニ繫留
B	新港町岸壁五乃至八號ニ繫留
C	新港町岸壁九乃至十二號ニ繫留
T	高島町市棧橋ニ繫留
Y	山内町市横棧橋ニ繫留
M、A	瑞穂町A、B岸壁ニ繫留

第二條 前條ノ開港ハ二年間ノ輸出入貨物ノ價額五萬圓ニ達セザル場合又ハ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ政府之ヲ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ閉鎖ノ三月前其ノ時期ヲ公告スベシ

第三條 戰時又ハ事變ニ際シ政府必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ第一條ノ開港ヲ閉鎖スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ豫メ閉鎖ノ時期ヲ公告スベシ

附 則

本令ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス

橫濱、神戸、長崎港ニ開港則實施ノ件

(明治三十一年九月) 遞信省告示第二百三十一號

明治三十一年勅令第三百三十九號開港々則ハ來ル十月十日ヨリ橫濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルモノ内地不開港場ニ寄港スルコトヲ得ルノ件

(大正三年九月) 遞信省令第二十五號

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラル、モノハ陸海軍ノ必要ニ因リ内地ノ不開港場ニ寄港スルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

橫濱、神戸、長崎港ニ開港則實施ノ件・開港場則ヲ大阪港ニ施行ノ件・開港々則ヲ關門港ニ實施ノ件・朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルモノ内地不開港場ニ寄港スルコトヲ得ルノ件・東京港取締規則

開港港則ヲ大阪港ニ施行ノ件

(大正十年八月) 遞信省告示第千三百六十三號

本月二十日ヨリ明治三十一年勅令第三百三十九號開港々則ヲ大阪港ニ實施ス

開港港則ヲ關門港ニ實施ノ件

(昭和十五年六月) 遞信省告示第千六百五十八號

明治三十一年勅令第三百三十九號開港港則ハ昭和十五年七月一日ヨリ關門港ニ之ヲ實施ス

明治三十三年十一月遞信省告示第四百四十九號ハ之ヲ廢止ス

東京港取締規則

(大正十三年一月) 警視廳令第十號

改正 昭和五年十一月 警視廳令第三十九號

第一條 本令ニ於テ東京港ト稱スルハ月島三號地西端ト品川燈臺トヲ連結スル線及燈臺ヨリ南六十八度東(真方位)ニ引キタル一線以西ニ於テ同燈臺ヲ中心トシテ三海里ノ半徑ヲ以テ畫ケル弧ト永代橋、相生橋、京橋區高橋及同稻荷橋ニ依リ圍マル水域ヲ云フ

第二條 東京港ノ港内ヲ左ノ六區ニ別テ第一區乃至第四區ヲ内港、第五區及六區ヲ外港ト稱ス

第一區 石川島北端ト越中島北西端トヲ連ナル線ト相生橋トニ依リ圍マル水域

第二區 永代橋ヨリ月島三號地西端ニ至ル水域

第三區 月島三號地西端ヨリ品川燈臺ニ至ル濠標内ノ水域

第四區 品川燈臺南方濠標内ノ水域

第五區 品川燈臺南方東側濠標及其ノ延長線ノ東部水域

第六區 前各區以外ノ水域

第三條 左ノ船舶ニ對スル錨地ハ第五區トス
 一 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ積載セル船舶
 二 傳染病ノ疑アル患者若ハ病獸ノ發生シタル船舶
 第四條 休航船ノ錨地ハ第一區トス但シ東京水上署長（以下單ニ水上署長ト稱ス）ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 左ノ水域内ニ於テ碇泊スルコトヲ得ズ
 一（削除）

二 品川燈臺南方ノ兩側浮標延長線ニ依リ圍マルル第六區内ノ水域

第六條 内港ニ碇泊スル船舶ハ河岸又ハ浮標ニ接近シ單列ニ水流ニ沿ヒ船首尾ニ投錨若ハ繫止ヲ爲スベシ
 前項ノ船舶ノ水路ニ面スル舷側ニ横付ケスル船舶ハ單列ナルコトヲ要ス

水上署長ハ港内ノ狀況ニ依リ前二項ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ繫船又舢舨ノ横付ケヲ許可スルコトヲ得

第七條 總噸數百噸以上ノ汽船又ハ帆船ニシテ内港ニ入ラムトスルトキハ水上署長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クベシ
 前項以外ノ船舶ト雖水上署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ錨地ノ指定ヲ爲スコトヲ得

發届ノ提出ヲ免除ス

第十四條乃至第十七條（削除）

第十八條 内港ニ於テハ筏ハ汽船ニ曳カレ航行スベシ

第十九條 内港ニ於テハ帆船ハ縫航スベカラズ

第二十條（削除）

第二十一條（削除）

第二十二條 内港ニ於テ總噸數五百噸以上ノ船舶ノ旋回スルトキハ周圍ヨリ最モ見得易キ所ニ晝間ニ在リテハ直徑約二尺ノ黒球又ハ黒色形象一個ヲ夜間ニ在リテハ紅燈一箇ヲ掲グベシ

第二十三條（削除）

第二十四條（削除）

第二十五條 港内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サムトスルトキハ水上署長ノ許可ヲ受クベシ

- 一 船舶ニ積載セル竹木ヲ水上ニ下サムトスルトキ又ハ竹木ヲ水上ニ繫留セムトスルトキ
- 二 難破物又ハ沈没品ノ引上ヲ爲サムトスルトキ
- 三 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物品ヲ運搬陸揚又ハ船積セムトスルトキ
- 四 特設信號ヲ使用セムトスルトキ

東京港取締規則

海軍艦船艇ニシテ内港ニ碇泊セムトスルトキハ水上署長ノ指定ニ依リ其ノ錨地ヲ定ムベシ

第八條 錨地ノ指定ヲ受ケムトスル船舶ハ信號符字ヲ掲揚シ水上署長ノ指揮ヲ受クベシ

前項ノ船舶ニシテ日没後來著シタルトキハ外港ニ停船シ日出ヲ待ツベシ

第九條 天候其ノ他止ムヲ得ザル事由ニ依リ錨地ノ指定ヲ受ケズシテ碇泊シ又ハ指定セラレタル錨地ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨水上署長ニ届出ツベシ

第十條 水上署長ハ港内ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ航行ヲ禁止シ轉錨ヲ命ジ又ハ申請ニ依リ錨地ノ變更ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶其ノ錨地ニ到着シタルトキハ遲滞ナク別記様式ニ依リ著發届ヲ水上署長ニ提出スベシ

第十二條 前條ノ届出事項中發航豫定時日ヲ變更シタルトキハ其ノ旨水上署長ニ届出ツベシ

第十三條 定期船トシテ出入スル船舶ハ豫メ錨地ノ指定ヲ受クルコトヲ得
 前項ニ依リ豫メ錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ著

五 船舶ヲ進水セムトスルトキ

六 船舶ヲ休業齎裝又ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキ

第二十六條（削除）

第二十七條（削除）

第二十八條 船舶内ニ於テ傳染病ノ疑アル患者若ハ病獸發生シタルトキハ直ニ之ヲ水上署長ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クベシ

第二十九條 第三條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ前橋頭ニ夜間ハ紅燈一箇ヲ晝間ハ第一號ニ該當スルモノニ在リテハ萬國船舶信號旗Bヲ第二號ニ該當スルモノニ在リテハQヲ掲グベシ

第三十條 船舶ガ港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ號鐘ヲ亂打シ且晝間ハNMノ信號旗ヲ掲ゲ夜間ハ絶エズ紅燈ヲ上下スベシ

第三十一條（削除）

第三十二條（削除）

第三十三條 港内ニ於テハ遊船ノ徘徊、短艇ノ競漕又ハ游泳ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條 信號ヲ以テ錨地ヲ指定スルトキハ特定信號ニ依ル

東京水上警察署長宛

船長

前項ノ特定信號ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 本令及水上取締規則ニ定ムルモノノ外船舶ノ點燈、航方ノ信號ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル

第三十六條 本令ノ規定ニ違反シ若ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第三十七條 本令ノ施行期日ハ別ニ之ヲ定ム(大正十四年三月警視廳令第十二號ヲ以テ大正十四年四月一日ヨリ施行)

樣 式

著 發 屆

- 一、船舶ノ種類及名稱
- 一、船舶所有者
- 一、船籍 港
- 一、總噸數
- 一、積荷ノ種類及數量
- 一、發航地及發航ノ年月日
- 一、指定錨地及錨地著年月日
- 一、發航豫定時日及仕向地

名古屋港取締規則

(大正) 昭和十三年九月
愛知縣令第二十三號
愛知縣令第七十一號

第一章 總 則

第一條 明治四〇年勅令第三三三號名古屋港區域ヲ内港及外港ニ區分ス

内港ハ東西兩突堤ヲ以テ抱擁シタル水面ノ區域トス
外港ハ内港ニ屬セザル水面ノ區域トス

第二條 内港ヲ分テ航路及碇泊所トス

一 航路ハ添付圖面點線ノ區域トス(圖面ヲ略ス以下同シ)

二 碇泊所ハ之ヲ二區ニ分テ第一區ハ添付圖面鎖線ノ區域ニシテ總噸數五〇噸以上ノ汽船ノ碇泊所トシ第二區ハ第一區ノ區域外ニシテ總噸數五〇噸未満ノ汽船及帆船並雜種船ノ碇泊所トス

次ニ掲グル事項ニ該當スル場合ハ前項ニ依ラザルコトヲ得

- 一 港内ノ工事ニ從事スルトキ
 - 二 沈没品ノ引上ニ從事スルトキ
 - 三 遭難船舶ノ救助ニ從事スルトキ
 - 四 災害ノ爲運轉ノ自由ヲ得ザルトキ
- 前項各號ノ一ニ該當スル船舶航路内ニ碇泊若ハ停船中ハ海上衝突豫防法第四條第一項ニ依リ船燈又ハ形象ヲ掲ゲベシ

第八條 棧橋ハ鐵棧橋ノ全體及其ノ附屬器具ヲ總稱ス埠頭ハ張石全部建築物及其ノ地上物件ヲ總稱ス

第九條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル行爲ニシテ必要アリト認メタルトキハ縣ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ若ハ制限ヲ加ヘ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ズルコトアルベシ

本則若ハ許可ノ條件ニ違反シタル行爲ニ付テハ其ノ違反ニ因リテ生ジタル事實ヲ更生セシメ若ハ其ノ因リテ生ズル損害ヲ防グ爲必要ナル設備ヲ命ズルコトアルベシ

名古屋港取締規則

- 一 航 路
- 二 棧橋ノ附近
- 三 河口及濬筋

第三條 第二區碇泊所ニ碇泊スベキ船舶ハ特ニ棧橋長ノ許可ヲ受ケ揚荷若ハ積荷ヲ終ルマデ第一區碇泊所内ニ碇泊スルコトヲ得

第四條 第一區碇泊所ニ碇泊スベキ船舶ハ西突堤燈臺外ニ於テ棧橋長ヨリ碇泊場ノ指定ヲ受ケベシ

第一區碇泊所ニ碇泊ノ船舶ハ許可ヲ得ズシテ碇泊場ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ風波其ノ他ノ災害ノ爲メ避難セムトスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但シ書ノ事故止ミタルトキハ速ニ所定ノ位置ニ移錨スベシ

第五條 船舶輻輳ノ場合港内ノ秩序保持ノ爲メ必要ナルトキハ水上警察署ハ第二區碇泊所ニ碇泊スル船舶ニ對シ碇泊場ヲ指定スルコトアルベシ

第六條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ碇泊中ノ船舶ニ臨檢シ又ハ一時船舶ノ航行ヲ停止セシムルコトアルベシ

第七條 船舶ハ次ニ掲グル場所ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

第二章 港 灣 取 締

第十條 港内ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スベカラズ

- 一 標識浮標、立標、燈竿、燈臺、量水標、測量標、潛杭其ノ他ノ標杭、橋梁、運河堤塘、護岸、水剝、突堤等ニ船舶又ハ樺筏ノ類ヲ繫留シ及棧橋、繫船浮標ニ樺筏ノ類ヲ繫留スルコト
- 二 樺筏竹木ノ類ヲ放置スルコト
- 三 各種ノ浮標、立標、標杭ヲ破壊、汚損、變更、移轉又ハ遮蔽シ若ハ之ニ攀躋シ又ハ船舶、樺筏其ノ他ノ物ヲ衝突セシムルコト
- 四 石塊ノ類ヲ以テ錨ニ代用スルコト
- 五 荷足、竹木、金屬、土砂、瓦石、塵芥、灰燼、汚穢物ヲ放棄スルコト
- 六 傳染病患者ノ排泄物及之ニ接觸シタル衣類、器物若ハ之ヲ洗滌シタル汚水等ヲ投棄スルコト
- 七 突堤、護岸、堤塘及其等ノ捨石等ニ附著スル介藻ノ類ヲ採取スルコト但シ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラズ
- 八 船艇其ノ他船舶ノ葦漕ヲ爲スコト但シ水上警察署ノ

許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラズ

- 九 銃砲及煙火等ヲ發スルコト但シ祝砲及海上衝突豫防法ニ依リ信號ニ用ユル場合又ハ特ニ水上警察署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラズ
- 十 特ニ規定アル場合ヲ除ク外猥リニ汽笛ヲ吹鳴スルコト
- 十一 突堤及護岸上ニ於テ船舶及樺筏ヲ引曳スルコト
- 十二 突堤、護岸、堤塘及其等ノ法先十間以内ニ於テ掘鑿スルコト
- 十三 第七條第一項各號ノ場所及第一區碇泊所若ハ其ノ附近ニ於テ捕魚、採藻及引網等ヲ爲スコト
- 十四 樺筏繫留用棧橋ニ船舶ヲ繫留スルコト
- 第十一條 港内ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスルモノハ其ノ位置、方法、期限等ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ水上警察署ノ許可ヲ受クベシ
- 一 竹木ヲ立テ又ハ足場其ノ他一時ノ工作場ヲ設ケントスルコト
- 二 潜水機其ノ他機械類ヲ用ヒ沈没物件ヲ引揚ゲントスルコト
- 三 日本形二〇〇石積以上西洋形二〇噸以上ノ船舶ヲ進

水セントスルトキ

- 四 施餓鬼又ハ船行列ヲ爲サントスルトキ
- 五 船燈ヲ爲サントスルトキ
- 六 樺筏竹木ヲ一時繫留セントスルトキ
- 前項第一號及第六號ノ場合ハ其ノ所有者若ハ管理者ノ住所氏名ヲ記載シタル標札ヲ見易キ箇所ニ附著スベシ
- 第十二條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積載スル船舶ハ外港ニ碇泊スベシ但シ特ニ水上警察署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラズ
- 前項ノ船舶港内ニ碇泊又ハ航行スルトキハ晝間ニ在リテハBノ信號旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ前掲ニ掲グベシ
- 第十三條 内港ニ入港セントスル汽船ハ西突堤燈臺ニ出港セントスル汽船ハ築地燈臺ニ向ヒ晝間ニ在リテハ國旗及信號符字ヲ掲ゲ夜間ニ在リテハ汽笛長聲ヲ三發シ燈臺並低燈ヨリノ信號ニ依リ入港又ハ出港スベシ但シ總噸數五十噸以下ノ汽船第二區碇泊所ニ碇泊スルガ爲東突堤船通ヨリ入港又ハ出港スルモノハ此ノ限ニアラズ
- 西突堤燈臺ニ在リテハ次ノ信號ヲ爲スモノトス
- 一 出港船アリ又ハ航路ニ支障アルトキハ晝間ニ在リテ

ハ赤旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ掲グ

- 二 入港差支ナキトキハ晝間ニ在リテハ綠旗夜間ニ在リテハ綠燈ヲ掲グ
- 築地燈臺ニ在リテハ次ノ信號ヲ爲スモノトス
- 一 入港船アリ又ハ航路ニ支障アルトキハ晝間ニ在リテハ赤旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ掲グ
- 二 出港差支ナキトキハ晝間ニ在リテハ綠旗夜間ニ在リテハ綠燈ヲ掲グ
- 第十四條 前條ノ國旗及信號符字ハ汽船ノ著港ヲ水上警察署ニ届出タル後ニアラザレバ之ヲ引下スコトヲ得ズ
- 出港セントスル汽船ハ其ノ旨水上警察署ニ届出デ且出帆旗ヲ引揚グベシ
- 第十五條 入港セントスル船舶ハ「ヤード」ヲ旋回シ「デブーム」ヲ引入レ端艇ヲ取入ルベシ但シ他ノ船舶ノ障礙トナラザル場合ハ此ノ限ニアラズ
- 前項ノ船舶ハ船首兩錨及船尾ニ船舶ヲ止メ得ルニ足ル強力ナル大索ヲ結著シタル豫備錨ヲ用意スル等相當ノ準備ヲ爲スベシ
- 第十六條 船舶ハ第一區碇泊所ニ於テハ双錨ヲ投ジテ碇泊スベシ